

平成 2 7 年度
全国学力・学習状況調査報告書

～ 当別町における結果分析 ～

平成 2 7 年 1 1 月

当別町教育委員会

- 当別町教育委員会から -

【調査結果の概要】

平成27年度全国学力・学習状況調査は国語、算数・数学に3年ぶりとなる理科を加えた各5教科で実施されました。当別町の状況は、小学校、中学校ともに全教科で全国の平均正答率を下回る結果でした。しかしながら小学校算数Bと小学校理科では、全国平均正答率との差を大きく縮めるなど、改善の傾向も見られます。

当別町の大きな課題としては、下位層(全国の約25%)に属する児童生徒の割合が減少していないということがあげられます。当別町教育委員会では、こうした状況を厳しく受け止め、学校との連携を強め『知・徳・体』のバランスのとれた子どもの育成をめざしてまいりますので、皆様のご理解とご指導をよろしくお願いいたします。

具体的な取り組みについては、39頁以降の改善策をご覧ください。

【注意事項】

- 1 保護者の皆様には、本報告書と学校から配布される個人の個票をもとにお子様の学力や生活状況について、話し合いを深めていただき、今後の対応など、家庭での取り組みをお願いいたします。
- 2 本調査によってわかるのは学力の一部、学校の教育活動の一部であることにご留意ください。
- 3 本調査は、毎年の問題によって難易度に差が出ますし、受ける子どもも変わりますので、正答率だけでその学校全体の学力が上がったのか下がったのかの変化はわかりません。むしろ本調査後の学校改善プランなど、各学校の対応策に注目をしてください。

目 次

当別町における平成27年度全国学力・学習状況調査の実施概要

1 調査の目的	1
2 調査の対象学年	1
3 調査の内容	1
4 調査期日	1
5 調査を実施した学校・児童生徒数	1

小学校の分析

1) 学力調査

1 教科ごとの結果概要	3
2 教科ごとの平均正答率と平均正答数	3
3 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率	4
4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合	4
5 教科の改善策	4
6 各教科に関する調査結果	
国語A(知識)	5
国語B(活用)	6
算数A(知識)	7
算数B(活用)	8
理科	9

2) 学習状況調査(生活習慣・学習環境等)

生活習慣	10
家庭学習	11
自己理解、自尊意識、規範意識	12
学校生活、社会生活	13
学習、総合的な学習の時間	14
国語の学習	15
算数の学習	16
理科の学習	17
調査時間	18

中学校の分析

1) 学力調査

1 教科ごとの結果概要	19
2 教科ごとの平均正答率と平均正答数	19
3 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率	20
4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合	20
5 教科の改善策	20
6 各教科に関する調査結果	
国語A(知識)	21
国語B(活用)	22
数学A(知識)	23
数学B(活用)	24
理科	25

2) 学習状況調査（生活習慣・学習環境等）	
生活習慣	26
家庭学習	27
自己理解、自尊意識、規範意識	28
学校生活、社会生活	29
学習、総合的な学習の時間	30
国語の学習	31
数学の学習	32
理科の学習	33
調査時間	34
小学校から中学校への経年変化	
1 学力の経年変化	35
2 生活習慣、学習環境等の経年変化	36
教育委員会の改善方策	39
学力・生活習慣の向上に向けた取組	40

当別町における平成27年度全国学力・学習状況調査の実施概要

本調査結果は、「平成27年度全国学力・学習状況調査結果」に基づき、本町の小・中学校における現時点の明らかにすることができる学力及び学習状況について、調査結果の概要を掲載したものです。

- 1 調査の目的**
- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ウ 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

- 2 調査の対象学年**
- 小学校第6学年
 - 中学校第3学年

3 調査の内容

教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

主として「知識」に関する問題 【国語A、算数・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B、算数・数学B】
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等にかかわる内容

理科は平成24年度以来3年ぶりに実施。また、(A)と(B)を一体的に出題。

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況に関する調査

4 調査期日

平成27年4月21日(火)

5 調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	対象児童生徒数	参加児童生徒数	参加率
小学校	3	130人	124人	95.38%
中学校	3	155人	146人	94.19%
合計	6	285人	270人	94.73%

参加児童生徒数は、対象となる児童生徒数のうち、当日体調不良等により参加できなかった児童生徒を除く人数

小学校の分析

1) 学力調査

1 教科ごとの結果概要

【国語】

国語A・Bともに全国平均を下回る結果になりました。全国との比較では、平均正答率で - 6.5, - 6.8。平均正答数では - 0.9, - 0.6となっています。昨年度の結果と比較しても差が広がっている状況です。また、下位層(全国の約25%に含まれる割合)が全国比で + 16.5, + 11.2と一割を超えており、早急な対策が必要です。

国語Aの「話すこと・聞くこと」の領域で落ち込みが顕著です。相手の話を聞く際は、相手の話の目的や意図をとらえながら内容を十分に聞きとるとともに、取り上げられた内容について自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめるように指導することが大切です。目的や意図に応じて聞き方を工夫するためには、聞くことの学習の機会を意図的・計画的に設定して指導を行うことが重要です。

国語Aの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、全国平均を上回る設問があるなど、言語についての知識・理解・技能が身につくつとると推察されます。

国語Bの「読むこと」の領域で全国平均に近づいています。少しずつではありますが、読書活動の成果が窺えます。

【算数】

算数A・Bともに全国平均を下回る結果となりました。全国との比較では、平均正答率で - 7.6, - 4.0。平均正答数では - 1.2, - 0.6となっています。昨年度の結果と比較して算数Aでは差が広がりましたが、算数Bでは平均正答率で 4.9ポイント差を縮めるなど、向上が見られます。しかし、下位層(全国の約25%に含まれる割合)が全国比で + 15.4, + 5.5で算数Aでは全国より大幅に超えており、早急な対策が必要です。

算数Aの「数量関係」の領域で、昨年度よりも向上が見られました。また算数Bの「量と測定」の領域で、全国平均とほぼ同様の結果になるなど、昨年度より向上しています。

算数Aの「図形」の領域で落ち込みが顕著です。図形の学習で展開される作図や構成の指導において、構成する要素に着目し、図形のどのような約束や性質を用いるかを確認することは、図形の約束や性質についての理解を深めるうえで大切です。また、日常生活の事象から図形を見出し、図形の約束や性質と関連付けて考えることで、日常生活と図形の関連について関心を高めることが大切です。

算数Bでは、評価の観点から「数量や図形についての技能・知識・理解」の領域で全国平均を上回るなど、図形を用いた授業の工夫改善が図られたものと推測されます。

【理科】

理科は全国平均を下回る結果になりました。全国との比較では平均正答率で - 2.7、平均正答数では - 0.7となりましたが、平成24年度の結果より全国平均で3.8ポイント縮めるなど、学力の向上が見られます。

無回答率が5%以上の問題が24問中、2問でととも少なく、総合的に学力は改善されつつあると推測します。

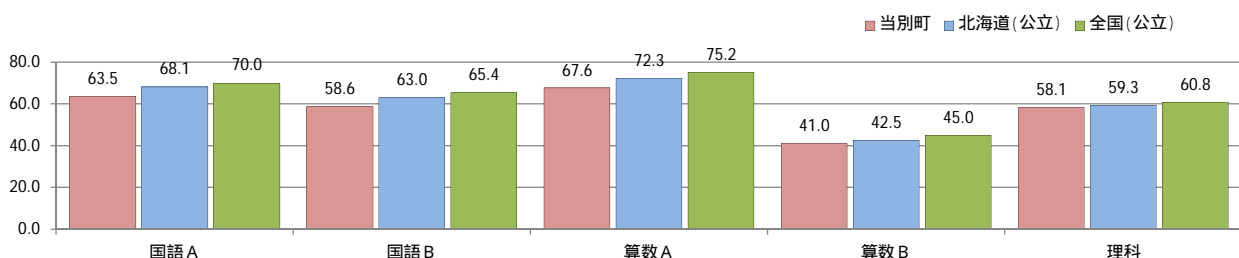
2 教科ごとの平均正答率と平均正答数

理科は差は平成24年度実績

	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答率	平均正答数と問題数	平均正答率	平均正答数と問題数	平均正答率	平均正答数と問題数	平均正答率	平均正答数と問題数	平均正答率	平均正答数と問題数
当別町	63.5	(8.9/14)	58.6	(5.3/9)	67.6	(10.8/16)	41.0	(5.3/13)	58.1	(13.9/24)
北海道(公立)	68.1	(9.5/14)	63.0	(5.7/9)	72.3	(11.6/16)	42.5	(5.5/13)	59.3	(14.2/24)
全国(公立)	70.0	(9.8/14)	65.4	(5.9/9)	75.2	(12.0/16)	45.0	(5.9/13)	60.8	(14.6/24)
全国との差	6.5	(-0.9/14)	6.8	(-0.6/9)	7.6	(-1.2/16)	4.0	(-0.6/13)	2.7	(-0.7/24)
昨年度の全国との差	4.8	(-0.7/15)	6.1	(-0.6/10)	5.0	(-0.9/17)	8.9	(-1.2/13)	6.5	(-1.5/24)
差の比較	1.7		0.7		2.6		4.9		3.8	

()内の平均正答数と問題数欄は分子が平均正答数で、分母が問題数として記載。

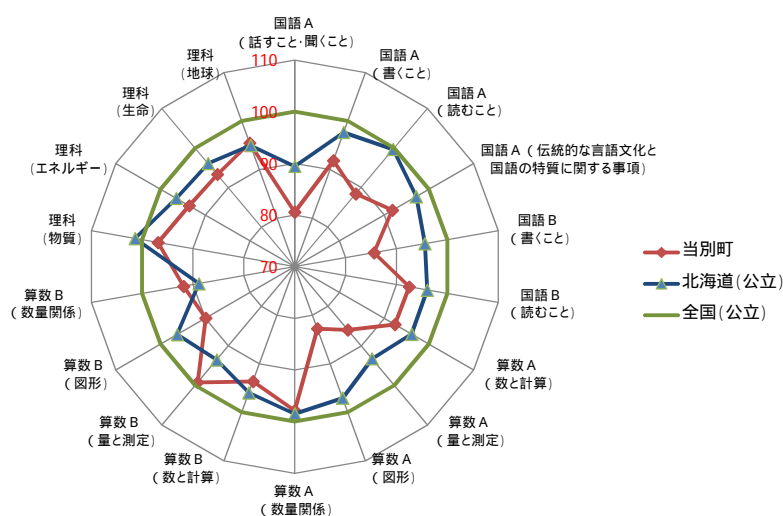
平均正答率…平均正答数を百分率で表示。国語A、国語B、算数A、算数B、理科ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。



3 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率

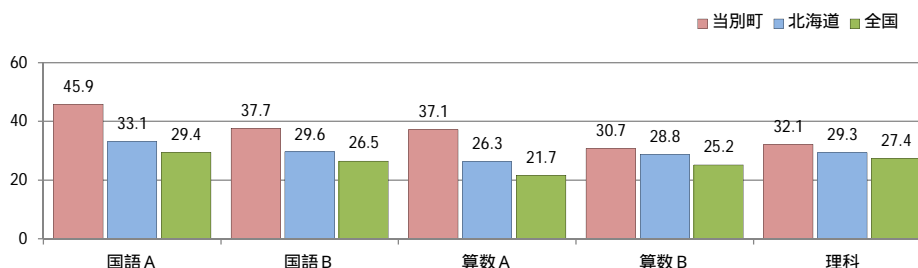
	国語A (話すこと・聞くこと)	国語A (書くこと)	国語A (読むこと)	国語A (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	国語B (書くこと)	国語B (読むこと)	算数A (数と計算)	算数A (量と測定)	算数A (図形)	算数A (数量関係)	算数B (数と計算)	算数B (量と測定)	算数B (図形)	算数B (数量関係)	理科 (物質)	理科 (エネルギー)	理科 (生命)	理科 (地球)
問題数	1/14	1/14	4/14	9/14	6/9	6/9	7/16	3/16	4/16	2/16	4/13	3/13	7/13	3/13	7/24	6/24	6/24	7/24
当別町	80.6	91.9	88.4	91.8	85.6	92.5	92.4	86.0	82.8	97.9	93.6	99.3	89.9	91.9	96.9	93.6	93.3	95.5
北海道(公立)	89.4	97.7	99.6	97.2	95.6	96.0	96.1	93.3	97.1	98.5	96.0	93.5	96.3	88.8	101.4	96.5	96.1	95.0
全国(公立)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

教科の領域別に全国を100とした場合の状況をレーダーチャートで示したものです。
(当別町児童の平均正答率 ÷ 全国(公立)の平均正答率 × 100で算出)



4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合	国語A			国語B			算数A			算数B			理科		
	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国
	45.9%	33.1%	29.4%	37.7%	29.6%	26.5%	37.1%	26.3%	21.7%	30.7%	28.8%	25.2%	32.1%	29.3%	27.4%
	14問中8問以下			9問中4問以下			16問中9問以下			13問中3問以下			24問中11問以下		
全国との差	16.5%		多い	11.2%		多い	15.4%		多い	5.5%		多い	4.7%		多い



5 教科の改善策

国語では、マス目に正確に「字」を書く。止め、はね、はらい、おさえ等をしっかりと理解して漢字を書く。ノートの行にはみ出さず、また、小さくなりすぎずに正しい意味を持った漢字(同音異義語)を書くことが大切です。

算数では、計算の位をそろえてノートに書く。間違ったところを消さずにその横に訂正して書き、後から見てわかるように工夫するなど、ノート指導が大切です。

低学年・中学年・高学年などの発達段階を抑えてながら各学校で取り組んでいる学習規律やノート指導、板書の工夫、習熟度別指導やTT指導の工夫改善、ICT活用などの授業力改善の取り組みを、一層強化して取り組むこと(凡事徹底)が「無解答の解消」「基礎学力の定着」に効果が上がるものと考えます。

6 各教科に関する調査結果

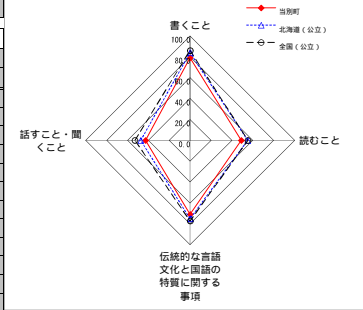
小学校 [国語A：主として知識]

国語Aの学力調査では、当別町児童の平均正答率が63.5%で、全国平均の70.0%より6.5ポイント下回りました。昨年度の全国と当別町の差が-4.8ポイントで、1.7ポイント差が広がる結果になりました。
 指導要領の「話すこと・聞くこと」の領域や、評価の観点からも「話す・聞く能力」が全国より低い傾向が見られます。
 漢字を読む・書く問題では、全国・全道より平均正答率が高い設問があり、学習の成果が見られています。

集計結果

対象児童数		当別町 124	北海道(公立) 42,068	全国(公立) 1,061,264	
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
全体		14	63.5	68.1	70.0
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	42.7	47.4	53.0
	書くこと	1	79.0	84.0	86.0
	読むこと	4	48.8	55.0	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9	70.9	75.0	77.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	1	42.7	47.4	53.0
	書く能力	1	79.0	84.0	86.0
	読む能力	4	48.8	55.0	55.2
問題形式	言語についての知識・理解・技能	9	70.9	75.0	77.2
	選択式	7	57.8	63.7	66.4
	短答式	7	69.1	72.5	73.7
	記述式	0			

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)				
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)	全国(公立)
1-1	漢字を読む (友人を家に招く)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			5-6 (1)ウ (ア)										92.4	97.3	97.5	0.0	0.6	0.7
1-2	漢字を読む (自分の信念をつらぬく)				5-6 (1)ウ (ア)										96.0	96.3	96.0	0.0	0.8	0.9
1-3	漢字を読む (全員がすぐに承知した)				5-6 (1)ウ (ア)										93.5	91.2	92.5	0.8	3.0	2.5
1-2-1	漢字を書く (シャワーをあげる)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く			5-6 (1)ウ (ア)										31.5	57.2	58.4	(40.3)	19.0	17.2
1-2-2	漢字を書く (鳥の姿を観察する)				5-6 (1)ウ (ア)										75.8	73.8	76.5	(6.5)	8.0	5.7
1-2-3	漢字を書く (びょういんに行く)				5-6 (1)ウ (ア)										71.0	69.3	74.9	(7.3)	7.1	4.7
2-1	文の主語として適切なものを選択する	文の中における主語を捉える			1-2 (1)イ (ア)										42.7	47.8	53.1	0.0	0.6	0.6
2-2	文の型として適切なものを選択する	文を構成する主語と述語との照応関係を捉える			3-4 (1)イ (ホ)										62.9	68.5	71.7	0.8	0.5	0.5
3	聞き方の説明として適切なものを選択する	話の内容に対する聞き方を工夫する	5-6 エ												42.7	47.4	53.0	0.0	0.5	0.5
4	説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する	具体的な事例を挙げて説明する文章を書く	3-4 ウ												79.0	84.0	86.0	0.0	0.3	0.3
5-1	コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまともな文章を選択する	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える			5-6 ウ										51.6	57.9	59.5	0.8	1.6	1.6
5-2	コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く					5-6 ウ									17.7	22.2	19.8	(7.3)	7.9	7.7
6	登場人物の関係についての説明として適切なものを選択する	登場人物の相互関係を捉える			5-6 エ										59.7	66.1	67.5	2.4	2.5	2.6
7	応募のきまりを守っていないものを選択する	作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る	5-6 イ		3-4 (1)イ (ア)										66.1	74.0	73.9	(6.5)	4.2	4.3

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
 無回答率の()書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	3 / 14問
平均正答率が全道以上の設問数	4 / 14問
無回答率が5%以上の設問数	5 / 14問

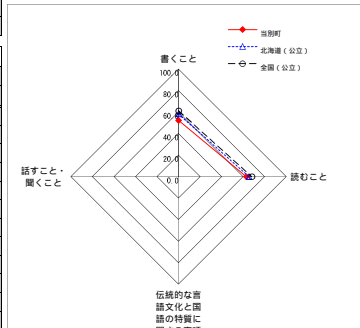
小学校 [国語B：主として活用]

国語Bの学力調査では、当別町児童の平均正答率が58.6%で、全国平均の65.4%より6.8ポイント下回りました。昨年度の全国と当別町の差が-6.1ポイントで、0.7ポイント差が広がりました。「読むこと」の領域、「読む能力」の観点で、昨年度より全国との差を縮めています。

集計結果

対象児童数		当別町 124	北海道(公立) 42,050	全国(公立) 1,061,093	
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
全体		9	58.6	63.0	65.4
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	6	52.3	58.4	61.1
	読むこと	6	63.0	65.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	47.0	52.1	55.4
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	6	52.3	58.4	61.1
	読む能力	6	63.0	65.4	68.1
問題形式	言語についての知識・理解・技能	0			
	選択式	3	61.6	66.7	68.6
	短答式	2	77.4	79.3	80.8
	記述式	4	47.0	52.1	55.4

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町
1一	新聞の割り付けとして適切なものを選択する	目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする	5-6 イ										64.5	72.8	74.6	0.0	0.6	0.5
1二	見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける	5-6 ウ										61.3	69.0	70.8	0.0	0.7	0.6
1三	【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く	5-6 ウ										23.4	33.1	34.7	4.0	5.0	4.0
2一ア	【ア】に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く	目的に応じ、中心となる語や文を捉える		3-4 イ									71.0	74.3	75.5	4.0	4.3	3.6
2一イ	【イ】に入る言葉として適切な内容を書き抜く			3-4 イ									83.9	84.3	86.0	(7.3)	6.6	5.6
2二	【文章】の要旨をまとめて書く	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える	5-6 ウ	5-6 ウ									76.6	77.0	78.4	(6.5)	8.3	7.0
2三	楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く	文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く	5-6 エ	5-6 ウ									31.5	37.7	41.6	(10.5)	12.0	8.7
3一	絵3の場面が始まるままとりとして適切なものを選択する	登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える		3-4 ウ									58.9	58.2	60.4	(8.9)	10.5	9.7
3二	声に出して読むときの工夫とその理由を書く	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する	5-6 ウ	3-4 ア									56.5	60.6	66.6	(16.1)	19.3	15.1

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
無回答率の()書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	0 / 9問
平均正答率が全道以上の設問数	1 / 9問
無回答率が5%以上の設問数	5 / 9問

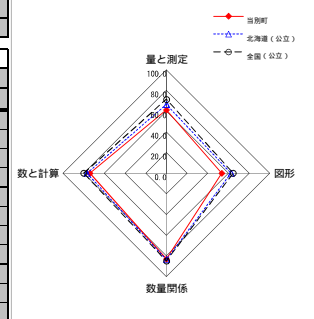
小学校 [算数A：主として知識]

算数Aの学力調査では、当別町児童の平均正答率が67.6%で、全国平均の75.2%より7.6ポイント下回りました。昨年度の全国と当別町の差が-5ポイントで、2.6ポイント差が広がりました。「数量関係」の領域で、昨年度より全国との差を縮めています。「図形」の領域では、全国平均との差が広がる結果になりました。

集計結果

対象児童数		当別町	北海道(公立)	全国(公立)	
		124	42,065	1,061,301	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域	全体	16	67.6	72.3	75.2
	数と計算	7	74.0	77.0	80.1
	量と測定	3	61.3	66.5	71.3
	図形	4	53.4	62.6	64.5
	数量関係	2	83.1	83.6	84.9
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	7	70.4	72.9	77.2
	数量や図形についての知識・理解	9	65.4	71.7	73.6
問題形式	選択式	5	59.5	68.3	70.5
	短答式	11	71.3	74.1	77.3
	記述式	0			

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					問題形式			正答率(%)			無解答率(%)				
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)	全国(公立)		
1(1)	8.9 - 0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ	小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができる	4A(2)アウ										59.7	69.4	71.0	1.6	0.6	0.6
1(2)	5.21 + 0.7は0.01が何個集まった数かを表すための式として、ふさわしい数値の組み合わせを書く	単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すことができる	4A(2)アウ										62.9	70.5	74.3	1.6	1.4	1.1
1(3)	小数の加法の結果を、減法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	加法における計算の確かめの方法を理解している	2A(2)ウ										82.3	82.1	82.0	0.8	2.1	2.0
2(1)	28 + 72を計算する	繰り上がりのある2位数の加法の計算をすることができる	2A(2)ア										97.6	98.2	98.2	0.0	0.2	0.2
2(2)	6.79 - 0.8を計算する	末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができる	4A(5)イ										60.5	68.5	69.5	1.6	0.8	0.7
2(3)	5/9 - 1/4を計算する	異分母の分数の減法の計算をすることができる	5A(4)ア										80.6	77.6	81.4	0.8	2.5	1.8
2(4)	5/6 ÷ 7を計算する	除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができる	5A(4)ア										74.2	72.7	84.2	(6.5)	9.6	4.1
3	午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める	日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる	3B(3)イ										75.8	71.7	74.8	0.8	1.5	1.0
4(1)	90°, 180°, 270°, 360°を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ	180°よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができる	4B(2)アイ										66.9	76.5	81.3	0.0	0.4	0.3
4(2)	分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる	4B(2)アイ										41.1	51.4	58.0	0.0	0.6	0.5
5(1)	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ	示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することができる	3C(1)アウ										33.9	48.9	50.6	3.2	2.0	1.6
5(2)	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の、角の大きさを求める	円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる	3C(1)アウ										60.5	62.2	64.5	3.2	3.2	2.4
6(1)	作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面の長方形の縦と横の辺の長さを書く	示された見取図の情報に基づき、展開図に必要な面の大きさを読み取ることができる	2C(1)ウ										67.7	73.6	75.4	2.4	2.7	2.1
6(2)	作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ	見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解している	2C(1)ウ										51.6	65.6	67.6	(5.6)	3.8	3.4
7	ハンカチを5日間持ってきた人数が、学年全体の人数の半分より少ない学年は、4年生だけであることを示しているグラフを選ぶ	グラフに表されている事柄を読み取るることができる	3D(3)アウ										85.5	80.9	81.8	2.4	2.8	2.3
8	を並べた図を基に式を読み、数に対応するを黒く塗る	式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができる	3D(3)アウ										80.6	86.2	88.1	(7.3)	5.5	4.6

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の斜線は、平均正答率が全国以上のもの
 無解答率の()書きは無解答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	3 / 16問
平均正答率が全国以上の設問数	5 / 16問
無解答率が5%以上の設問数	3 / 16問

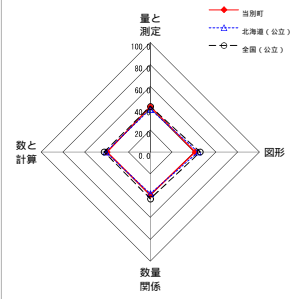
小学校 [算数B：主として活用]

算数Bの学力調査では、当別町児童の平均正答率が41.0%で、全国平均の45.0%より4ポイント下回りました。昨年度の全国と当別町の差は-8.9ポイントで、4.9ポイント差を縮めました。
 「量と測定」「数量関係」の領域で全道より上回り、評価の観点では「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」で全国平均より上回るなど、改善が見られます。

集計結果

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

対象児童数		当別町	北海道(公立)	全国(公立)	
		124	42,041	1,061,063	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域	全体	13	41.0	42.5	45.0
	数と計算	4	39.7	40.7	42.4
	量と測定	3	41.4	39.0	41.7
	図形	7	41.0	43.9	45.6
	数量関係	3	39.5	38.2	43.0
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	9	28.8	32.3	35.3
	数量や図形についての技能	2	61.7	55.4	58.7
	数量や図形についての知識・理解	2	75.4	75.0	74.9
問題形式	選択式	3	69.4	70.2	70.6
	短答式	5	41.0	39.2	42.2
	記述式	5	24.0	29.0	32.5



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町
1(1)	平行四辺形を構成することができる、四つの辺の組み合わせを選ぶ	平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している			4C(1)イ							94.4	94.6	95.2	0.0	0.1	0.1
1(2)	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している			4C(1)アイ							56.5	55.4	54.6	1.6	1.3	1.0
1(3)	二組の道のりが、それぞれ等しくなることを書く	示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述できる			4C(1)アイ							21.0	24.7	27.7	(20.2)	18.4	14.3
2(1)	トマトを7個買うとき、最も安く買える方を選び、そのときの代金を書く	単位置当たりの大きさをを用いて、目的に応じた買物の仕方を選択し、代金を求めることができる	5B(4)ア		4D(2)ア							72.6	61.0	64.8	0.0	0.4	0.3
2(2)	20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く	示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる			5D(3)							12.1	8.9	13.1	(7.3)	5.8	4.5
2(3)	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述できる			5D(3)							33.9	44.7	51.0	(18.5)	16.2	12.8
3(1)	周の長さが2.4mの正三角形を巻き尺でつくるために、それぞれこの目盛りのところを持ってばよいかを書く	正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることができる	3A(4)ア 5A(1)イ		3C(1)ア							31.5	32.7	32.5	(7.3)	8.8	6.7
3(2)	合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、アの角が30°になるわけを書く	正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、アの角が30°になる理由を記述できる			3C(1)アイ 5C(1)イウ							32.3	43.7	49.1	(28.2)	25.2	18.9
4(1)	四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く	四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる	4A(2)アイ									50.8	49.9	52.6	1.6	3.0	2.4
4(2)	切り上げて計算した結果が10000であることから分かることを選ぶ	切り上げた場合の見積りの結果を基に、目標に達しているかについて判断できる	4A(2)アウ									57.3	60.5	62.0	3.2	4.5	3.9
4(3)	目標に達するには、12月に3000個のキャップを集めればよいわけを書く	概数を用いた見積りの結果とそれに基づき判断を理解し、3000個集めればよい理由を記述できる	4A(2)アイウ									19.4	19.8	22.3	(18.5)	19.1	15.3
5(1)	示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く	長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる	4B(1)アイ 5B(1)ア		2C(1)イ 4C(1)イ 5C(1)イ							13.7	12.2	12.5	(29.8)	26.7	21.0
5(2)	示された図形の色がついた部分の面積を求める	条件を変更した場面に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることができる	4B(1)アイ 5B(1)ア		2C(1)イ 4C(1)イ 5C(1)イ							37.9	43.8	47.8	(24.2)	21.4	17.3

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
 無回答率の()書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	3 / 13問
平均正答率が全道以上の設問数	5 / 13問
無回答率が5%以上の設問数	8 / 13問

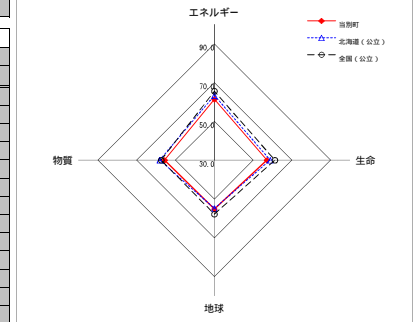
小学校 [理科]

理科の学力調査では、当別町児童の平均正答率が58.1%で、全国平均の60.8%より2.7ポイント下回りました。平成24年度の全国と当別町の差は-6.5ポイントで、3.8ポイント差を縮めました。
無回答率が5%を超える問題は24問中、全国は3問で、当別町は2問と全国より少ない結果になりました。

集計結果

< 学習指導要領の領域の平均正答率の状況 >

対象児童数		当別町	北海道(公立)	全国(公立)	
		124	42,049	1,060,792	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
全体		24	58.1	59.3	60.8
枠組み	主として「知識」に関する問題	9	60.8	61.1	61.3
	主として「活用」に関する問題	15	56.5	58.2	60.5
学習指導要領の区分等	A区分	7	55.6	58.2	57.4
	物質	6	61.4	63.3	65.6
	エネルギー	6	57.1	58.8	61.2
	B区分	7	55.2	54.9	57.8
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	0			
	科学的な思考・表現	15	56.5	58.2	60.5
	観察・実験の技能	5	54.0	56.5	55.5
	自然事象についての知識・理解	4	60.4	66.7	68.6
問題形式	選択式	18	61.0	61.1	62.9
	拒答式	3	62.1	66.0	63.6
	記述式	3	36.8	42.0	45.3



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

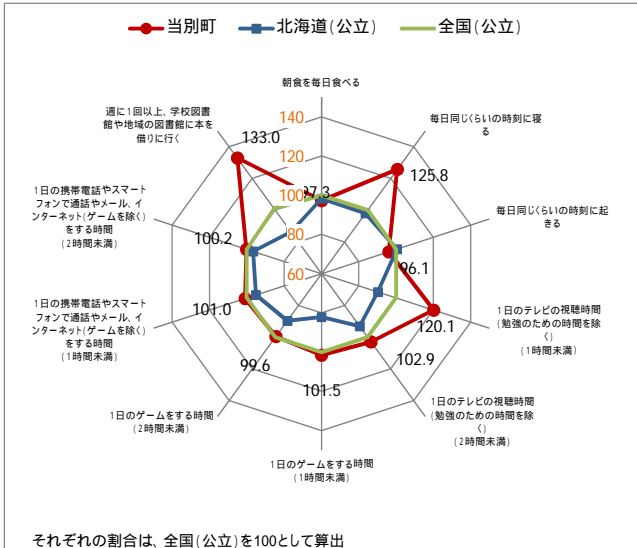
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み	学習指導要領の区分等				評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)									
				主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	A区分	B区分			自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式	拒答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)	全国(公立)
						物質	エネルギー															
1(1)	振り子が1往復する時間を変える要因を調べるため適切に条件を変えた振り子を選ぶ	振り子時計の調整の仕方を変えるための実験について、条件を制御しながら構想できる			5A(2)ア								76.6	76.9	77.6	0.0	0.2	0.2				
1(2)	振り子時計の軸を調整する内容を選ぶ	振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適用できる			5A(2)ア								53.2	55.9	61.2	1.6	0.7	0.7				
1(3)	振り子時計の軸に用いる適切な金属を選び、選んだわけを書く	熱膨張が小さい金属について、グラフを基に考察して分析した内容を記述できる			4A(2)ア	5A(2)ア							55.6	60.7	62.8	0.0	1.2	1.1				
1(4)	電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選ぶ	電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用できる			3A(4)イ	5A(2)ア							46.8	51.3	53.2	1.6	1.6	1.3				
1(5)ア	電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ	電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できる			4A(3)ア	5A(3)イ							71.0	70.5	72.7	0.0	1.0	0.9				
1(5)イ					4A(3)ア	5A(3)イ							66.3	64.6	66.2	0.0	1.1	1.0				
2(1)	メダカのめずとあすを見分けるための観察する部分を選ぶ	メダカの雌雄を見分ける方法を理解している			5B(2)ア								86.3	74.9	78.0	0.8	0.4	0.3				
2(2)よし	生物の成長に必要な養分のとり方について、仲間分けした観点を選ぶ	生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析できる			5B(2)ア	イウ							64.5	73.6	76.3	0.0	0.7	0.6				
2(2)ひるし					5B(1)ア	イウ							66.9	68.6	69.0	0.0	0.8	0.8				
2(3)	示された器具(顕微鏡)の名称を書く	顕微鏡の名称を理解している			5B(2)イ								54.0	58.5	61.6	(8.1)	17.2	16.1				
2(4)	顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ	顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている			5B(2)イ								33.9	36.2	37.9	0.0	1.0	1.0				
2(5)	インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだわけを書く	植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述できる			5B(1)ウ	3B(3)ア							37.1	41.0	44.2	0.8	3.1	2.8				
3(1)	水蒸気の状態の説明として当てはまるものを選ぶ	水蒸気は水が気体になったものであることを理解している			4A(2)ウ								87.9	82.7	81.9	0.0	0.6	0.5				
3(2)	水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ	予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想できる			4A(2)イ								49.2	52.3	54.0	0.8	0.7	0.7				
3(3)	水の温まり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶ	水の温まり方を考察するために、実験結果を基に自分の考えを改善できる			4A(2)イ								50.0	51.7	51.7	0.8	1.3	1.1				
3(4)	示された器具(メスシリンダー)の名称を書く	メスシリンダーの名称を理解している			5A(1)イ								83.1	82.7	70.7	2.4	6.9	10.7				
3(5)	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身に付けている			5A(1)イ								46.0	53.3	51.7	0.8	2.9	2.9				
3(6)	水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く	析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できる			5A(1)イ								17.7	24.3	28.9	3.2	6.4	5.7				
4(1)	方位についての情報から、観察している方位を選ぶ	方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できる			4B(4)アウ								44.4	36.6	41.0	2.4	2.4	2.0				
4(2)	夕方にみられる月の形と場所を選ぶ	月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解している			4B(4)ア								54.0	52.6	56.1	4.8	2.4	2.0				
4(3)	星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ	星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身に付けている			4B(4)ウ								53.2	52.0	55.3	2.4	2.6	2.2				
4(4)	観察した星座や雲の動きを選ぶ	星座や雲の動きについて、観察した記録を基に考察して分析できる			4B(4)ウ								62.1	62.6	65.0	3.2	3.4	3.0				
4(5)	水が水蒸気になる現象について、その名称を書く	水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解している			4B(3)イ								49.2	56.8	58.5	(16.9)	16.1	15.2				
4(6)	地面に水をまいたときの地面の様子と温度変化について、実験結果から考える内容を選ぶ	打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析できる			4B(3)イ								86.3	82.9	84.2	4.0	4.6	4.2				

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
無回答率の()書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	5 / 24問
平均正答率が全道以上の設問数	9 / 24問
無回答率が5%以上の設問数	2 / 24問

2) 学習状況調査(生活習慣・学習環境等)

小学校:生活習慣



【生活習慣】

就寝・起床時刻や朝食摂取など、好ましい生活習慣はほぼ確立されていると考えられます。「朝食を毎日食べていない・あまり食べていない」と回答した児童の割合は5.6%で、全国平均や本町の中学生より多い状況が懸念され、改善されるよう指導が必要です。

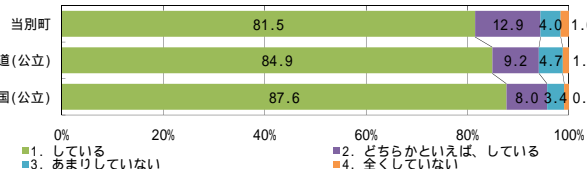
テレビやビデオ・DVD等の視聴時間、ゲーム等で遊ぶ時間、携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットの使用時間が昨年度より減少し、家庭での決まりごとを守っている状況が窺えます。

スマートフォンの保有率は、全国的にも増加傾向にあり、使用方法など、家庭内で適切な約束事を作ってもらうよう、引き続き「家庭教育の手引き」を配布し、働きかけていく必要があります。

平日、1時間以上読書する児童の割合が全国より多い状況です。家庭での読書習慣の定着が窺えます。

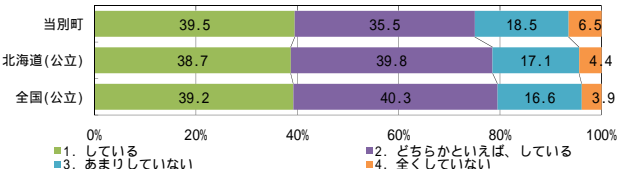
家の人と学校での出来事について話す割合は、全国より多いです。学校、家庭、地域が連携した取り組みが、家庭での教育への関心度が高いと推測されます。

「朝食を毎日食べている」



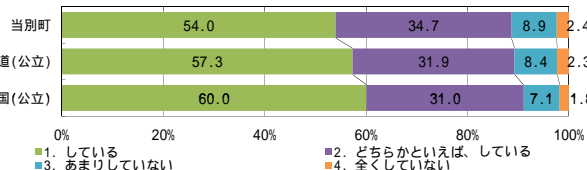
【生活】「朝食を毎日食べている」「どちらかといえば食べている」と答えた児童の割合は94.4%で、全国より1.2ポイント少なく、昨年度より0.6ポイント減少している。

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」



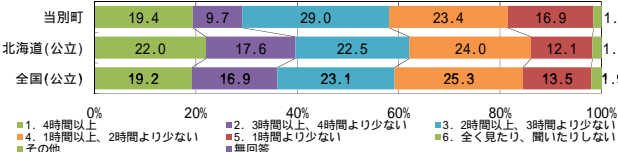
【生活】「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「どちらかといえば寝ている」と答えた児童の割合は75.0%で、全国より4.5ポイント少なく、昨年度より2.0ポイント増加している。

「毎日、同じくらいの時刻に起きている」



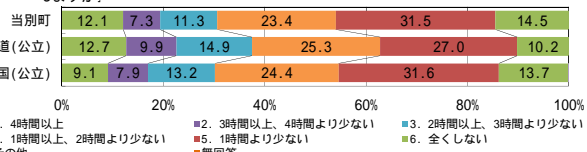
【生活】「毎日同じくらいの時刻に起きている」「どちらかといえば起きている」と答えた児童の割合は88.7%で、全国より2.3ポイント少なく、昨年度より2.8ポイント減少している。

「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)」



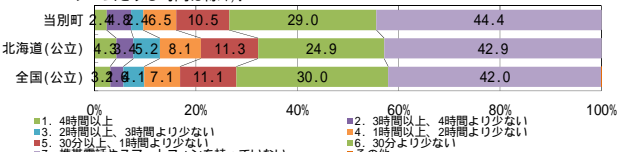
【生活】テレビやビデオ・DVD等の視聴時間が「2時間以上」と答えた児童の割合は58.1%で、全国より1.1ポイント少なく、昨年度より2.8ポイント減少している。

「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」



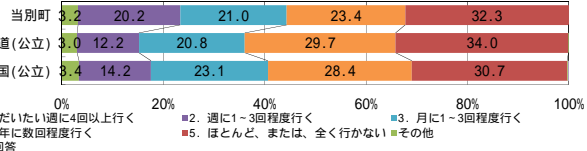
【生活】ゲーム等で遊ぶ時間が「2時間以上」と答えた児童の割合は30.7%で、全国より0.5ポイント多く、昨年度より6.8ポイント減少している。

「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)」



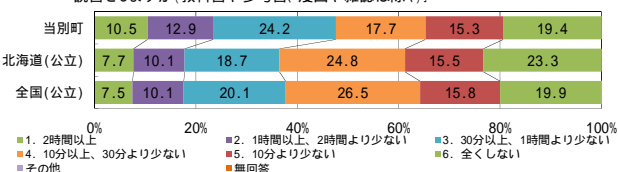
【生活】インターネット等の使用時間が「2時間以上」と答えた児童の割合は、児童の割合は9.6%で、全国より0.2ポイント少なく、昨年度より4.6ポイント減少している。「携帯電話、スマートフォンを持っていない」児童の割合は、44.4%で昨年度より1.1ポイント増加している。

「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」



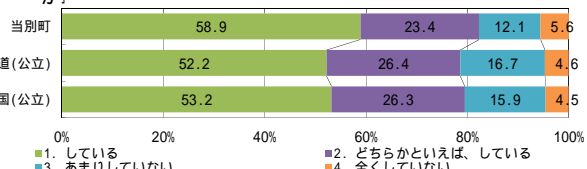
【生活】本を借りに学校図書館や地域の図書館へ「週1回以上、行く」と答えた児童の割合は44.4%で、全国より3.7ポイント多く、前年度からは14.0ポイント増加している。

「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」



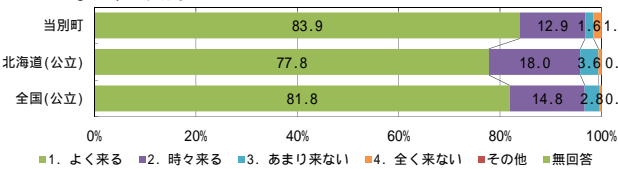
【生活】授業時間以外の普段に本を「1時間以上、読む」と答えた児童の割合は23.4%で全国より5.8ポイント多く、前年度からは5.0ポイント増加している。

「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」



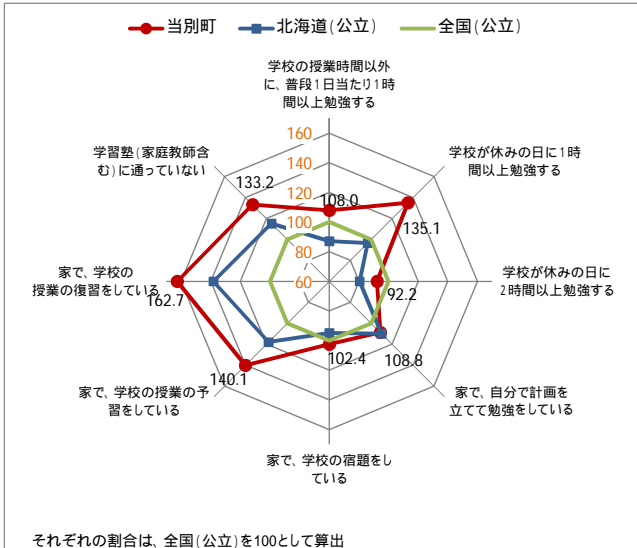
【生活】「普段、学校での出来事について家の人と話をしている」「どちらかといえば話している」と答えた児童の割合は82.3%で、全国より2.8ポイント多く、昨年度より2.2ポイント増加している。

「家の人(兄弟姉妹を除く)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」



【生活】「家の人は、授業参観や運動会などの学校の行事によく来る」と答えた児童の割合は83.9%で全国より2.1ポイント多く、前年度より1.6ポイント増加している。

小学校:家庭学習

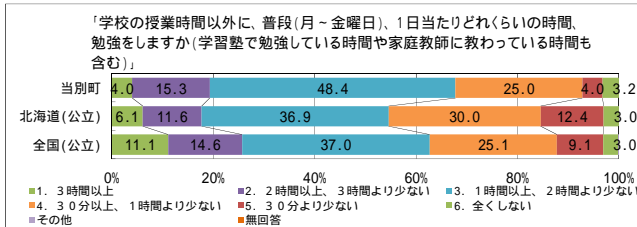


【家庭学習】

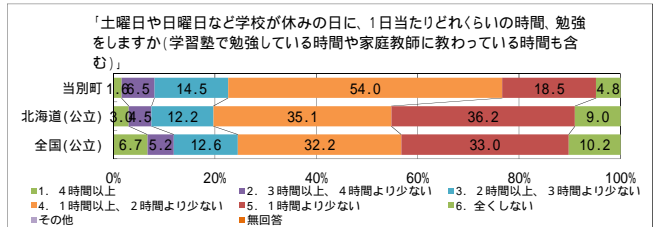
平日も休日も家庭学習を1時間以上取り組んでいる児童の割合は、全国平均より上回り、昨年度と比較しても改善が見られます。

家庭学習の内容は、「自分で計画を立てて進める」「宿題」や「復習」を中心に取り組んでおり、昨年度から大幅に改善されています。学校における家庭学習の指導や適切な宿題の出し方により、家庭学習が習慣化され、徐々に数値になって表れてきていると推測されます。

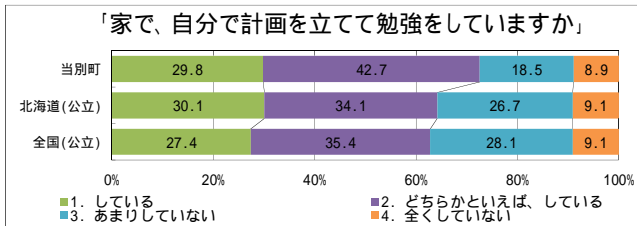
児童の約30%は、学習塾や家庭教師を活用していますが、全国平均より少なく、昨年度より減少しています。



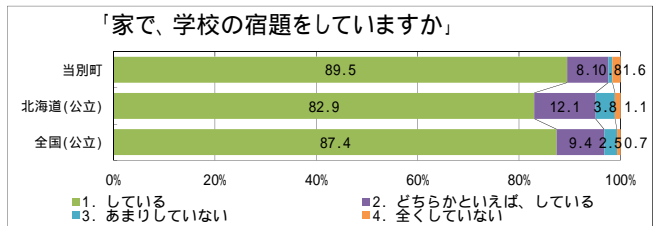
【家庭学習】普段の家庭で「1時間以上、勉強する」と答えた児童の割合は67.7%で、全国より5.0ポイント多く、昨年度より24.5ポイント増加している。



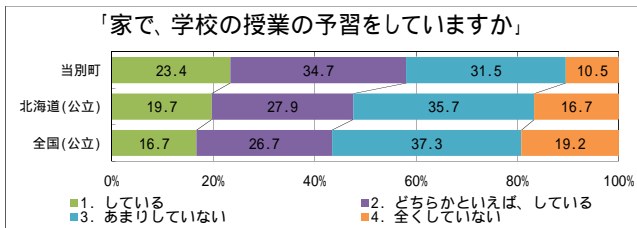
【家庭学習】土、日曜日など学校が休みの日に、「1時間以上、勉強する」と答えた児童の割合は76.6%で、全国より19.9ポイント多く、昨年度より25.6ポイント増加している。



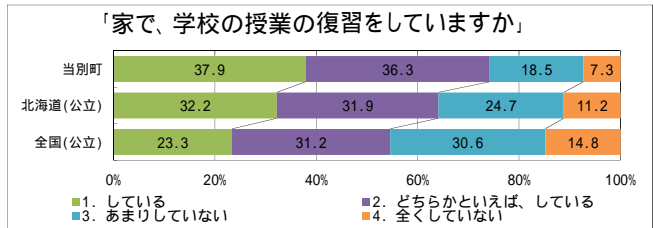
【家庭学習】「自分で計画を立てて勉強をしている」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合は72.5%で、全国より9.7ポイント多く、昨年度より3.0ポイント増加している。



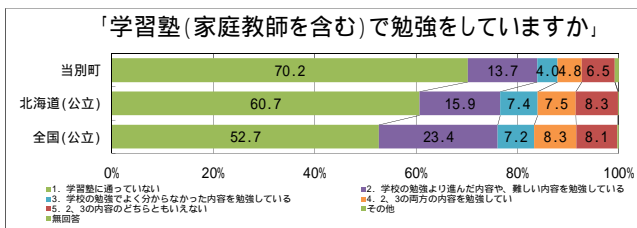
【家庭学習】「家で、学校の宿題をしている」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合は97.6%で、全国より0.8ポイント多く、昨年度より18.2ポイント増加している。



【家庭学習】「予習をしている」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合は58.1%で、全国より14.7ポイント多く、昨年度より2.9ポイント減少している。

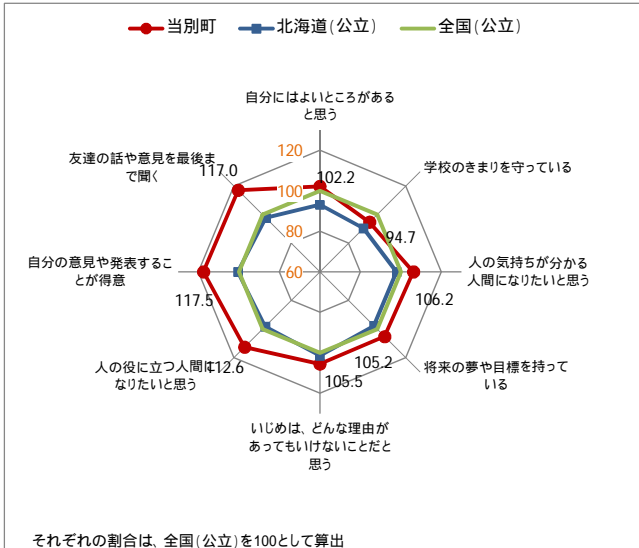


【家庭学習】「復習をしている」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合は74.2%で、全国より19.7ポイント多く、昨年度より5.4ポイント増加している。



【家庭学習】「学習塾(家庭教師を含む)に、塾に通っていない」と答えた児童の割合が70.2%で、全国より17.5ポイント多く、前年度からは2.1ポイント増加している。

小学校:自己理解、自尊意識、規範意識

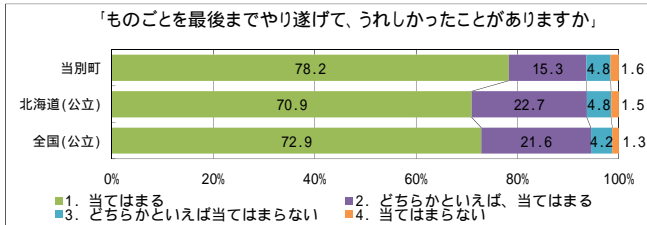


【自己理解】
 「難しいことでも挑戦する」「自分には良いところがある」「友達の前で意見を発表できる」「将来の夢を持っている」と回答した児童の割合は、全国平均を上回り、昨年度よりも向上しています。また、前向きに意欲的に取り組んでいる児童が多く、自己理解が育まれていると推測されます。

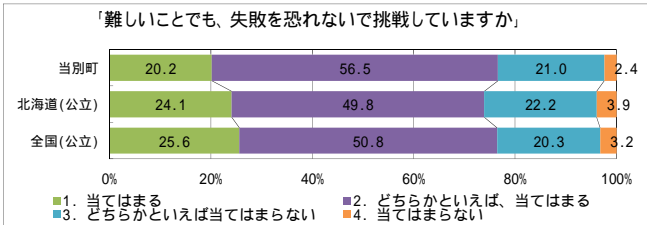
一方、「友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した児童の割合は、昨年度より減少し、自分は話をしてくれるけれども、人の話はあまり丁寧に聞かないという傾向が窺えます。

【自尊意識、規範意識】
 「学校の規則を守っている」と回答した児童の割合は、昨年度より増加し、遵法意識が高まっていると推測されます。

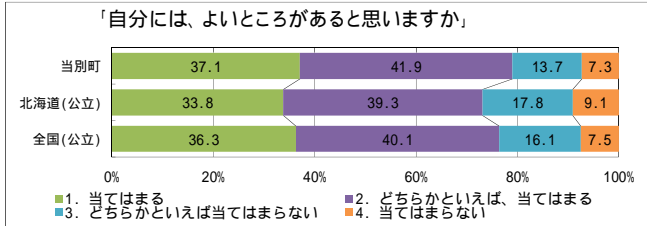
「いじめは、どんな理由があってもよくない」と回答した児童の割合は、86.3%で、昨年度より増加し、他人を大切にすることは自分を大切にすることだという人権意識が高まっていると推測されます。



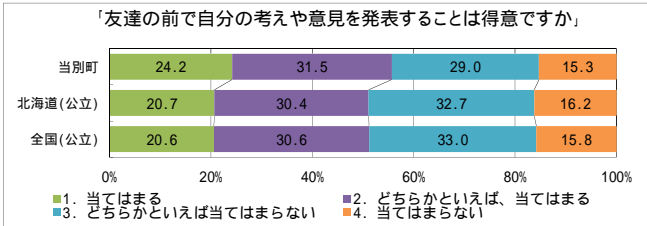
【自己理解】「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と答えた児童の割合は93.5%で、全国より1.0ポイント少なく、昨年度より2.8ポイント増加している。



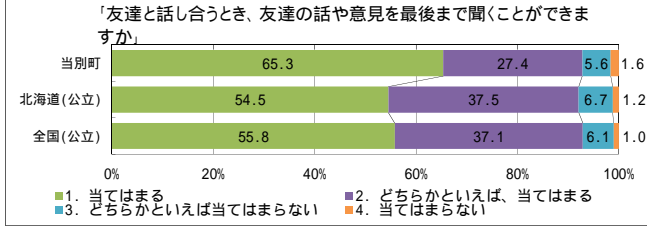
【自己理解】「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と答えた児童の割合は76.7%で、全国より0.3ポイント多く、昨年度より5.7ポイント増加している。



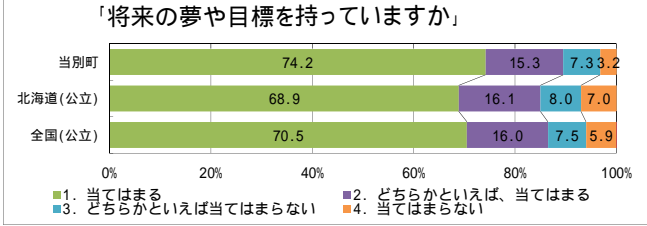
【自己理解】「自分には良いところがある」と答えた児童の割合は79.0%で、全国より2.6ポイント多く、昨年度より5.9ポイント増加している。



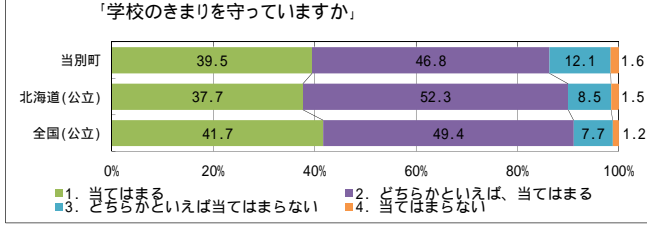
【自己理解】「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意」と答えた児童の割合は55.7%で、全国より4.5ポイント多く、昨年度より9.6ポイント増加している。



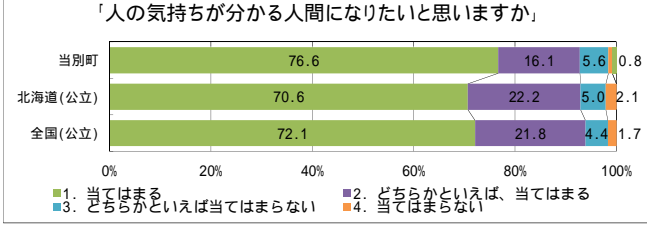
【自己理解】「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と答えた児童の割合は92.7%で、全国より0.2ポイント少なく、昨年度より4.8ポイント増加している。



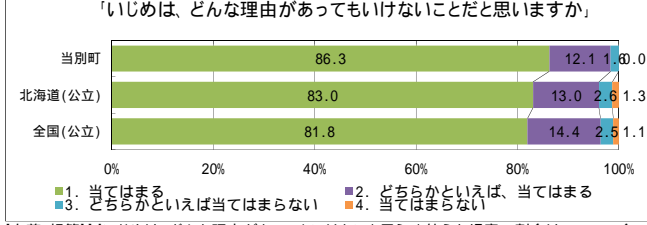
【自己理解】「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合は89.5%で、全国より3.0ポイント多く、昨年度より4.4ポイント増加している。



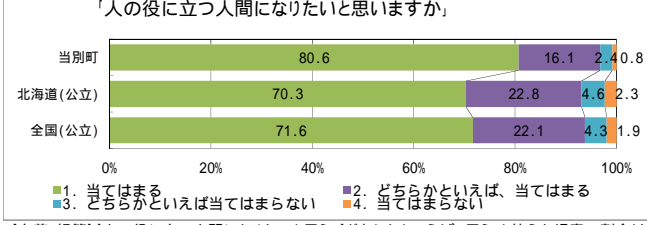
【自尊・規範】「学校のきまりを守っている」と答えた児童の割合は86.3%で、全国より4.8ポイント少なく、昨年度より4.1ポイント増加した。



【自尊・規範】「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」と答えた児童の割合は92.7%で、全国より1.2ポイント少なく、昨年度より0.5ポイント増加した。

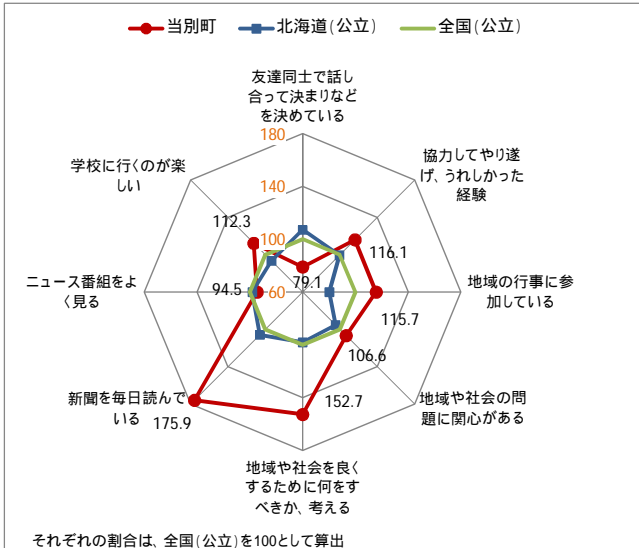


【自尊・規範】「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」と答えた児童の割合は86.3%で、全国より4.5ポイント多く、昨年度より0.5ポイント増加した。



【自尊・規範】「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた児童の割合は96.7%で、全国より3.0ポイント多く、昨年度より5.3ポイント増加した。

小学校:学校生活、社会生活



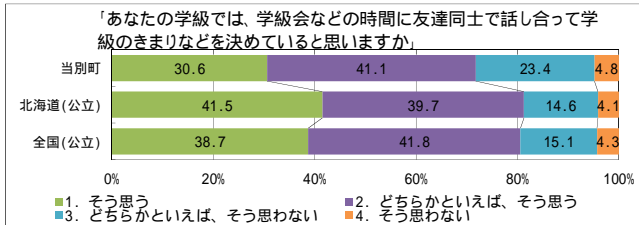
【学校生活】
 「学校に行くのが楽しい」と回答した児童の割合は、昨年度より増加しています。 「どちらかといえば、楽しい」を含めると全国平均を下回っています。学校、学級はもとより、子ども同士による楽しい雰囲気づくりが大切です。

「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と回答した児童の割合は、全国平均より上回っています。成功体験や達成感を共有できたことで、学校または学級生活がより充実したものになったと推測されます。

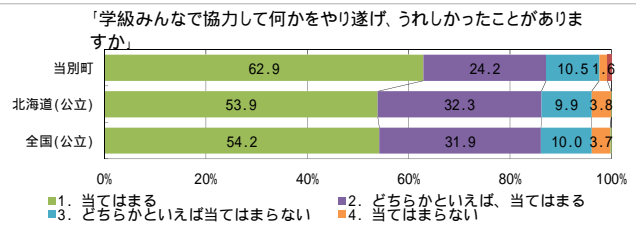
「学級などで友達同士と話し合ってみたり決めていると思う・どちらかといえば決めている」と回答した児童の割合が約7割で、全国平均より低い状況です。みんなの話し合いにより、物事や社会の決まりが形成されていることの学習が必要となっています。

【社会生活】
 「地元行事に参加する」「身近な社会の出来事や問題に関心がある」「社会をよくするために何をすべきかを考える」と回答した児童の割合は、全国平均より上っており、地域へ貢献しようとする意識が高いと推測されます。

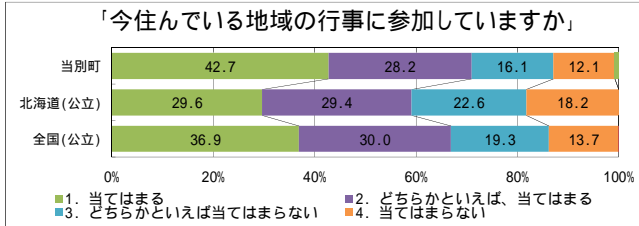
「新聞を読む」と回答した児童の割合は、昨年度より増加しました。ただし、多くはテレビのニュース番組などから情報を得ている結果となっています。



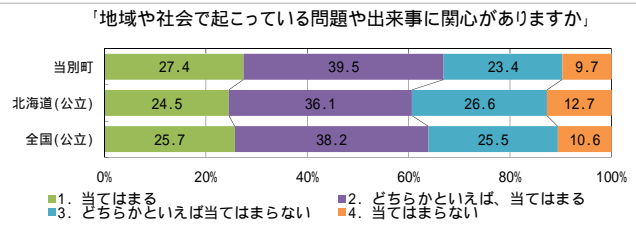
【学校生活】「学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う」「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は71.1%で、全国より8.8ポイント少ない。(H27新規)



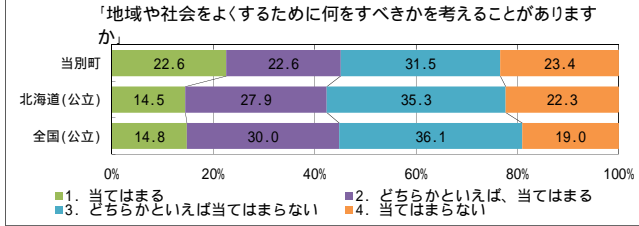
【学校生活】「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」「どちらかといえば、ある」と答えた児童の割合は87.1%で、全国より1.0ポイント多く、昨年度より0.8ポイント減少した。



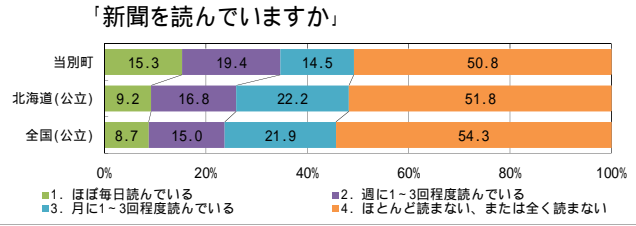
【社会生活】「地域の行事に参加している」「どちらかといえば、参加している」と答えた児童の割合は70.9%で、全国より4.0ポイント多く、昨年度より2.2ポイント減少した。



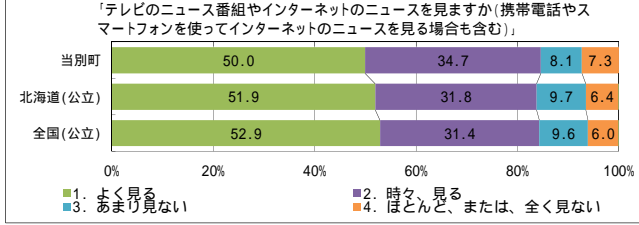
【社会生活】「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「どちらかといえば、ある」と答えた児童の割合は66.9%で、全国より3.0ポイント多く、昨年度より0.5ポイント減少した。



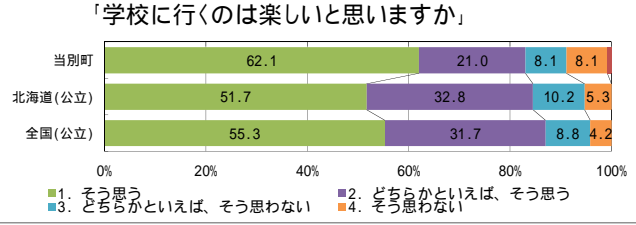
【社会生活】「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」「どちらかといえば、ある」と答えた児童の割合は45.2%で、全国より0.4ポイント多く、昨年度より7.2ポイント減少した。



【社会生活】新聞を「毎日読んでいる」「週に1-3回程度読んでいる」と答えた児童の割合は34.7%で、全国より11.0ポイント多く、昨年度より7.8ポイント増加した。

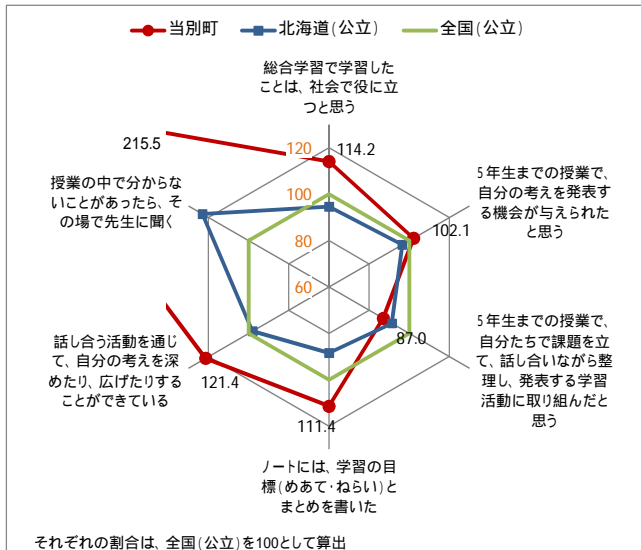


【社会生活】ニュース番組やインターネットのニュースを「よく見る」「時々見る」と答えた児童の割合は84.7%で、全国より0.4ポイント多く、昨年度より3.2ポイント減少した。



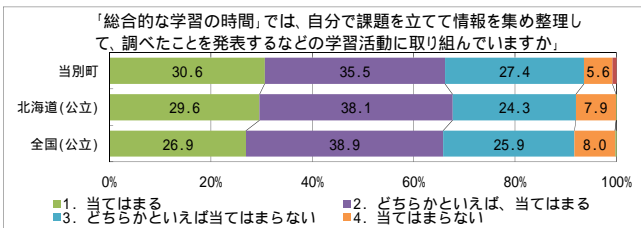
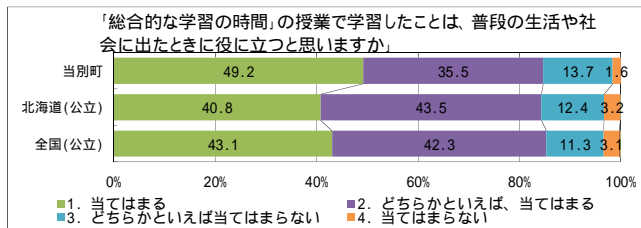
【学校生活】「学校に行くのは楽しい」「どちらかといえば、楽しい」と答えた児童の割合は83.1%で、全国より3.9ポイント少なく、昨年度より0.8ポイント増加した。

小学校:学習、総合的な学習の時間



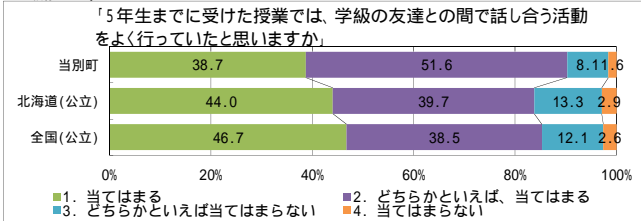
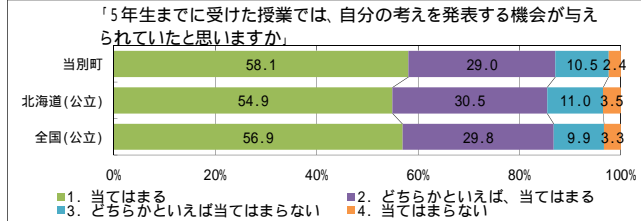
【学習・総合的な学習の時間】

1時間の授業過程で、「発表の機会の確保」「その時間の目当て(目標)の明示」「その時間学習したことのまとめの明示」「分かったかどうかの確かめ・振り返り」の項目の全てが、昨年度より上回る結果になりました。学校全体で共通理解のもと、授業の工夫改善に取り組んでいることが窺えます。この取り組みを継続して実施していくことが大切です。



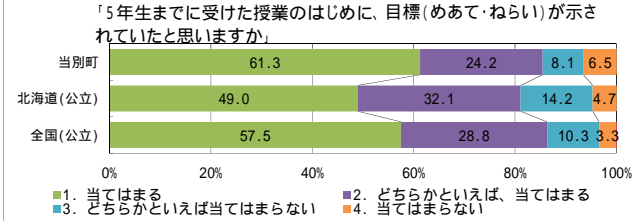
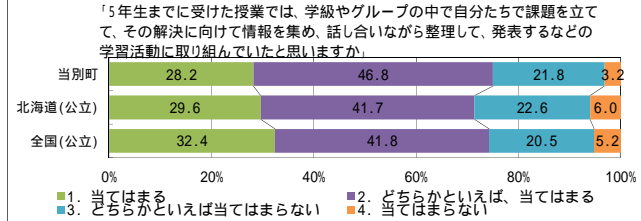
【総合学習】総合的な学習の時間で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに「役に立つと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は84.7%で、全国より0.7ポイント少なく、昨年度より2.4ポイント増加した。

【総合学習】総合的な学習の時間で、調べたことを発表する学習活動に「取り組んでいる」「どちらかといえば、取り組んでいる」と答えた児童の割合は66.1%で、全国より0.3ポイント多く、昨年度より0.5ポイント減少した。



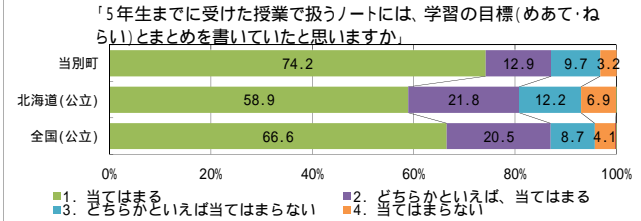
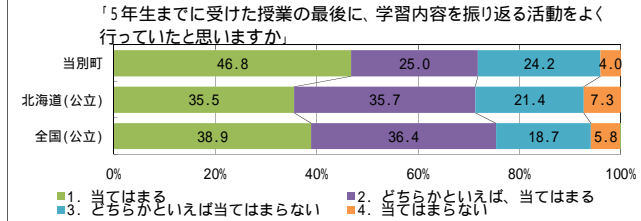
【学習】5年生までに受けた授業で、「自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は81.7%で、全国より0.4ポイント多く、昨年度より11.2ポイント増加した。

【学習】5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動を「よく行っていたと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は90.3%で、全国より5.1ポイント多く、昨年度より8.7ポイント増加した。



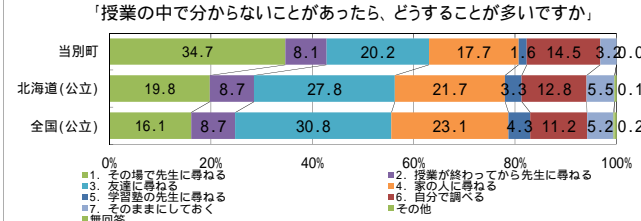
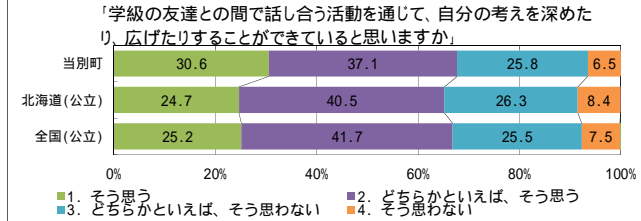
【学習】5年生までに受けた授業で、学級やグループの中で課題を立て、情報を集め、話し合いながら整理して、発表する学習活動に「取り組んでいたと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は75.0%で、全国より0.8ポイント多し。(H27新規)

【学習】5年生までに受けた授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は85.5%で、全国より0.8ポイント少なく、昨年度より15.2ポイント増加した。



【学習】5年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は71.8%で、全国より3.5ポイント少なく、昨年度より15.8ポイント増加した。

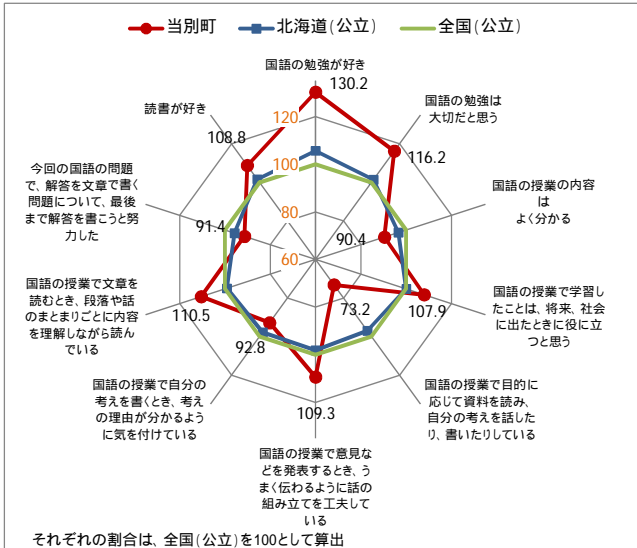
【学習】5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思う「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は87.1%で、全国と同様の数値となった。(H27新規)



【学習】学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う「思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童の割合は67.7%で、全国より0.8ポイント多く、昨年度より1.8ポイント増加した。

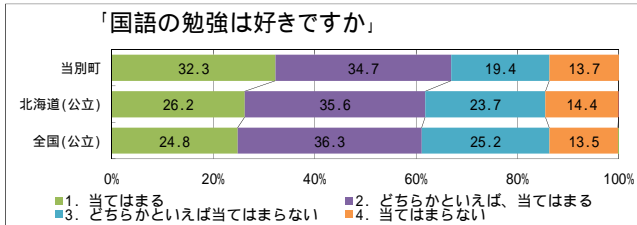
【学習】授業の中で分からないことがあったとき、「その場で先生に尋ねる」が最も多く(29.3%で、次に「友人に尋ねる」で15.6%となった。

小学校：国語の学習

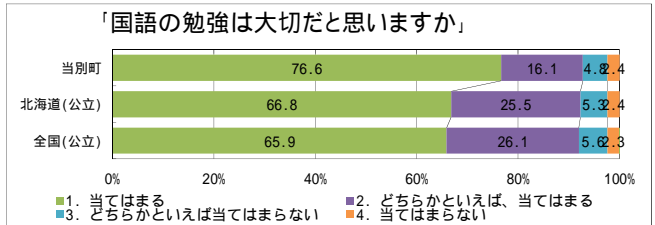


【国語の学習】
「国語が好き」「国語は大切だ」「授業の内容はよく分る」と回答した児童の割合は、昨年度より大きく向上しています。

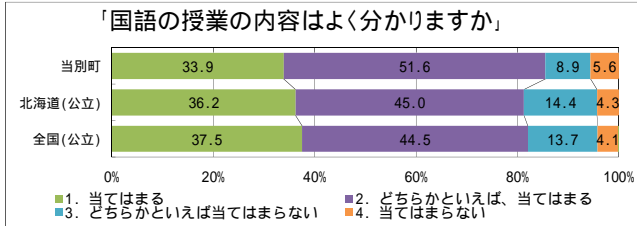
「読書が好き」と回答した児童の割合は、昨年度より減少しています。「当別町子供の読書活動推進計画」を推進し、巡回の図書館司書と連携して読書活動の推進する必要があります。



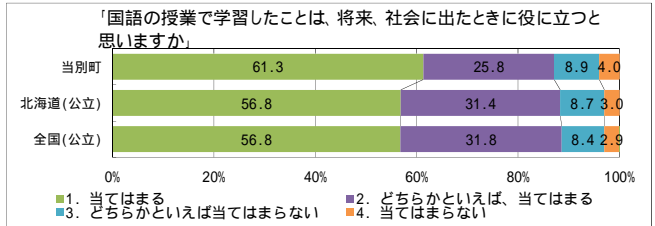
【国語】国語の勉強は「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた児童の割合は67.0%で、全国より5.9ポイント多く、昨年度より8.9ポイント増加した。



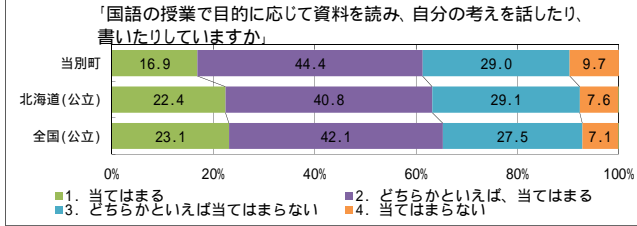
【国語】国語の勉強は「大切だと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は92.7%で、全国より0.7ポイント多く、昨年度より3.3ポイント増加した。



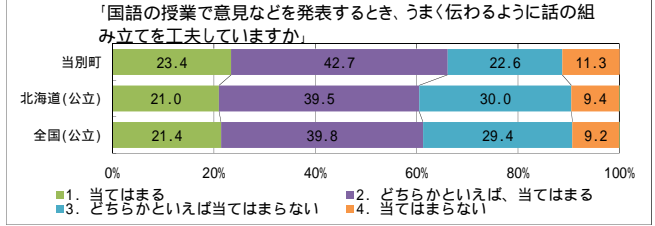
【国語】国語の授業の内容は「よくわかる」と答えた児童の割合は33.9%で昨年より3.7ポイント減少したが、「どちらかといえば、わかる」を含めると85.5%で、全国より3.5ポイント多く、昨年度より1.8ポイント増加した。



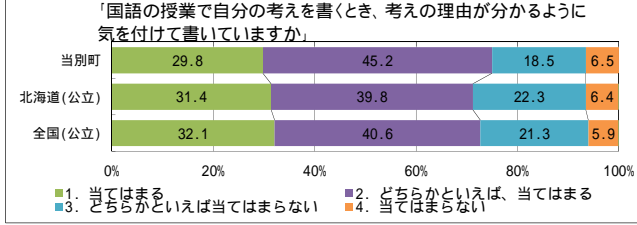
【国語】国語の学習は、将来、社会に出たときに役に立つ「思う」「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は87.1%で、全国より1.5ポイント少なく、昨年度より0.1ポイント減少した。



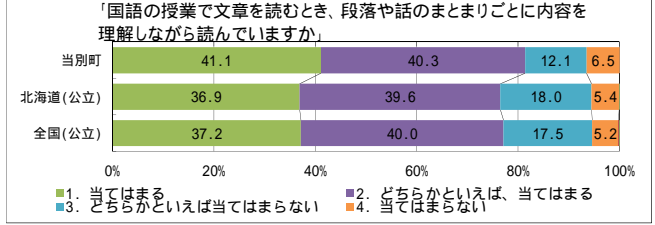
【国語】国語の授業で「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」「どちらかといえば、話したり、書いたりしている」と答えた児童の割合は61.3%で、全国より3.9ポイント少なく、昨年度より1.1ポイント減少した。



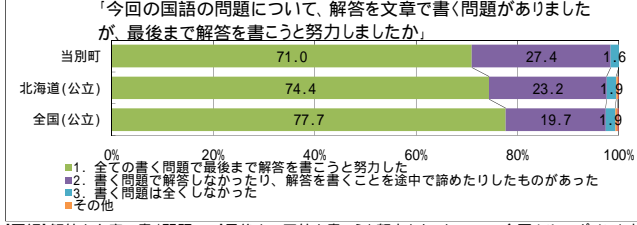
【国語】国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように「話の組み立てを工夫している」「どちらかといえば、工夫している」と答えた児童の割合は66.1%で、全国より4.9ポイント多く、昨年度より12.9ポイント増加した。



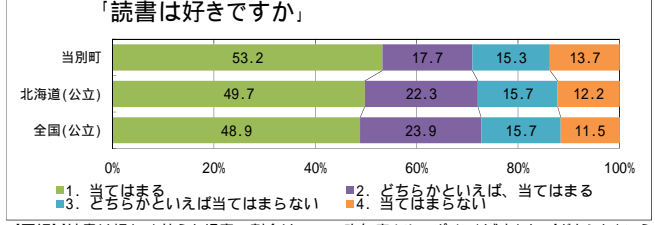
【国語】国語の授業で自分の考えを書き、「考えの理由が分かるように気をつけて書いています」「どちらかといえば、書いています」と答えた児童の割合は75.0%で、全国より2.3ポイント多く、昨年度より12.5ポイント増加した。



【国語】国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら「読んでいます」「どちらかといえば、読んでいます」と答えた児童の割合は81.4%で、全国より4.2ポイント多く、昨年度の本町より9.1ポイント増加した。

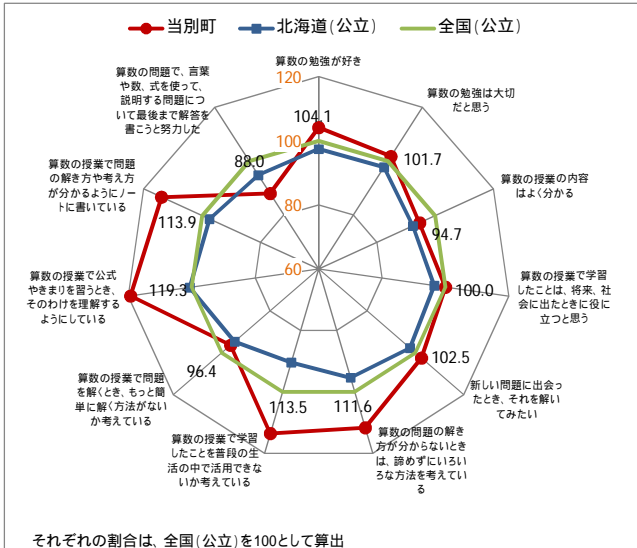


【国語】解答を文章で書く問題で、「最後まで解答を書こうと努力した」を71.0%で全国より6.7ポイント少なく、昨年度より7.2ポイント増加した。



【国語】「読書は好き」と答えた児童の割合は53.2%で昨年度より1.4ポイント減少した。「どちらかといえば、好き」を含めると70.9%で、全国より1.9ポイント少なく、昨年度より2.1ポイント減少。「当てはまらない」は、昨年度より0.2ポイント増加した。

小学校：算数の学習

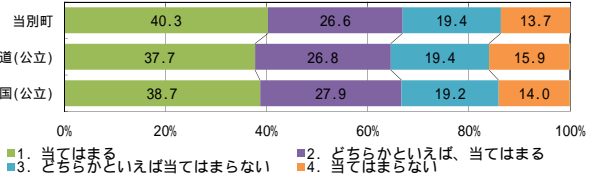


【算数の学習】

多くの設問で向上が見られています。丁寧に勉強しようとする姿が窺えます。

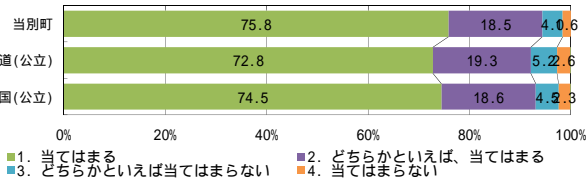
「算数の授業で学習したことは将来役に立つ」「算数の問題に最後まで諦めずに解答を書こうと努力した」の二項目が、全国平均や昨年度よりも下回る結果になりました。あきらめる傾向が心配されます。

「算数の勉強は好きですか」



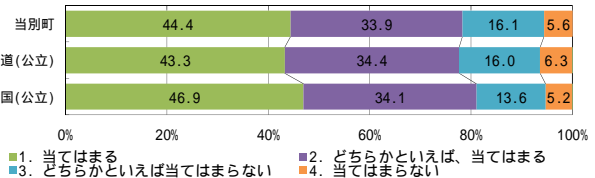
【算数】「算数の勉強は好き」と答えた児童の割合は40.3%で、昨年度より2.7ポイント増加した。「どちらかといえば、好き」を含めると66.9%で、全国と同様で、昨年度より5.2ポイント増加した。

「算数の勉強は大切だと思いますか」



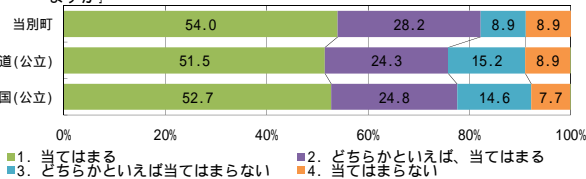
【算数】「算数の勉強は大切だと思う」と「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は94.3%で、全国より1.2ポイント多く、昨年度より1.4ポイント増加した。

「算数の授業の内容はよく分かりますか」



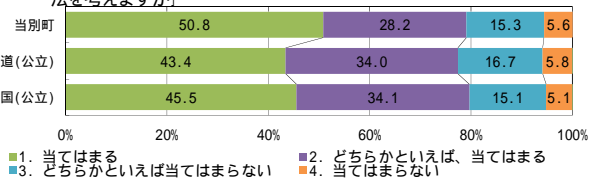
【算数】算数の授業の内容は「よくわかる」「どちらかといえば、わかる」と答えた児童の割合は78.3%で、全国より2.7ポイント少なく、昨年度より8.0ポイント増加した。

「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか」



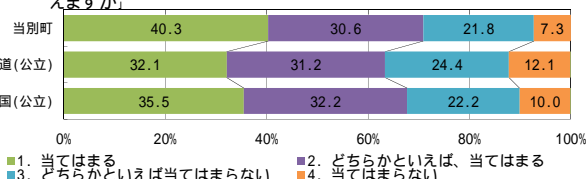
【算数】算数の授業で新しい問題に出会ったとき、「解いてみたいと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は82.2%で、全国より4.7ポイント多く、昨年度より5.6ポイント増加した。

「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」



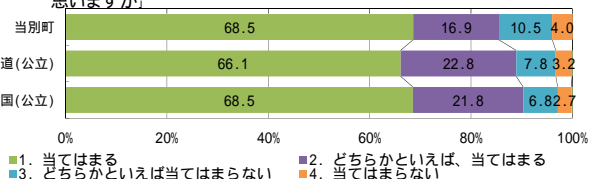
【算数】算数の問題の解き方が分からないとき、「諦めずに色々な方法を考える」「どちらかといえば、考える」と答えた児童の割合は79.0%で、全国より0.6ポイント少なく、昨年度より7.4ポイント増加した。

「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」



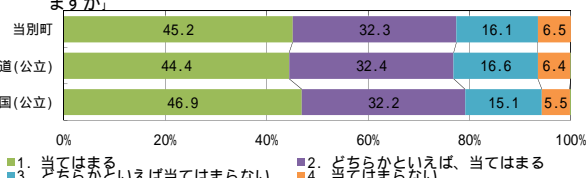
【算数】算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか「考えている」「どちらかといえば、考えている」と答えた児童の割合は77.5%で、全国より3.2ポイント多く、昨年度より7.8ポイント増加した。

「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」



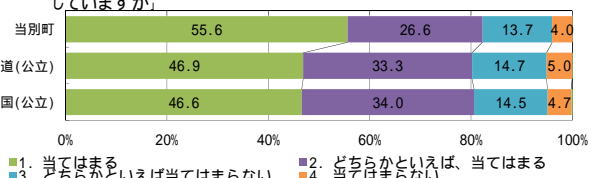
【算数】算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに「役に立つと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は85.4%で、全国より4.9ポイント少なく、昨年度より0.4ポイント減少した。

「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」



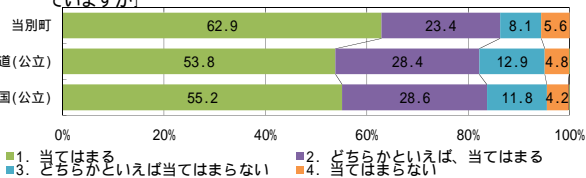
【算数】算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないかを「考えている」「どちらかといえば、考えている」と答えた児童の割合は77.5%で、全国より1.6ポイント少なく、昨年度より1.6ポイント増加した。

「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」



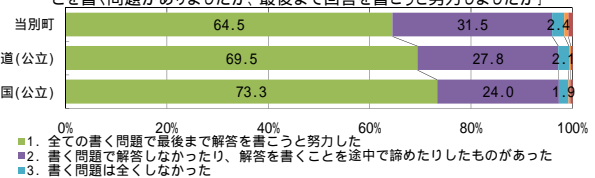
【算数】算数の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を「理解するようにしている」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合は82.2%で、全国より1.6ポイント多く、昨年度より2.0ポイント増加した。

「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」



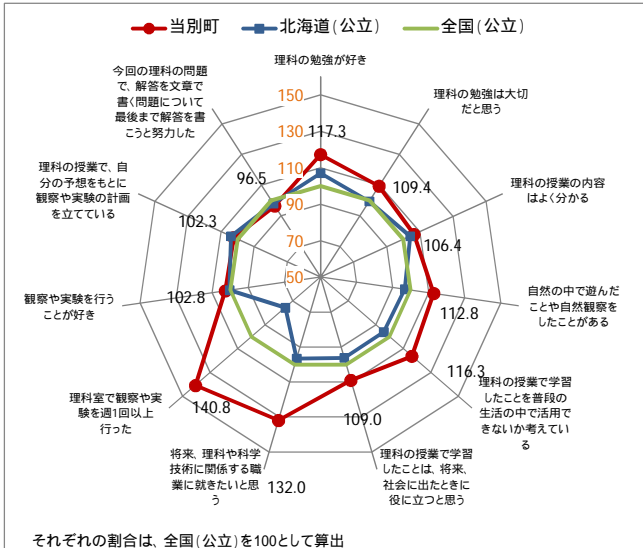
【算数】算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるように「ノートに書いている」「どちらかといえば、書いている」と答えた児童の割合は86.3%で、全国より2.5ポイント多く、昨年度より9.7ポイント増加した。

「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。最後まで回答を書こうと努力しましたか」



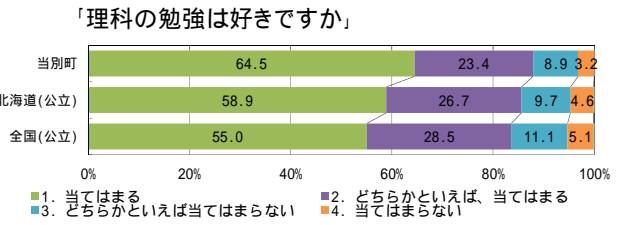
【算数】算数の問題を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力した、は64.5%で全国より8.8ポイント少なく、昨年度より1.5ポイント減少した。

小学校:理科の学習

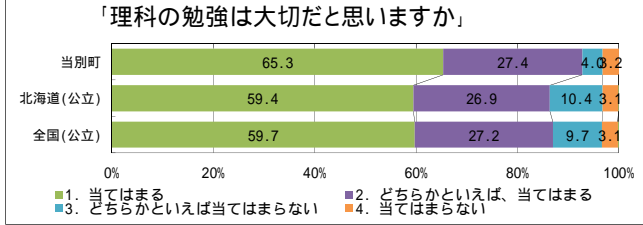


【理科の学習】
「理科の勉強が好き」「理科は大切」「授業の内容がよく分かる」などの項目で、全国平均より上回り、平成24年度の結果より向上しています。

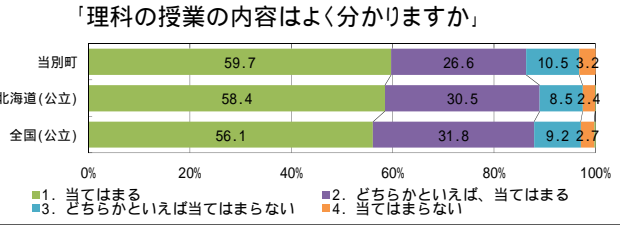
「理科室での授業」「観察や実験の授業が好き」などの項目で平成24年度の調査結果より大幅に増加しており、授業の工夫改善が図られていると推測されます。



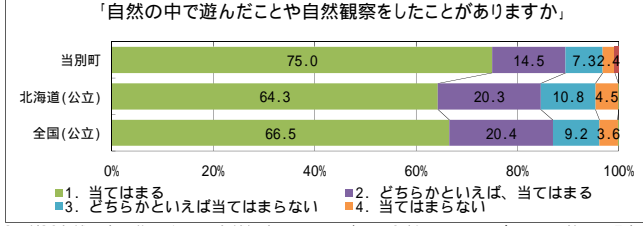
【理科】「理科の勉強は好き」と答えた児童の割合は64.5%で、平成24年度より12.3ポイント増加した。「どちらかといえば、好き」を含めると87.9%で、全国より4.4ポイント多く、平成24年度より5.5ポイント増加した。



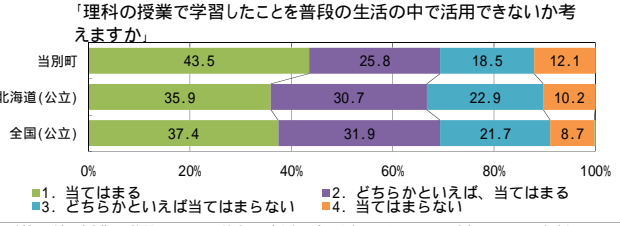
【理科】「理科の勉強は大切だと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は92.7%で、全国より5.8ポイント多く、平成24年度より10.4ポイント増加した。



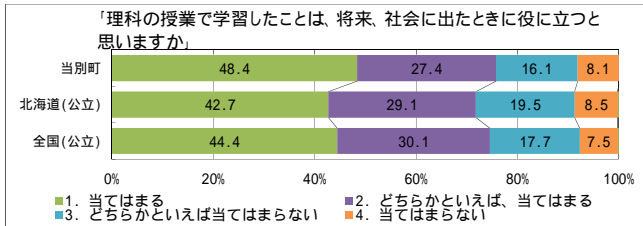
【理科】「理科の授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合は59.7%で、平成24年度より11.3ポイント増加した。「どちらかといえば、よくわかる」を含めると86.3%で、全国より1.6ポイント少なく、平成24年度より4.6ポイント増加した。



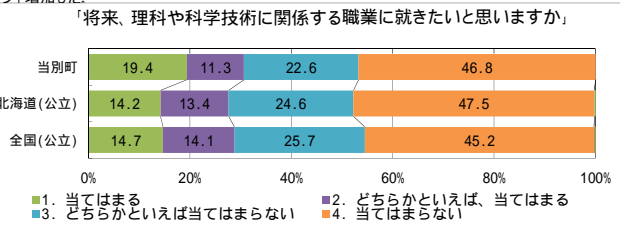
【理科】「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と答えた児童の割合は89.5%で、全国より2.6ポイント多く、平成24年度より5.8ポイント増加した。



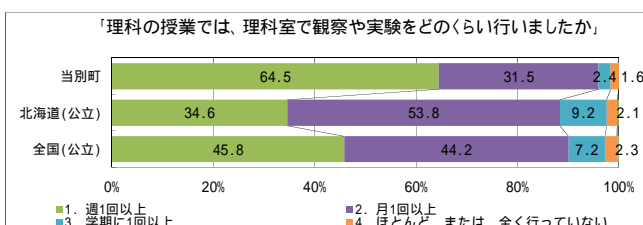
【理科】理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを「考えている」「どちらかといえば、考えている」と答えた児童の割合は69.3%で、全国と同様の数値となり、平成24年度より17.1ポイント増加した。



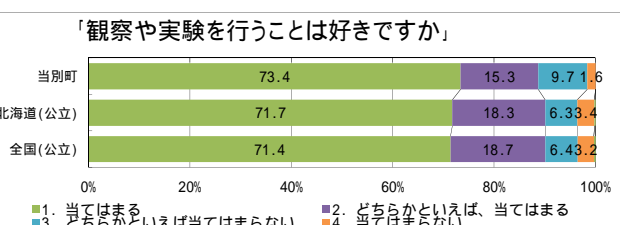
【理科】理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに「役に立つと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は75.8%で、全国より1.3ポイント多く、平成24年度より9.1ポイント増加した。



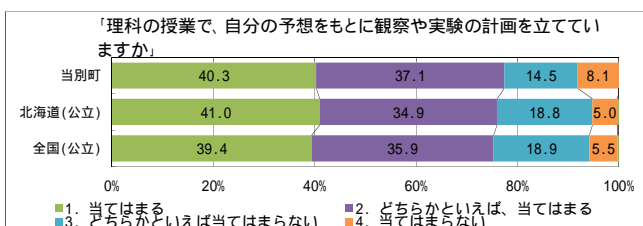
【理科】将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思う「どちらかといえば、思う」と答えた児童の割合は30.7%で、全国より1.9ポイント多く、平成24年度より8.1ポイント増加した。



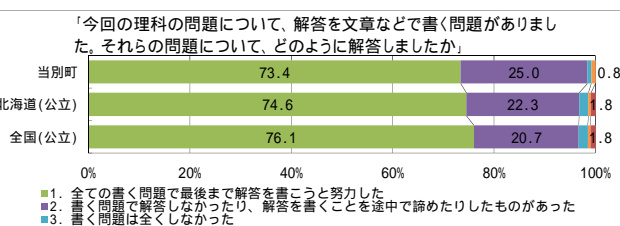
【理科】理科室での観察や実験の回数について、「週1回以上」と答えた児童の割合は64.5%で全国より18.7ポイント多く、「月1回以上」と含めると96%で、全国より6ポイント多い。(H27新規)



【理科】「観察や実験を行うことは好き」「どちらかといえば、好き」と答えた児童の割合は88.7%で、全国より1.4ポイント少なく、平成24年度より6.4ポイント増加した。

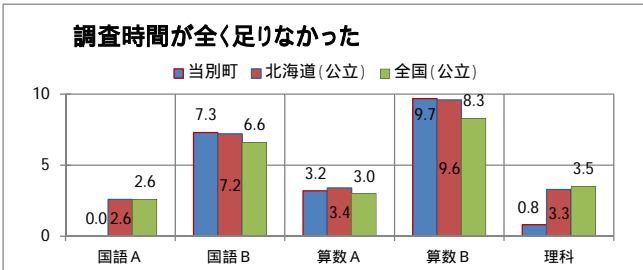
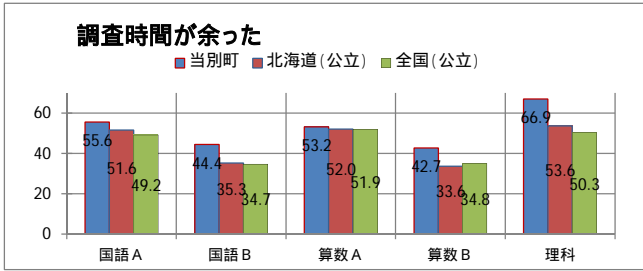


【理科】理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てて「勉強している」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合は77.4%で、全国より2.1ポイント多く、平成24年度より16.4ポイント増加した。

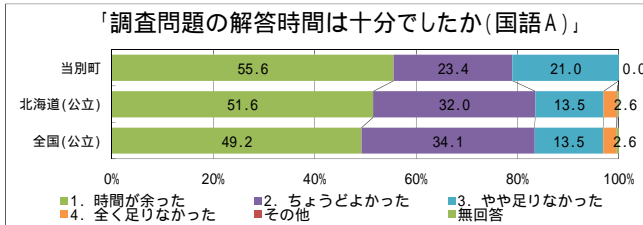


【理科】解答を文章などで書く問題で「最後まで解答を書こうと努力した」は73.4%で全国より2.7ポイント少なく、平成24年度より14.3ポイント増加した。

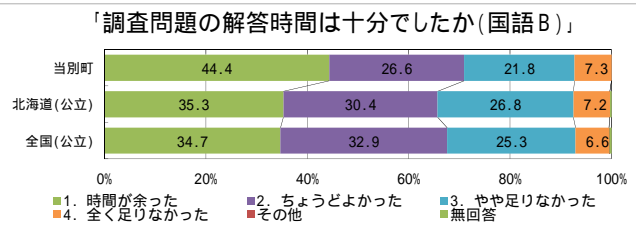
小学校:調査時間



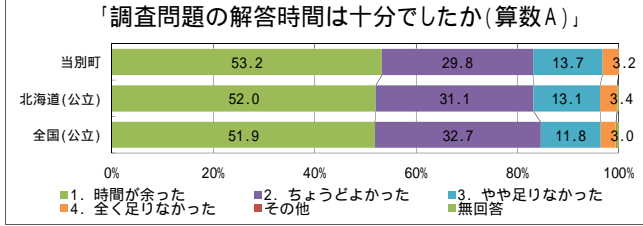
【調査時間】
 国語A、算数A、理科の調査で、「調査時間が余った」と回答した児童の割合が高かったのに対して、国語B、算数Bでは、やや不足と回答した児童の割合が高かったです。
 国語B、算数Bの活用問題では、「全く足りなかった」と回答した児童の割合が高く、このことから、考えさせる問題、まとめる問題等への対策が必要と考えます。



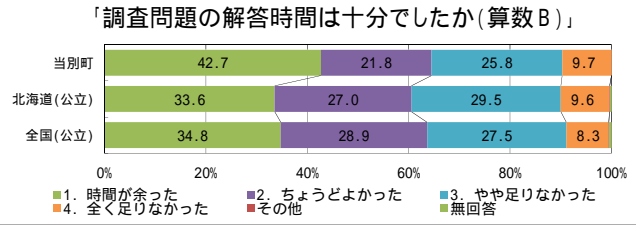
【調査時間】(国語A)の調査時間で、「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた児童の割合は79.0%で全国より4.3ポイント少なく、昨年度の本町より3.3ポイント減少した。「全く足りなかった」は0%で昨年度は1.4%だった。



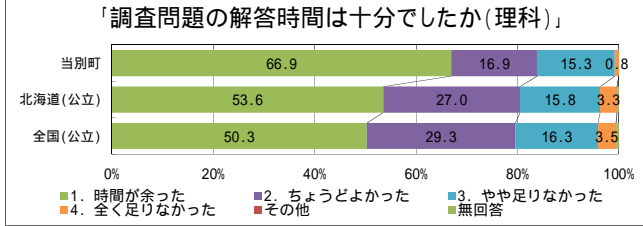
【調査時間】(国語B)の調査問題で、「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた児童の割合は71.0%で全国より3.4ポイント多く、昨年度の本町より22.8ポイント増加した。「全く足りなかった」は7.3%で昨年度は9.2%だった。



【調査時間】(算数A)の調査問題で、「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた児童の割合は83.0%で全国より1.6ポイント少なく、昨年度の本町より2.1ポイント減少した。「全く足りなかった」は3.2%で昨年度は3.5%だった。



【調査時間】(算数B)の調査問題で、「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた児童の割合は64.5%で全国より0.8ポイント多く、昨年度の本町より9.3ポイント減少した。「全く足りなかった」は9.7%で昨年度は8.5%だった。



【調査時間】(理科)解答時間で、「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた児童の割合は83.8%で、全国より4.2ポイント多く、平成24年度の本町より9.0ポイント増加した。「全く足りなかった」は0.8%で平成24年度は8.2%だった。

中学校の分析

1) 学力調査

1 教科ごとの結果概要

【国語】

昨年度は全国平均を上回る結果でしたが、今年度は国語A・Bともに全国平均を下回る結果になりました。平均正答率で - 3.5, - 3.9。平均正答数では - 1.2, - 0.3となっています。また、下位層(全国の約25%に含まれる割合)が全国比で + 8.0, + 6.7で多く、下位層の減少を目指した具体的改善の取り組みが必要です。

国語Aでは、漢字の読み書き等の基礎設問の正答率が低く、特に「書くこと」の落ち込みが見られます。チャレンジテストや漢字豆テスト等の見直しや活用を深める必要があります。

国語Bでは、各領域において全国平均に届きませんでした。

【数学】

数学A・Bともに全国平均を下回る結果になりました。全国との比較では、平均正答率で - 6.0, - 5.4で平均正答数では - 2.2, - 0.6になり、数学Aでは全国平均正答数から2問以上の差が広がりました。また、下位層(全国の約25%に含まれる割合)が全国比で + 9.1, + 7.8で多く、早急な具体的改善の取り組みが必要です。

数学Aでは、「数と式」「数学的な技能」、数学Bでは、「図形」を除く領域で落ち込みがみられます。無回答率が5%以上の問題数は、全国とほぼ同数ですが、無回答率が全国に比べて高い問題もあります。短答式・記述式の問題では途中であきらめている姿が窺えます。生活の中での数学の大切さ、有効さを実感させる手立てを工夫するとともに、粘り強く取り組む意欲の醸成が必要です。

【理科】

理科では、全国平均を下回るものの、全国平均に近い結果になりました。平成24年度の全国平均との差と比べて、0.1ポイント広がっています。

全国・全道平均の正答率を超えた設問数は25問中11問で、「地学」の領域では、全国平均を大きく上回るなど、良い特徴があります。

生徒設問紙調査でも、「理科が好き」と答えた生徒が多く、全国平均を大きく上回る結果になっています。

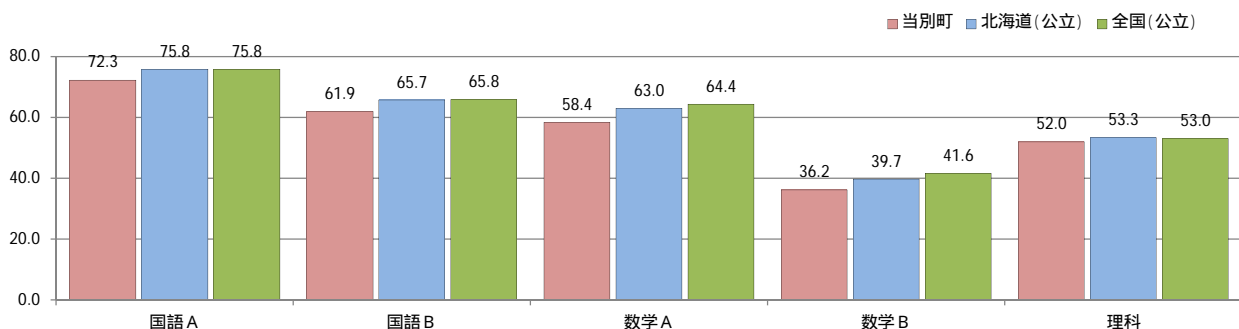
2 教科ごとの平均正答率と平均正答数

理科は差は平成24年度実績

	国語 A		国語 B		数学 A		数学 B		理科	
	平均正答率	平均正答数と問題数	平均正答率	平均正答数と問題数	平均正答率	平均正答数と問題数	平均正答率	平均正答数と問題数	平均正答率	平均正答数と問題数
当別町	72.3	(23.8/33)	61.9	(5.6/9)	58.4	(21.0/36)	36.2	(5.4/15)	52.0	(13.0/25)
北海道(公立)	75.8	(25.0/33)	65.7	(5.9/9)	63.0	(22.7/36)	39.7	(6.0/15)	53.3	(13.3/25)
全国(公立)	75.8	(25.0/33)	65.8	(5.9/9)	64.4	(23.2/36)	41.6	(6.0/15)	53.0	(13.3/25)
全国との差	3.5	(-1.2/33)	3.9	(-0.3/9)	6.0	(-2.2/36)	5.4	(-0.6/15)	1.0	(-0.3/25)
昨年度の全国との差	1.5	(+0.5/32)	0.6	(+0.0/9)	1.8	(-0.7/36)	0.9	(+0.1/15)	0.9	(-0.3/26)
差の比較	5.0		4.5		4.2		6.3		0.1	

()内の平均正答数と問題数欄は分子が平均正答数で、分母が問題数として記載

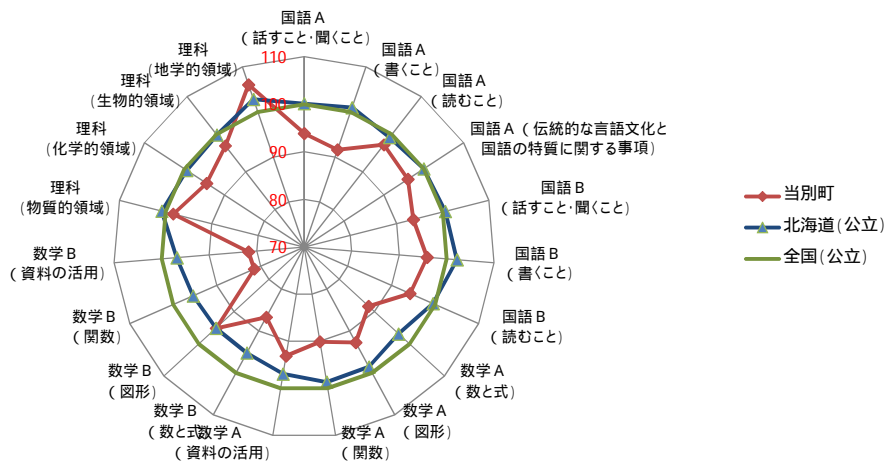
平均正答率…平均正答数を百分率で表示。国語A、国語B、数学A、数学B、理科ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。



3 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率

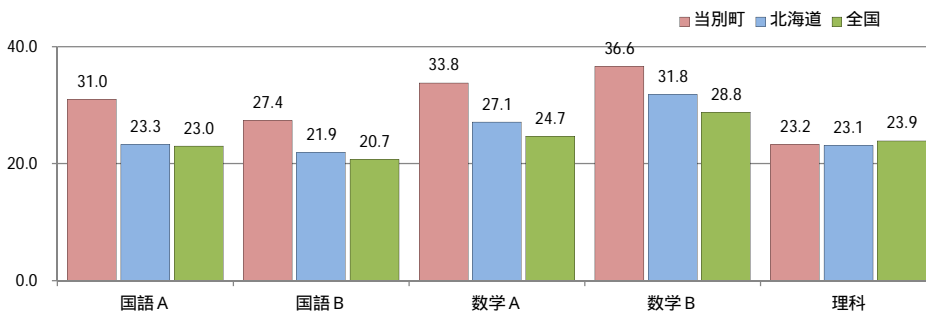
	国語A (話すこと・聞くこと)	国語A (書くこと)	国語A (読むこと)	国語A (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	国語B (話すこと・聞くこと)	国語B (書くこと)	国語B (読むこと)	数学A (数と式)	数学A (図形)	数学A (関数)	数学A (資料の活用)	数学B (数と式)	数学B (図形)	数学B (関数)	数学B (資料の活用)	理科 (物質的領域)	理科 (化学的領域)	理科 (生物的領域)	理科 (地学的領域)
問題数	4/33	5/33	5/33	19/33	3/9	3/9	6/9	12/36	12/36	8/36	4/36	4/15	4/15	5/15	2/15	7/25	7/25	6/25	6/25
当別町	93.9	91.6	97.2	96.0	93.6	95.9	94.2	88.3	92.7	90.1	93.2	86.7	95.1	81.4	81.7	98.4	94.5	96.9	106.0
北海道(公立)	100.1	101.0	99.2	100.0	100.6	102.2	99.5	96.9	98.6	98.7	97.0	95.3	95.1	95.4	96.8	100.8	99.5	99.8	102.8
全国(公立)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

教科の領域別に全国を100とした場合の状況をレーダーチャートで示したものです。
(当別町生徒の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合	国語A			国語B			数学A			数学B			理科																	
	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国															
	31.0%	23.3%	23.0%	27.4%	21.9%	20.7%	33.8%	27.1%	24.7%	36.6%	31.8%	28.8%	23.2%	23.1%	23.9%															
	33問中21問以下			9問中4問以下			36問中17問以下			15問中3問以下			25問中8問以下																	
全国との差	8.0%			多い			6.7%			多い			9.1%			多い			7.8%			多い			0.7%			少ない		



5 教科の改善策

中学校では、課題設定展開の時点で抽象的・概念的提示になりがちで、小学校のように具体物や半具体物を使った問題提示や、生活に密着した問題提示は、時数の関係上なかなか難しいものがあります。しかし、小学校で学んできた学習のルーティーン(学び方)を大切に、継続して発達段階に応じた学習が求められています。

「個性・能力(適性)の伸長を図る学習 自学自習を重視」の中学校期の学習目標を達成するためには、基礎・基本を徹底し、学力の定着と能力を引き出す習熟度別学習の充実が必要です。そのためには、教科の特性はあっても各学校で取り組んでいる学習規律やノート指導、板書の工夫、習熟度別指導やTT指導の工夫改善、ICT活用などの授業力改善の取り組みを、一層強化して取り組むこと(凡事徹底)が「無解答の解消」「基礎学力の定着」に効果が上がるものと考えます。

6 各教科に関する調査結果

中学校 [国語A：主として知識]

国語Aの学力調査では、当別町生徒の平均正答率が72.3%で、全国・全道平均の75.8%より3.5ポイント下回りました。昨年度の全国と当別町の差は+1.5ポイントで、5.0ポイント差が広がりました。

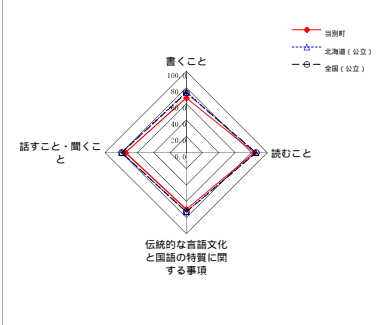
「漢字を書く」の問題で、3問中2問で平均正答率が低い結果になり、無回答率も多い結果になりました。

「書くこと」の領域で、全国平均より差が広がる結果になりました。

集計結果

対象生徒数		当別町	北海道(公立)	全国(公立)	
		146	40,966	1,016,451	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
全体		33	72.3	75.8	75.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	74.8	79.8	79.7
	書くこと	5	67.4	74.3	73.6
	読むこと	5	83.7	85.4	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	19	70.0	72.9	72.9
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	74.8	79.8	79.7
	書く能力	5	67.4	74.3	73.6
	読む能力	5	83.7	85.4	86.1
問題形式	言語についての知識・理解・技能	19	70.0	72.9	72.9
	選択式	23	71.8	75.1	75.5
	短答式	10	73.3	77.4	76.7
	記述式	0			

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無回答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	語の統制的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語について	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)
1一	スピーチの途中で聞き手の反応を見て、とった対応として適切なものを選択する	相手の反応を踏まえて話す	1イ											91.8	93.2	93.0	0.0	0.1	0.1
1二	「成否」という言葉を、聞いて分かりやすい表現に直す	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	1ウ											58.2	65.3	65.0	(18.5)	12.6	12.0
2一	意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する	意見を支える根拠の明確さについて助言する	1オ											69.9	79.4	79.8	0.0	0.2	0.2
2二	意見文を直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書く	1エ											78.1	84.2	83.6	0.0	0.1	0.2
3一	用いられている表現の工夫として適切なものを選択する	表現の技法について理解する				1(1)イ(オ)								56.2	62.5	58.3	0.0	0.4	0.4
3二	一人も返事をしたものがなかった理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	1ウ											85.6	88.2	88.7	0.0	0.2	0.2
3三	無助の言動から読み取れる様子として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	2イ											85.6	89.3	89.8	0.0	0.3	0.3
4一	棒グラフの 部の変化の内容を適切に書く	伝えたい事実を明確に書く	1ウ											61.6	66.5	67.6	4.1	4.7	4.2
5一	「なぜ、排水管はS字形になっているのか。」という問いに対する答えとして適切なものを選択する	文章から適切な情報を得て、考えをまとめる	2オ											94.5	93.1	93.6	0.0	0.2	0.2
6一	「あす」と「あした」という言葉の意味の変化を整理した表に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて要旨を捉える	1イ											67.8	70.0	71.3	0.0	0.3	0.3
6二	文章について説明したものとして適切なものを選択する	表現の特徴を捉える	1エ											84.9	86.6	87.1	0.0	0.4	0.4
7一	二つの回答案の構成の違いを説明したものとして適切なものを選択する	伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える	2イ											63.7	71.8	70.6	0.0	0.5	0.7
7二	要望を適切に捉え、回答案の冒頭に一文を加える	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	2ウ											63.7	69.7	66.4	(9.6)	8.2	8.6
8一	インタビューをする際の質問の意図として適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら聞き取る	1エ											78.8	84.5	84.6	0.0	0.5	0.6
8二	意図に合った質問として適切なものを選択する		1エ											70.5	76.4	76.1	0.0	0.6	0.7
9一1	漢字を書く(ビョウソク五メートルの風が吹く)					2(1)ウ(イ)								87.0	88.8	88.5	0.7	1.9	2.2
9一2	漢字を書く(地図のシュクシャクを調べる)	文脈に即して漢字を正しく書く				2(1)ウ(イ)								67.1	73.5	72.1	(11.0)	9.5	10.1
9一3	漢字を書く(アマったお金を貯金する)					2(1)ウ(イ)								63.7	67.4	70.9	(21.2)	18.6	15.9
9二1	漢字を読む(詳細に述べる)					2(1)ウ(ア)								83.6	80.3	78.2	4.1	4.3	5.1
9二2	漢字を読む(シャツの袖をまくる)	文脈に即して漢字を正しく読む				2(1)ウ(ア)								93.2	94.0	94.1	0.7	0.8	1.2
9二3	漢字を読む(学校のことが新聞に載る)					2(1)ウ(ア)								96.6	97.7	97.2	0.7	0.9	1.3
9三ア	適切な語句を選択する(将来は、気象予報士になりたい)					2(1)イ(イ)								97.9	97.8	97.6	0.0	0.4	0.5
9三イ	適切な語句を選択する(彼がこの討論の口火を切った)					1(1)イ(ウ)								67.5	57.5	55.5	0.0	0.7	0.9
9三ウ	適切な敬語を選択する(私が先生のお宅に参ります)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				2(1)イ(ア)								76.0	82.8	84.1	0.7	0.6	0.7
9三エ	適切な語句を選択する(彼女は、学級の壁の下の力持ちと言え存在だ)					1(1)イ(ウ)								61.6	66.2	70.8	0.0	0.7	0.8
9三オ	適切な語句を選択する(たなびく雲の間から、春の光がもれている)					1(1)イ(ウ)								41.8	48.7	49.0	0.0	0.6	0.7
9三カ	適切な語句を選択する(新聞を読む習慣を身に付ける)					2(1)イ(イ)								87.0	88.3	86.9	0.7	0.8	0.9
9四	「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する	単語の類別について理解する				1(1)イ(エ)								56.8	58.8	62.3	0.0	0.9	0.9
9五	運筆の際の説明に対応する部分として適切なものを選択する	毛筆を用いて、楷書で文字を書く				1(2)ア								81.5	84.4	85.9	0.0	0.8	0.8
9六	手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する	手紙の書き方を理解して書く				1(2)ア								52.7	56.4	58.2	0.0	1.2	1.2
9七1	漫画の言葉に対応する部分として適切なものを古典の文章の中から選択する	漫画の内容を参考にして、登場人物の思いやものの見方を想像				2(1)ア(イ)								74.0	75.4	75.3	0.0	1.4	1.4
9七2	古典の作品名を漢字で書く	代表的な古典の作品に関心をもち				1(1)ア(イ)								58.2	71.1	66.7	(13.7)	8.7	9.9

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
無回答率の()書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	6 / 33問
平均正答率が全道以上の設問数	5 / 33問
無回答率が5%以上の設問数	4 / 33問

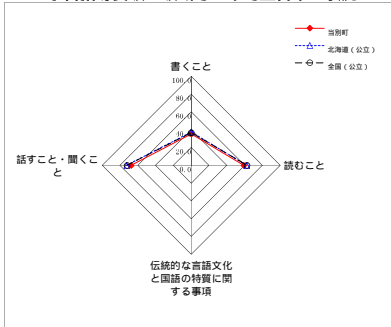
中学校 [国語 B : 主として活用]

国語Bの学力調査では、当別町生徒の平均正答率が61.9%で、全国平均の65.8%より3.9ポイント下回りました。昨年度の全国と当別町の差は+0.6ポイントで、4.5ポイント差が広がりました。昨年度、全国平均より上回る結果でしたが、本年度は各領域で全国を下回る結果になりました。

集計結果

対象生徒数		当別町	北海道(公立)	全国(公立)	
		146	40,962	1,016,575	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
全体		9	61.9	65.7	65.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	67.6	72.6	72.2
	書くこと	3	35.2	37.5	36.7
	読むこと	6	59.0	62.3	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	35.2	37.5	36.7
	話す・聞く能力	3	67.6	72.6	72.2
	書く能力	3	35.2	37.5	36.7
	読む能力	6	59.0	62.3	62.6
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	6	75.2	79.8	80.3
	短答式	0			
	記述式	3	35.2	37.5	36.7

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)					
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)	全国(公立)		
1一	ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択する	状況に応じて、資料を活用して話す	2ウ														67.1	74.2	73.2	0.0	0.2	0.2
1二	フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切なものを選択する	効果的な資料を作成し、活用して話す	2ウ														85.6	87.7	87.3	0.0	0.3	0.4
1三	演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く	資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く	2ウ	1ウ													50.0	55.8	56.2	1.4	3.4	2.8
2一	ウェブページの文章の内容について述べた文の空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて文章を要約する			1イ												78.1	80.9	82.6	0.0	0.3	0.3
2二	雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える			1イ												62.3	66.5	67.8	0.0	0.3	0.3
2三	資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く	2ウ	2ウ													19.2	23.4	23.0	(5.5)	5.2	3.7
3一	「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する	表現の工夫について自分の考えをもつ			1エ												82.9	88.1	88.6	0.0	0.5	0.5
3二	「あたりは……良かった。」の説明として適切なものを選択する				2ウ												75.3	81.4	82.6	0.0	0.6	0.7
3三	文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く	1ウ	2ウ													36.3	33.3	31.1	(13.7)	15.7	11.2

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
 無回答率の()書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	1 / 9問
平均正答率が全道以上の設問数	1 / 9問
無回答率が5%以上の設問数	2 / 9問

中学校 [数学 A : 主として知識]

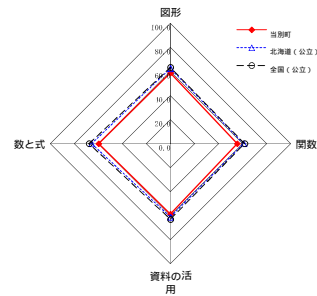
数学Aの学力調査では、当別町生徒の平均正答率が58.4%で、全国平均の64.4%より6.0ポイント下回りました。昨年度の全国と当別町の差は-1.8ポイントで、4.2ポイント差が広がりました。各領域で、全国平均との差が広がり、特に「数と式」「関数」の領域、評価の観点からは「数学的な技能」で差が大きくなりました。

集計結果

対象生徒数		当別町	北海道(公立)	全国(公立)
		146	40,965	1,016,737

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)			
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)	
全体			36	58.4	63.0	64.4
学習指導要領の領域	数と式	12	59.8	65.6	67.7	
	図形	12	58.8	62.5	63.4	
	関数	8	55.6	60.9	61.7	
	資料の活用	4	58.7	61.1	63.0	
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	0				
	数学的な技能	17	57.5	63.2	65.0	
	数量や図形などについての知識・理解	19	59.2	62.9	63.9	
問題形式	選択式	19	59.5	63.5	64.6	
	短答式	17	57.1	62.4	64.2	
	記述式	0				

< 学習指導要領の領域の平均正答率の状況 >



設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域							評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
			数と式	図形	関数	資料の活用	意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数学への関心・意欲・態度	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)	全国(公立)			
1(1)	12:9と等しい比を選ぶ	比の意味を理解している	小6数(1)														83.8	92.1	93.6	0.0	0.1	0.1
1(2)	12・2×(-6)を計算する	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる	1(1)ウ														69.2	82.7	83.7	0.7	1.2	1.2
1(3)	aが正の数とき、a×(-2)の計算の結果について、正しい記述を選ぶ	正の数と負の数の乗法について理解している	1(1)イ														69.2	74.0	75.7	0.0	0.3	0.3
1(4)	ある日の最低気温を基準にして、その前日の最低気温との差から、前日の最低気温を求める	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	1(1)アエ														69.2	75.4	75.4	1.4	1.6	1.3
2(1)	5x-xを計算する	一次式の減法の計算ができる	1(2)イ														64.4	81.1	85.3	1.4	1.8	1.6
2(2)	赤いテープの長さがa cmで、白いテープの長さが3/5倍のとき、白いテープの長さをaを用いた式で表す	数量の関係を文字式に表すことができる	1(2)ウ														14.4	19.6	22.2	(8.9)	10.7	9.0
2(3)	等式 2x-y=5 をyについて解く	等式を目的に応じて変形することができる	2(1)ウ														54.8	60.1	64.2	(8.9)	8.2	6.8
2(4)	連続する3つの整数のうち最も小さい整数をnとするとき、それらの和が中央の整数の3倍になることを、nを用いた式で表す	文字を用いた式で数量の関係を説明するための構想を理解している	2(1)イ														45.2	53.3	57.0	(7.5)	9.3	7.9
3(1)	一元一次方程式 7x=5+4 を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解している	1(3)イ														70.5	78.8	79.4	0.0	0.6	0.5
3(2)	一元一次方程式 1.2x-6=0.5x+1 を解く	小数を含む一元一次方程式を解くことができる	1(3)ウ														65.1	72.2	73.8	(11.0)	7.7	7.1
3(3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を表した式を選ぶ	具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくること	2(2)ウ														39.0	43.7	44.9	0.0	1.0	0.9
3(4)	連立二元一次方程式 4x+2y=5, x+y=2 を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2)ウ														45.9	54.4	56.8	(11.0)	10.9	10.4
4(1)	直線の作図で利用されている図形の性質を選ぶ	直線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している	1(1)ア														57.5	57.8	59.1	0.0	1.2	1.0
4(2)	A B Cを、矢印の方向に4 cm平行移動した図形をかく	平行移動した図形をかきことができる	1(1)イ														65.6	54.3	54.5	2.1	2.2	2.2
5(1)	直方体において、与えられた面に垂直な面を書く	空間における直線と平面の垂直について理解している	1(2)ア														41.8	46.3	47.4	2.7	2.3	1.9
5(2)	直角三角形の斜辺を軸として回転させてできる立体を選ぶ	直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の形を理解している	1(2)イ														80.8	83.5	83.4	0.0	0.4	0.3
5(3)	与えられた投影図から立体を読み取り、その立体を選ぶ	与えられた投影図から空間図形を読み取ることができる	1(2)イ														72.6	82.1	83.8	0.0	0.4	0.4
5(4)	与えられた式で体積が求められる立体を全て選ぶ	与えられた式を用いて体積を求めることができる立体を理解している	1(2)ウ														40.4	54.1	56.4	0.7	1.7	1.4
6(1)	同位角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	同位角の意味を理解している	2(1)ア														79.5	80.2	80.3	0.0	0.5	0.4
6(2)	四角形を五角形に変えたときの、内角の和の変化について正しい記述を選ぶ	多角形の内角の和の性質を理解している	2(1)イ														62.3	67.8	69.7	0.0	1.0	0.9
7(1)	ひし形 ABCDにおいて、AC BDが表す性質を選ぶ	ひし形の「対角線は垂直に交わる」という性質を、記号を用いた表現から読み取ることができる	2(2)ウ														73.3	74.0	76.1	0.0	0.5	0.5
7(2)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2(2)ア														79.5	76.3	76.1	3.4	7.0	6.8
7(3)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	作図の根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している	2(2)ウ														40.4	47.0	48.1	1.4	1.1	0.9
8	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	証明の必要性和意味を理解している	2(1)ア														21.9	26.2	25.8	0.7	1.3	1.2
9	yがxの関数でない事象を選ぶ	関数の意味を理解している	1(1)ア														78.8	80.5	81.5	0.0	1.0	0.9
10(1)	反比例のグラフを選ぶ	反比例のグラフがx軸、y軸に限りなく近づく2つのなめらかな曲線であることを理解している	1(1)エ														62.3	60.7	61.7	0.7	1.3	1.2
10(2)	比例 y=2x のグラフ上の点Aのx座標が3のときのy座標を求める	与えられた比例の式について、そのグラフ上の点のx座標を基にy座標を求めることができる	1(1)ウエ														52.7	62.1	64.9	(11.0)	11.2	9.8
10(3)	比例のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求める	与えられた比例のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求めることができる	1(1)エ														37.7	48.5	49.3	(25.3)	19.1	17.2
11	一次関数の表から、xとyの関係を表した式を選ぶ	一次関数の表から、xとyの関係を式で表すことができる	2(1)イ														56.2	63.9	64.7	1.4	1.4	1.4
12(1)	時間と道のりの関係を表すグラフから、速さが最も速い区間を選ぶ	時間と道のりの関係を表すグラフについて、グラフの傾きが速さを表すことを理解している	2(1)イ														40.4	50.1	49.9	0.0	1.4	1.3
12(2)	時間と道のりの関係を表すグラフを基に、出発してから15分後にいる地点までの家からの道のりを求める	時間と道のりの関係を表すグラフから、与えられた時間における道のりを読み取ることができる	2(1)イ														78.8	83.6	83.8	(11.0)	9.2	8.5
13	二元一次方程式 x+y=3 の解を座標とする点の集合として正しいものを選ぶ	二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解している	2(1)ウ														37.7	37.8	37.9	1.4	2.4	2.3
14(1)	反復標とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求めることができる	1(1)ア														40.4	44.4	46.0	(13.0)	10.3	9.7
14(2)	度数分布表について、ある階級の度数を求める	与えられた資料の度数分布表について、ある階級の度数を求めることができる	1(1)ア														69.9	73.5	75.9	(13.7)	11.0	9.4
15(1)	セットメニューの選び方の総数を求める	起こり得る場合を順序よく整理し、場合の数を求めることができる	小6数(5)														70.5	73.7	74.8	4.8	6.0	5.2
15(2)	さいころを投げるときの確率について正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している	2(1)ア														64.1	52.6	55.4	0.7	2.4	2.1

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
 無回答率の()書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	5 / 36問
平均正答率が全道以上の設問数	6 / 36問
無回答率が5%以上の設問数	10 / 36問

中学校 [数学B : 主として活用]

数学Bの学力調査では、当別町生徒の平均正答率が36.2%で、全国平均の41.6%より5.4ポイント下回りました。昨年度の全国と当別町の差は+0.9ポイントで、6.3ポイント差が広がりました。

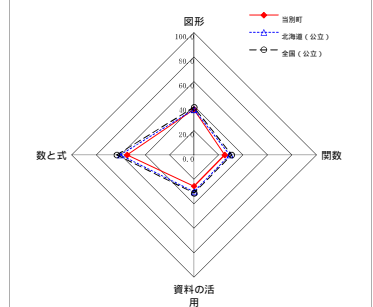
「図形」の領域で、全道より上回りましたが、各領域とも全国平均に届きませんでした。

「数と式」の領域、評価の観点から「数量や図形などについての知識・理解」の領域で昨年度より大幅にさが開いています。

集計結果

対象生徒数		当別町	北海道（公立）	全国（公立）	
		145	40,942	1,016,548	
分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（%）		
			当別町	北海道（公立）	全国（公立）
全体		15	36.2	39.7	41.6
学習指導要領の領域	数と式	4	54.8	60.2	63.2
	図形	4	37.1	37.1	39.0
	関数	5	25.0	29.3	30.7
	資料の活用	2	25.5	30.2	31.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	13	37.8	40.7	42.8
	数学的な技能	2	25.9	33.2	34.2
	数量や図形などについての知識・理解	0			
問題形式	選択式	4	44.5	47.5	47.9
	短答式	4	41.0	45.7	47.4
	記述式	7	28.8	31.9	34.8

< 学習指導要領の領域の平均正答率の状況 >



設問別集計結果

一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率（%）			無解答率（%）		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道（公立）	全国（公立）	当別町	北海道（公立）	全国（公立）
1(1)	投影距離と投影画面の高さの関係を式で表す	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる			1(1)イ								17.2	26.9	29.3	(19.3)	23.3	21.1	
1(2)	投影画面がスクリーンに収まり、できるだけ大きく映し出すことができる投影距離を選ぶ	必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができる			1(1)イ、オ							32.4	35.8	35.1	1.4	0.9	0.9		
1(3)	映像の明るさを2倍にするための投影画面の面積の変え方を選び、その理由を説明する	事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1)イ、オ							8.3	9.1	11.7	4.8	7.9	5.6		
2(1)	連続する3つの整数が19、20、21のとき、それらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(1)イ、ウ									69.7	75.4	78.8	(6.9)	7.2	6.0		
2(2)	連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	2(1)イ、ウ									33.1	39.9	43.1	(31.0)	27.9	24.0		
2(3)	連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	2(1)イ、ウ									59.3	60.5	63.8	(26.9)	23.2	19.4		
3(1)	ポップアップカードを90°に開いたとき、四角形EFGHが正方形になる場合のEFの長さを求める	平面図形と空間図形を関連付けて事象を考察し、その特徴を的確に捉えることができる		1(2)イ、ウ	2(2)ウ							42.8	41.0	42.6	(10.3)	10.3	8.7		
3(2)	四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように点Fの位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明することができる		1(2)イ、ウ	2(2)ウ							15.2	19.2	21.2	(49.7)	54.7	48.2		
4(1)	証明で用いた三角形の合同を根拠として、証明したこと以外に新たにわかることを選ぶ	証明を振り返り、新たな性質を見いだすことができる		2(2)ア、ウ								42.1	41.7	42.5	0.0	1.2	1.2		
4(2)	正方形ABCDを平行四辺形ABCDに変えても、AE=CFとなることの証明を完成する	発展的に考え、条件を変えた場合について証明することができる		2(2)イ、ウ								48.3	46.3	49.6	(20.7)	22.6	18.6		
5(1)	1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答える	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる			小5数量(3)1(1)イ				*			34.5	39.4	39.1	(32.4)	29.3	26.8		
5(2)	2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言えないと主張することのできる理由を、グラフを基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1)イ							16.6	20.9	23.3	(35.2)	34.0	29.7		
5(3)	記名のある落とし物を1個1点、ない落とし物を1個2点として集計するとき、表彰する学級の決め方として正しい記述を選ぶ	振り返って立てられた構想に沿って、事象を数学的に表現し、その意味を解釈することができる	2(1)イ									57.2	65.1	67.3	0.7	1.5	1.5		
6(1)	中心角の大きさxと半径の長さyの間にある関係について、正しい記述を選ぶ	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断できる		2(1)イ								46.2	47.5	46.5	0.7	1.4	1.3		
6(2)	底面になる円の半径の長さが8cmのとき、表や式から、側面にあるおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する	与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる		2(1)イ								20.7	27.1	30.8	(19.3)	21.5	17.1		

* 評価の観点は、数量や図形に関する技能（小学校）に対応させている。

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの
無回答率の()書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	1 / 15問
平均正答率が全道以上の設問数	3 / 15問
無回答率が5%以上の設問数	9 / 15問

中学校 [理科]

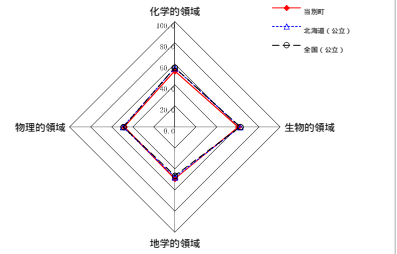
理科の学力調査では、当別町生徒の平均正答率が52.0%で、全国平均の53.0%より1.0ポイント下回りました。
 平成24年度の全国と当別町の差は-0.9ポイントで、0.1ポイント差が広がりました。

「地学的領域」で全国平均より上回り、評価の観点からは「観察・実験の技能」「自然現象についての知識・理解」の領域で全国平均より上回り、問題形式では「短答式」の問題で全国を上回りました。

集計結果

対象生徒数		当別町	北海道(公立)	全国(公立)	
		147	40,952	1,016,572	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
全体		25	52.0	53.3	53.0
枠組み	主として「知識」に関する問題	7	69.0	65.4	63.8
	主として「活用」に関する問題	18	45.6	48.6	48.8
学習指導要領の分野等	第1分野 物理的領域	7	48.1	49.3	48.9
	化学的領域	7	53.1	55.9	56.2
	生物的領域	6	60.3	62.1	62.2
	地学的領域	6	49.2	47.7	46.4
評価の観点	自然現象への関心・意欲・態度	0			
	科学的な思考・表現	18	45.6	48.6	48.8
	観察・実験の技能	2	51.0	47.1	46.8
	自然現象についての知識・理解	5	75.0	72.7	70.6
問題形式	選択式	16	51.7	53.3	53.1
	短答式	4	65.0	63.1	61.6
	記述式	5	42.3	45.4	45.8

<学習指導要領の分野等の平均正答率の状況>



設問別集計結果

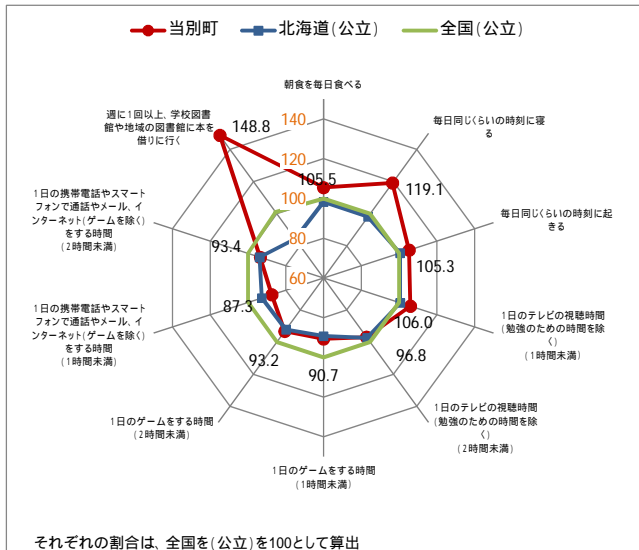
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み 主として「知識」に関する問題 主として「活用」に関する問題	学習指導要領の分野等		評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)		
				第1分野	第2分野			当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)	全国(公立)
1(1) 化学式	塩化ナトリウムの化学式を選ぶ	塩化ナトリウムを化学式で表すことができる		(4)イ(ア)				84.4	80.3	79.6	0.0	0.3	0.3
1(1) 濃度	濃度5%の塩化ナトリウム水溶液100gをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める	特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求めることができる		(2)イ(ア)				40.1	44.6	45.0	(17.7)	19.4	17.6
1(2)	同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムをそれぞれ加えたとき、どちらが炭酸水素ナトリウムであるかを選ぶ	実験の結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘することができる		(2)イ(イ)				24.5	32.2	32.6	0.0	0.3	0.3
1(3)	水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する	二酸化炭素の体積を量る場において、水上置換法では正確に量れない理由を説明することができる		(2)ア(イ)				50.3	54.5	53.0	(19.0)	18.3	18.8
1(4)	炭酸水素ナトリウムを加熱したときの質量の変化のグラフから、温度と化学変化の記述として適切なものを選ぶ	グラフを分析して解釈し、化学変化について正しく読み取ることができる		(4)ア(ア)				77.0	72.7	73.6	0.0	0.4	0.4
1(5)	ベーキングパウダーの原料材で、気体の発生に関係しているのが、炭酸水素ナトリウムであることを特定するための対照実験を選ぶ	炭酸水素ナトリウムが二酸化炭素の発生に関係することを特定するための対照実験を計画することができる		(4)ア(ア)				44.2	49.9	51.7	0.7	0.7	0.8
1(6)	他者の考えを検討して改善し、炭酸水素ナトリウムとクエン酸の混合物を加熱したときの化学変化の説明として最も適切なものを選ぶ	他者の考えを検討して改善し、混合物を加熱したときの化学変化を説明することができる		(4)ア(ア)				50.3	57.2	57.7	0.7	1.1	1.2
2(1)	天気図から風力を読み取る	天気図の記号から風力を読み取ることができる		(4)ア(ア)	*			88.4	81.2	77.9	2.0	7.8	9.0
2(2)	天気図から風向を読み取り、その風向を示している風向計を選ぶ	天気図の記号から風向を読み取り、風向計を使って風向を観測することができる		(4)ア(ア)				81.9	49.6	48.6	0.0	0.4	0.5
2(3)	湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明し他者の考えを検討して、誤っているところを改善する	他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することができる		(4)イ(ア)				15.0	16.9	14.5	(6.8)	9.3	6.7
2(4)	上空を飛行中の飛行機内での菓子袋の膨らみを検証する実験について、空気圧を抜く操作に対応する飛行機の状況を選択する	気圧の変化で菓子袋が膨らむことについてモデルを使った実験を計画することができる		(1)イ(イ)	(4)イ(ア)			64.0	62.8	62.2	0.0	0.4	0.5
3(1)	13時から16時の四つの気象観測の記録から、最も高い湿度を選ぶ	露点を測定する場において、最も高い湿度の時刻を指摘することができる		(4)ア(ア)	(4)イ(ア)			36.1	37.7	36.5	0.0	0.6	0.6
3(2)	上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる装置として適切なものを選ぶ	一定の時間に多くの雨が降る原因を探る実験を計画することができる		(4)イ(ア)				31.3	38.0	39.0	0.7	0.8	0.8
4(1)	実験の結果から、凸レンズによる実像ができるときの、像の位置や大きさについて適切な説明を選ぶ	凸レンズによってできる像を調べる実験の結果を分析して解釈し、規則性を指摘することができる		(1)ア(イ)				38.8	41.5	43.7	0.0	0.5	0.6
4(2)	ヒトの「目のレンズと網膜の距離はほぼ変わらない」という条件に合う方法を選ぶ	他者の考えた実験の方法を検討して改善し、適切な方法を説明することができる		(1)ア(イ)				47.6	50.8	50.3	0.7	1.0	1.1
5(1)	抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求める	オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる		(3)ア(イ)				62.0	61.6	59.6	(14.3)	16.0	15.6
5(2)	電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を、「磁界」という言葉を使って説明する	技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入切りによる磁界の変化を説明することができる		(3)イ(ア)				57.1	54.3	56.8	(32.0)	33.2	30.7
6(1)	音の波形を比較し、音の高さが高くなった根拠として、正しいものを選ぶ	日常生活の場面において、音の高さが高くなったといえる音の波形の特徴を指摘することができる		(1)ア(ア)				38.8	43.1	40.1	0.0	0.8	0.8
6(2)	音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選ぶ	音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画することができる		(1)ア(ア)				27.2	30.9	29.9	0.0	1.0	1.0
7(1)	消化酵素によって、デンプンが最終的に分解された物質の名称を選ぶ	デンプンが消化酵素によって分解されて、最終的にできる物質の名称を表すことができる		(3)イ(ア)				72.8	75.3	72.2	0.0	0.8	0.9
7(2)	キウイフルーツがゼラチンや寒天を分解する働きを説明した記述として適切なものを選ぶ	実験の結果を分析して解釈し、キウイフルーツはゼラチンを分解することを指摘することができる		(3)イ(ア)				79.0	76.0	76.4	0.0	1.0	1.1
7(3)	キウイフルーツの上新たに買ったゼリーの崩れ方を見られたという新たな疑問から、適切な課題を記述する	見いだした問題を基に、適切な課題を設定することができる		(3)イ(ア)				50.3	55.3	57.3	(29.9)	30.3	27.8
8(1)	背骨のある動物の名称を答える	背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことができる		(3)ア(ア)				72.1	65.0	63.9	(8.8)	9.2	10.4
8(2)	えらぶたの閉閉回数から平均値を求める理由として適切なものを選ぶ	平均値を求める場面において、平均値を求める理由を説明することができる		(3)イ(ア)				48.3	54.8	55.7	0.0	1.3	1.4
8(3)	課題に対して適切な(課題に正対した)考察によるよう修正する	他者の考察を検討して改善し、課題に対して適切な(課題に正対した)考察を記述することができる		(3)イ(ア)				38.8	45.9	47.4	(30.6)	28.5	25.5

当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの
 当別町の斜線は、平均正答率が全国以上のもの
 無回答率の()書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	11 / 25問
平均正答率が全国以上の設問数	9 / 25問
無回答率が5%以上の設問数	8 / 25問

2) 学習状況調査 (生活習慣・学習環境等)

中学校:生活習慣

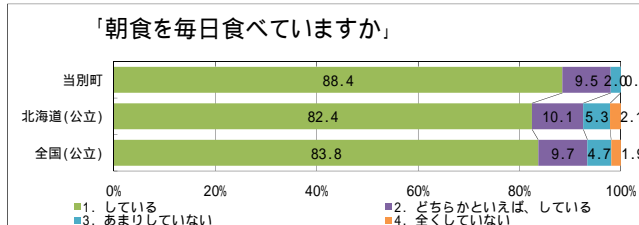


【生活習慣】

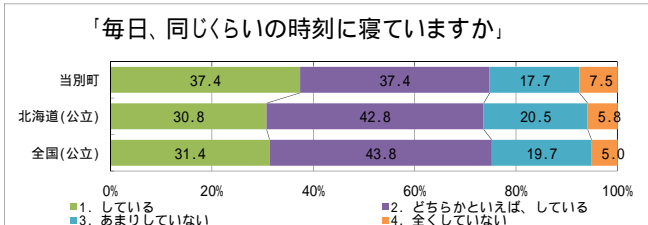
就寝・起床時刻や朝食摂取など、好ましい生活習慣はほぼ確立されていると考えられます。

TV・DVDの視聴時間や、ゲーム等の使用時間、インターネット等の利用時間が昨年度に引き続き全国平均より多い結果となりました。家庭での過ごし方の改善が必要になっています。

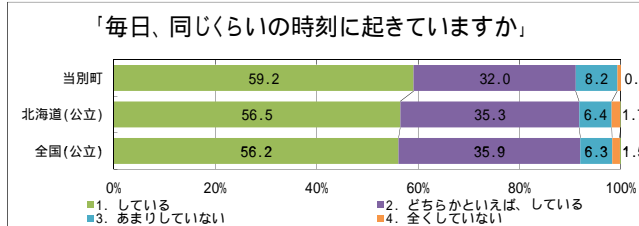
学校図書館や地域の図書館へ行く回数は、全国平均より多いです。しかし、平日の本を読む割合が減少しています。【国語の学習】の生徒質問紙調査で、「読書が好き」と回答した生徒の割合も、昨年度より減少しており、「当別町子どもの読書活動推進計画」を推進するとともに、巡回の図書館司書の配置による読書活動を推進する必要があります。



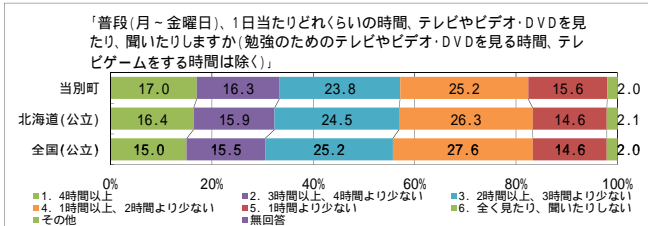
【生活】「朝食を毎日食べている」「どちらかといえば食べている」と答えた生徒の割合は97.9%で、全国より4ポイント多く、昨年度より2.1ポイント増加している。



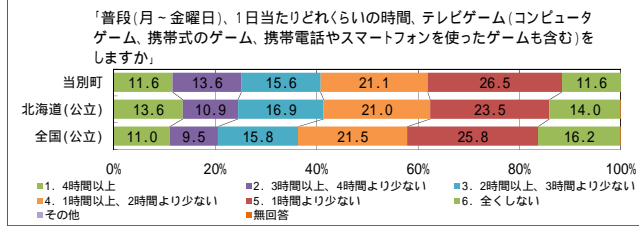
【生活】「毎日同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば寝ている」と答えた生徒の割合は74.8%で、全国より0.4ポイント少なく、昨年度より7.7ポイント増加している。



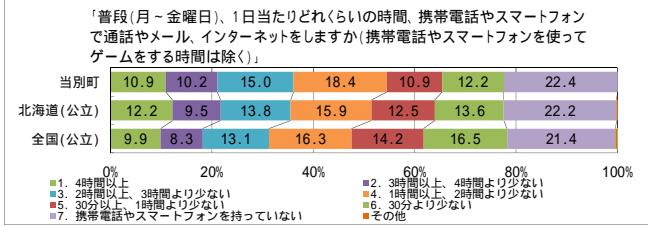
【生活】「毎日同じ時刻に起きています」「どちらかといえば起きています」と答えた生徒の割合は91.2%で、全国より0.9ポイント少なく、昨年度より0.3ポイント増加している。



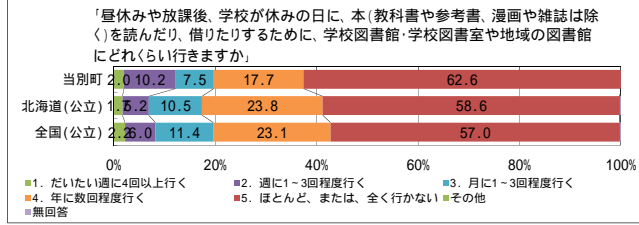
【生活】テレビやDVD等の視聴時間が「2時間以上」と答えた生徒の割合は57.1%で、全国より1.4ポイント多く、昨年度より0.4ポイント増加している。



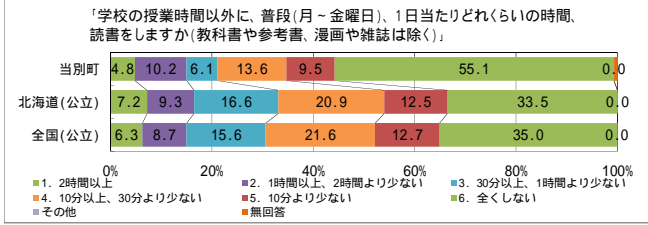
【生活】ゲーム等で遊ぶ時間が「2時間以上」と答えた生徒の割合は、40.8%で、全国より4.5ポイント多く、昨年度のより5.4ポイント増加している。



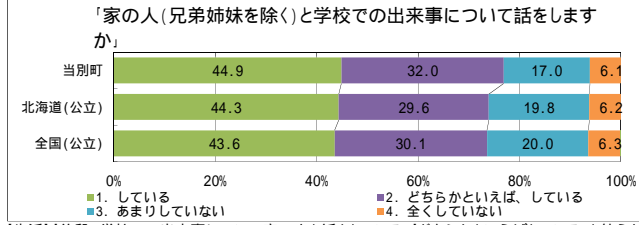
【生活】インターネット等の使用時間が「1時間以上」と答えた生徒の割合は、36.1パーセントで、全国より4.8ポイント多く、昨年度より6ポイント減少している。「携帯電話、スマートフォンを持っていない」生徒の割合は、22.4%で昨年度より1.4ポイント減少している。



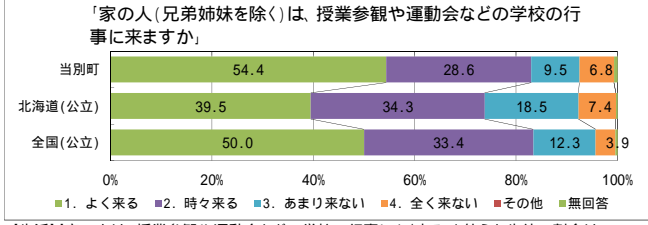
【生活】本を借りるに学校図書館や地域の図書館へ「週1回以上、行く」と答えた生徒の割合は12.2%で、全国より4ポイント多く、昨年度より6.7ポイント減少している。



【生活】授業時間以外の普段に本を「1時間以上、読む」と答えた生徒の割合は15.0%で全国と同様で、前年度より5.8ポイント減少している。

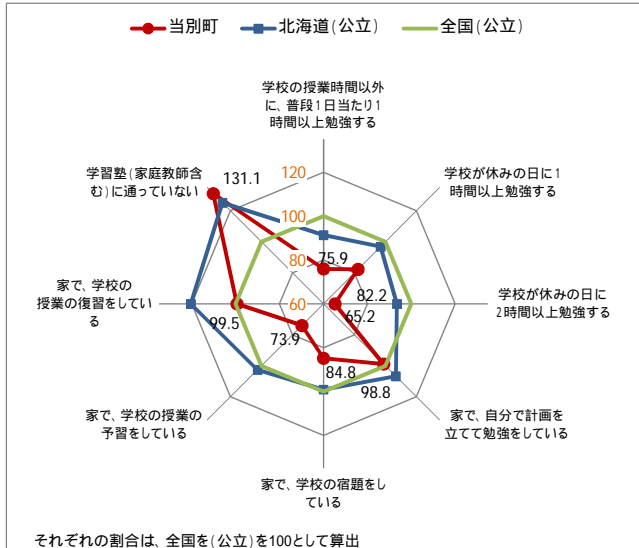


【生活】「普段、学校での出来事について家の人と話をしている」「どちらかといえば話している」と答えた生徒の割合は76.9%で、全国より3.6ポイント多く、昨年度より8ポイント増加している。



【生活】「家の人は、授業参観や運動会などの学校の行事によく来る」と答えた生徒の割合は54.4%で、全国より4.4ポイント多く、前年度より8.7ポイント増加している。

中学校:家庭学習

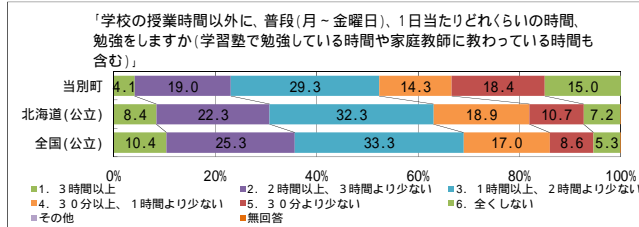


【家庭学習】

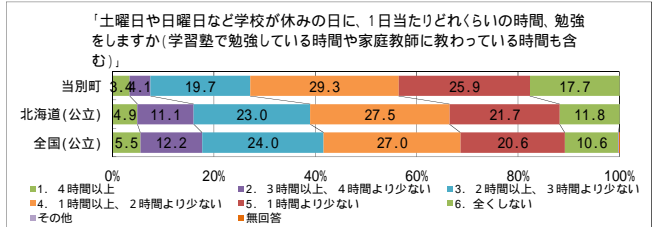
平日や休日、家庭学習を1時間以上取り組んでいる生徒の割合は、全国平均より少なく、昨年度からも数値が大きく減少しています。

家庭学習に取り組んでいる内容は、「宿題」「予習」「復習」が昨年度より大きく減少しています。「自分で計画を立てて勉強しています」の設問では「全くしていない」と答えた生徒の割合が全国平均より高く、家庭学習全般で低調な結果が表れています。家庭学習の指導、点検、再構築など改善が必要です。

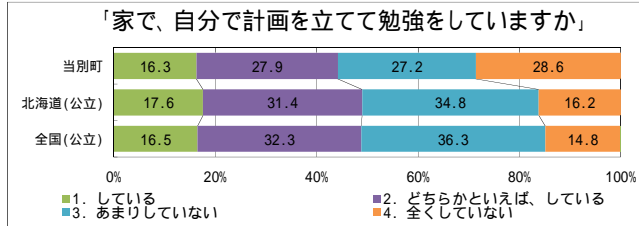
約半数の生徒が学習塾や家庭教師を活用して、勉強をしている状況となっています。



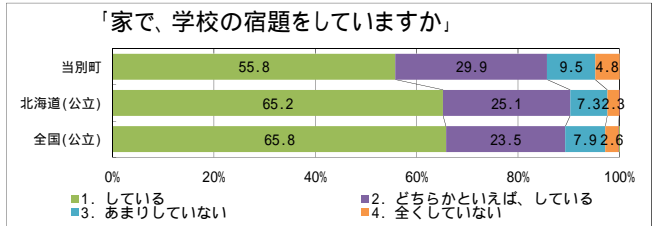
【家庭学習】普段の家庭で「1時間以上、勉強する」と答えた生徒の割合は52.4%で、全国より16.6ポイント少なく、昨年度より9.1ポイント減少している。



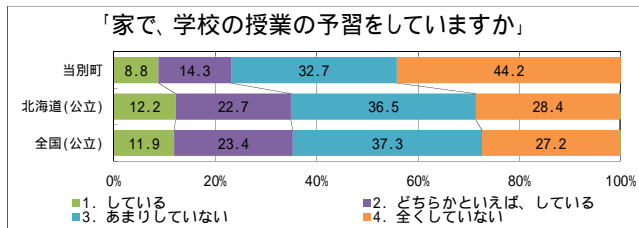
【家庭学習】土、日曜日など学校が休みの日に、「1時間以上、勉強する」と答えた生徒の割合は56.5%で、全国より12.2ポイント少なく、昨年度より11.1ポイント減少している。



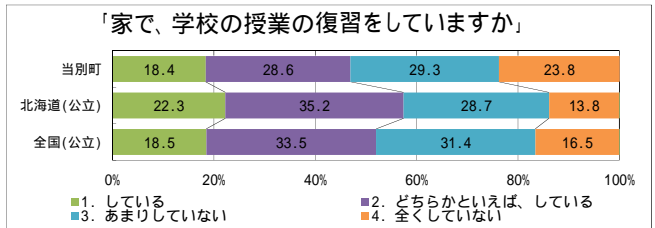
【家庭学習】「自分で計画を立てて勉強をしている」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は44.2%で、全国より4.6ポイント少なく、昨年度より0.9ポイント減少している。



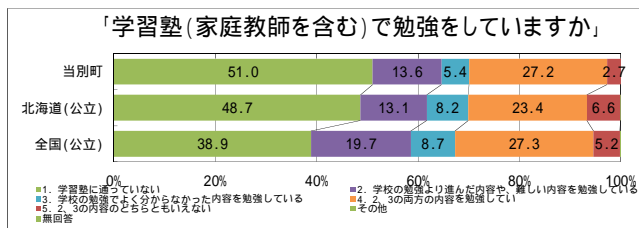
【家庭学習】「家で、学校の宿題をしている」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は85.7%で、全国より3.6ポイント少なく、昨年度より2.1ポイント減少している。



【家庭学習】「予習をしている」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は23.1%で、全国より12.2ポイント少なく、昨年度より5.6ポイント減少している。

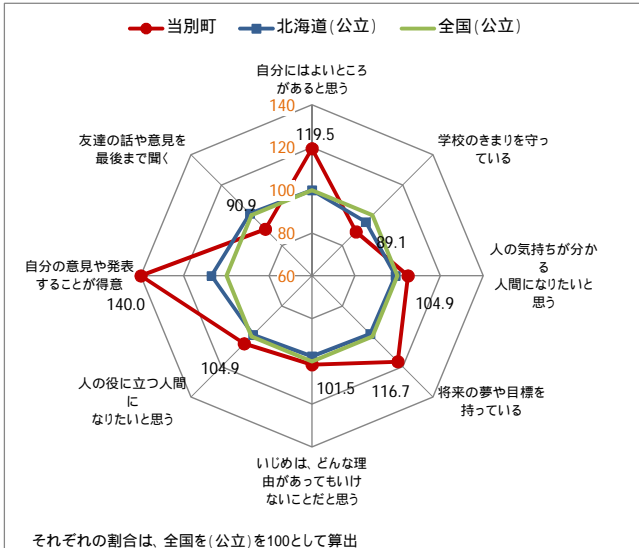


【家庭学習】「復習をしている」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は47.0%で、全国より5ポイント少なく、昨年度より15.8ポイント減少している。



【家庭学習】「学習塾(家庭教師も含む)に、塾に通っていない」と答えた生徒の割合が51.0%で、全国より12.1ポイント多く、前年度から2.8ポイント増加している。

中学校: 自己理解、自尊意識、規範意識



【自己理解】

「難しいことでも挑戦する」「自分には良いところがある」「友達の前で意見を発表できる」「将来の夢を持っている」と回答した生徒の割合が全国平均より上回り、物事に前向き、意欲的に取り組んでいる生徒の姿勢が窺えます。

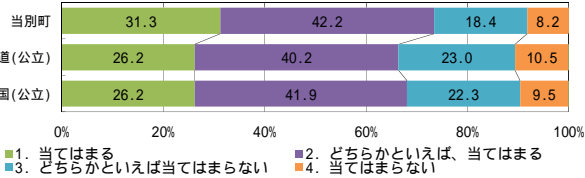
反対に「友達の話最後まで聞くことができる」と回答した生徒の割合が全国平均より少なく、昨年度よりも減少しています。自分は話を聞けるけれども、人の話はあまり丁寧に聞かないという特徴が窺えます。

【自尊意識、規範意識】

「いじめは、どんな理由があってもよくない」と回答した生徒の割合が昨年度より大きく向上し、全国平均より上回りました。他人を大切にすることは自分を大切にすることだという人権意識が高まっていると推察されます。

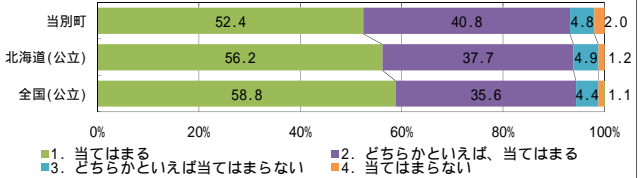
「人の気持ちが分かる人間になりたい」と回答した生徒の割合は年々増加しています。思いやりや気配りを大切にしている道徳教育による心の醸成が伴ってきていると推察されます。

「自分には、よいところがあると思いますか」



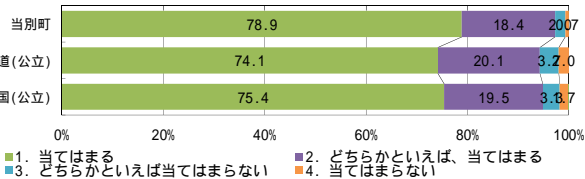
【自己理解】「自分には良いところがある」「どちらかといえば、ある」と答えた生徒の割合は73.5%で、全国より5.4ポイント多く、昨年度より2.2ポイント増加している。

「学校の規則を守っていますか」



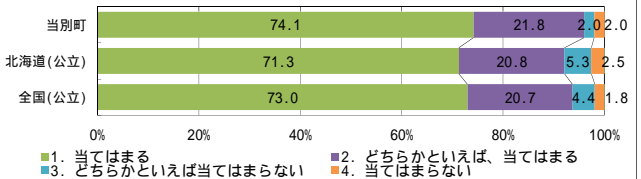
【自尊・規範】「学校の規則を守っている」「どちらかといえば守っている」と答えた生徒の割合は93.2%で、全国より1.2ポイント少なく、昨年度より1.3ポイント減少した。

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」



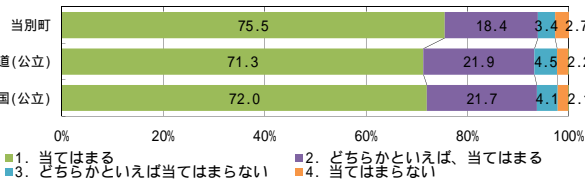
【自尊・規範】「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は97.3%で、全国より2.4ポイント多く、昨年度より2.8ポイント増加した。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」



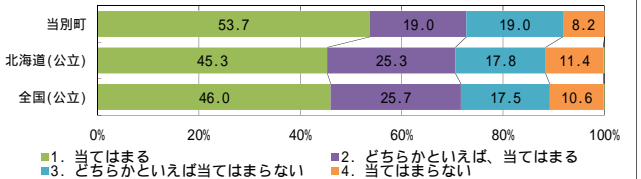
【自尊・規範】「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」と答えた生徒の割合は74.1%で、全国より1.1ポイント多く、昨年度より10.7ポイント増加した。

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」



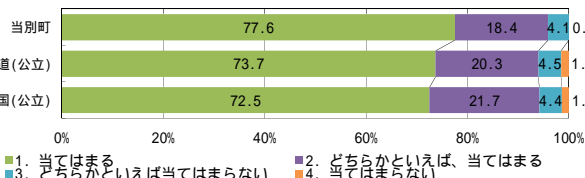
【自尊・規範】「人の役に立つ人間になりたいと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は93.9%で、全国より0.2ポイント多く、昨年度より1.9ポイント減少した。

「将来の夢や目標を持っていますか」



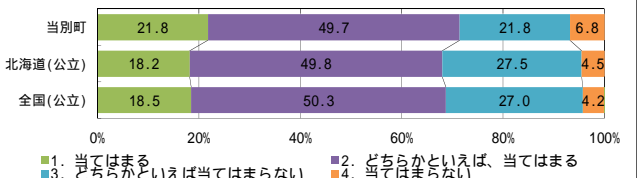
【自己理解】「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば持っている」と答えた生徒の割合は72.7%で、全国より1.0ポイント多く、昨年度より3.5ポイント減少している。

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」



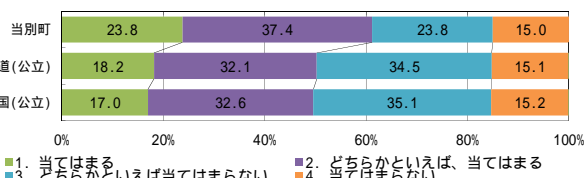
【自己理解】「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「どちらかといえばある」と答えた生徒の割合は96.0%で、全国より1.8ポイント多く、昨年度より0.9ポイント減少している。

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」



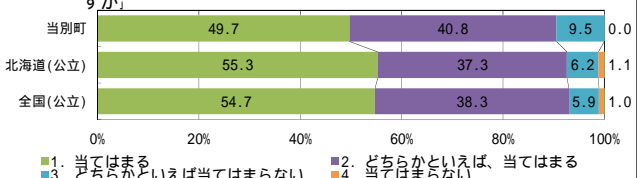
【自己理解】「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合は71.5%で、全国より2.7ポイント多く、昨年度より4.7ポイント減少している。

「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」



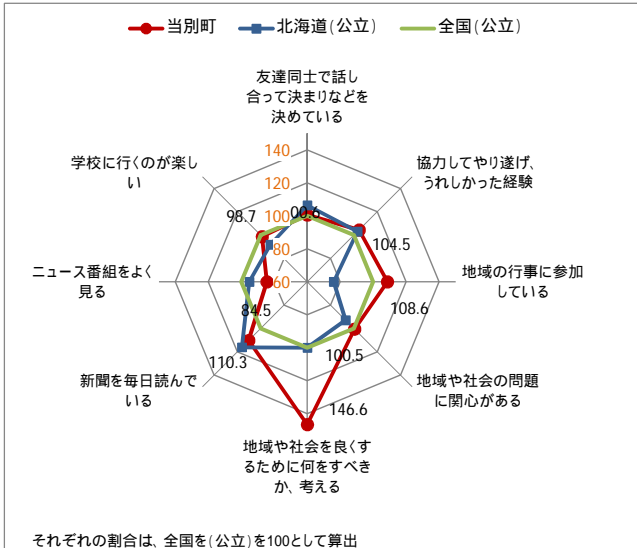
【自己理解】「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意」「どちらかといえば得意」と答えた生徒の割合は61.2%で、全国より11.6ポイント多く、昨年度より3.3ポイント増加している。

「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」



【自己理解】「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「どちらかといえば出来る」と答えた生徒の割合は90.5%で、全国より2.5ポイント少なく、昨年度の当町より5.2ポイント減少している。

中学校: 学校生活・社会生活



【学校生活】

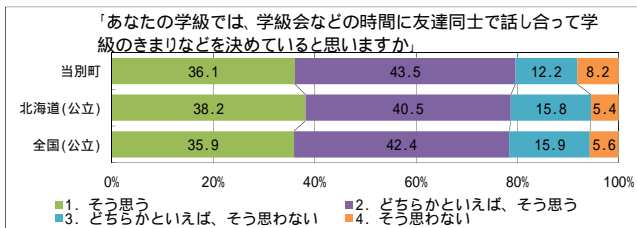
「学校に行くのが楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した生徒の割合は、全国平均より低い状況です。学校はもとより、生徒同士による楽しい雰囲気造りが大切です。

「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回っています。学級みんなで成功感・成就感・達成感を共有できたことで、まとまりのある学級が形成されていると推測されます。

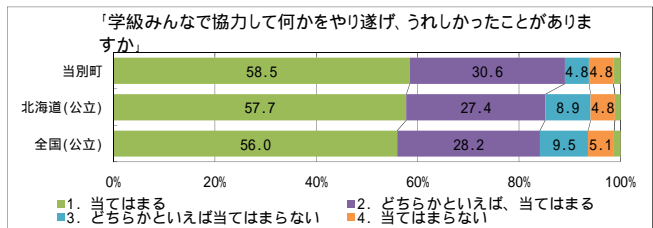
【社会生活】

「地元行事に参加する」「社会をよくするために何をすべきかを考える」と回答した生徒の割合は、昨年度より増加しています。

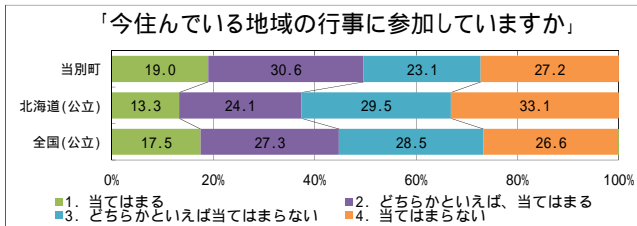
全国的な特徴の一つとして、社会で起こっている問題や出来事への関心が薄く、新聞からの情報よりテレビやインターネットから情報を得ている様子が窺えます。



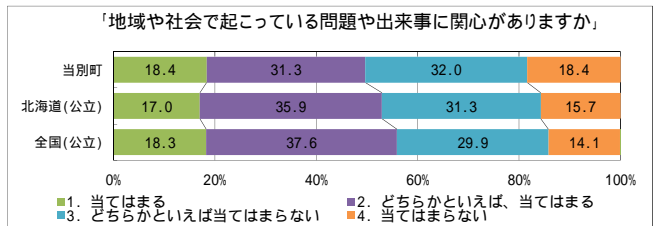
【学校生活】「あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていて」と答えた生徒の割合は36.1%で、全国とほぼ同様の数値となった。(H27新規)



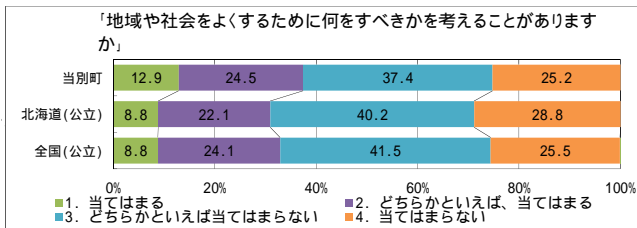
【学校生活】「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。」「どちらかといえば、ある」と答えた生徒の割合は89.1%で、全国より4.9ポイント多く、昨年度より3.7ポイント増加した。



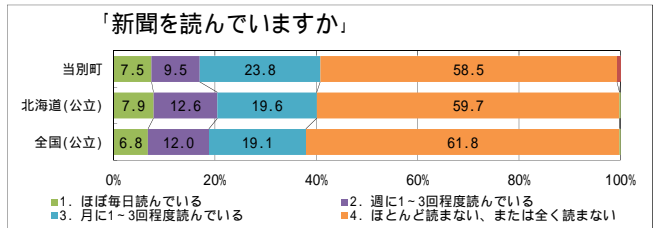
【社会生活】「地域の行事に参加して、」「どちらかといえば、参加している」と答えた生徒の割合は49.6%で、全国より4.8ポイント多く、昨年度より5.1ポイント増加した。



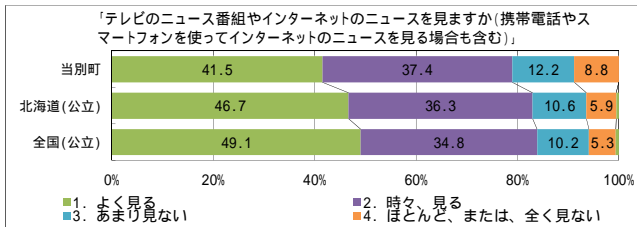
【社会生活】「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。」「どちらかといえば、ある」と答えた生徒の割合は49.7%で、全国より6.2ポイント少なく、昨年度より4ポイント減少した。



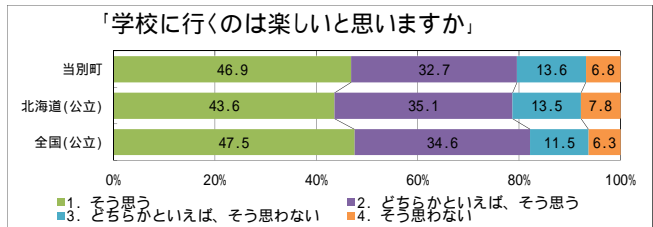
【社会生活】「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」「どちらかといえば、ある」と答えた生徒の割合は37.4%で、全国より4.5ポイント多く、昨年度より7.6ポイント増加した。



【社会生活】新聞を「毎日読んでいる」「週に1-3回程度読んでいる」と答えた生徒の割合は17.0%で、全国より1.8ポイント少なく、昨年度より3.7ポイント減少した。

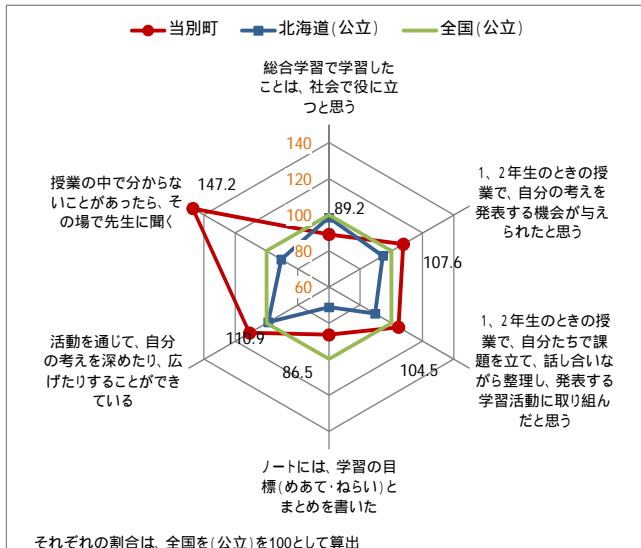


【社会生活】ニュース番組やインターネットのニュースを「よく見る。」「時々見る」と答えた生徒の割合は78.9%で、全国より5ポイント少なく、昨年度より1ポイント減少した。



【学校生活】「学校に行くのは楽しい。」「どちらかといえば、楽しい」と答えた生徒の割合は79.6%で、全国より2.5ポイント少なく、昨年度より2.7ポイント増加した。

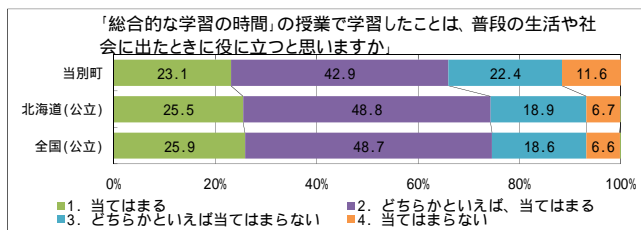
中学校:学習、総合的な学習の時間



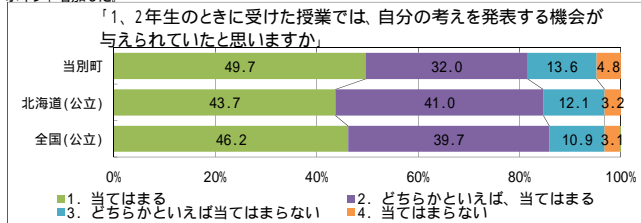
【学習・総合的な学習の時間】

1、2年生のときに受けた授業で、ノートに「学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いて」と回答した生徒の割合が、全国平均より低く、昨年度より減少しています。1時間の授業過程では「その時間の学習の目当て(目標)」「学習したことのまとめ」「分かったかどうかの確かめ・振り返り」が大切であり、学年が上がっても同じシステムで学習を進めていくことが、「学習の仕方」が身につくことにつながるため、小学校と中学校と連携し、統一した取り組みが必要です。

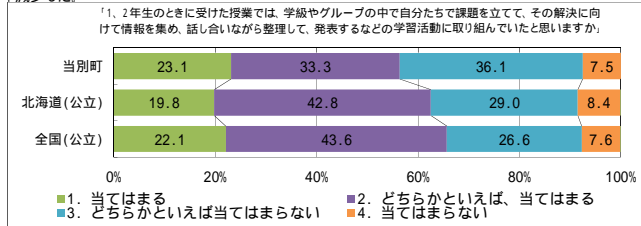
授業の中で分からないことがあった場合、「先生に聞く」と回答した生徒の割合は、全国平均より多い反面、「そのままにしておく」と回答した生徒の割合も全国平均より多く、勉強がわからないまま過ごしていることが懸念されます。引き続き、基礎学力の定着、下位層の引き上げに取り組む必要があります。



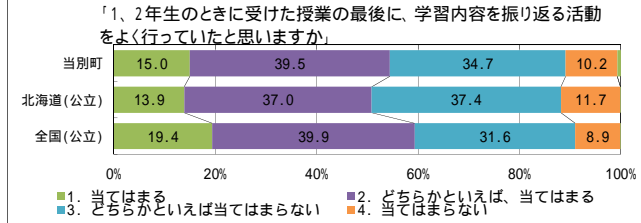
【総合学習】総合的な学習の時間で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに「役に立つと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は66.0%で、全国より8.6ポイント低く、昨年度より4.4ポイント増加した。



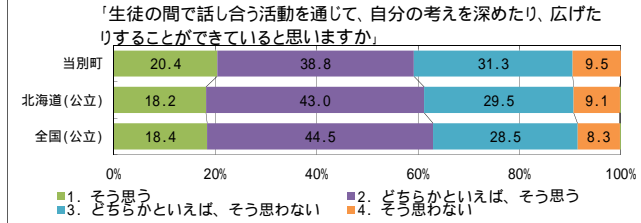
【学習】1、2年生のときに受けた授業で、「自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は81.7%で、全国より4.2ポイント少なく、昨年度より3.6ポイント減少した。



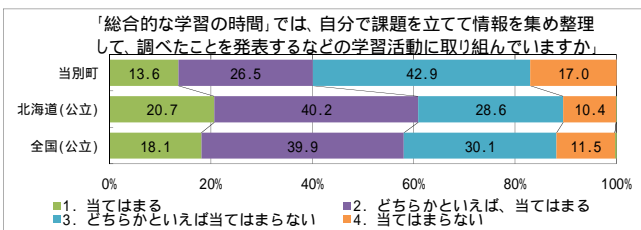
【学習】1、2年生のときに受けた授業で、学級やグループの中で課題を立て、情報を集め、話し合いながら整理して、発表する学習活動に取り組んでいたと思う「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は56.4%で、全国より9.3ポイント少ない。(H27新規)



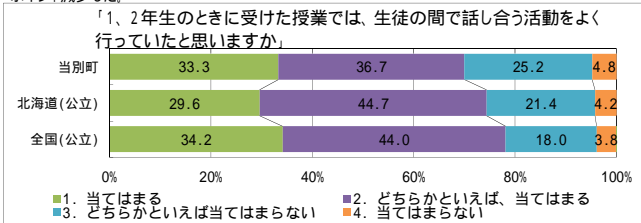
【学習】1、2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は54.5%で、全国より4.8ポイント少なく、昨年度より14.8ポイント増加した。



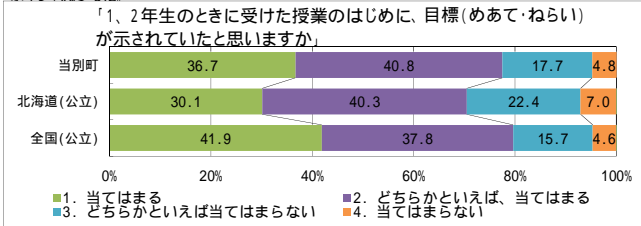
【学習】生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は59.2%で、全国より3.7ポイント少なく、昨年度より8.5ポイント減少した。



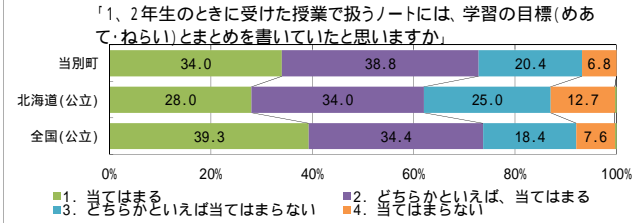
【総合学習】総合的な学習の時間で、調べたことを発表する学習活動に取り組んでいる「どちらかといえば、取り組んでいる」と答えた生徒の割合は40.1%で、全国より17.9ポイント少なく、昨年度より16ポイント減少した。



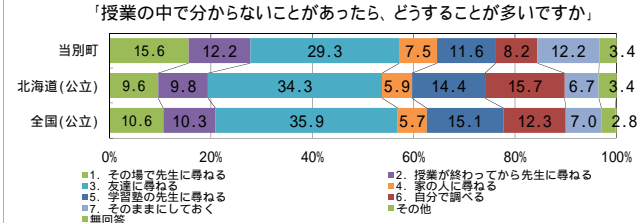
【学習】1、2年生のときに受けた授業で、学級の友達と話し合う活動をよく行っていたと思う「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は70.0%で、全国より8.2ポイント少なく、昨年度より8.6ポイント減少した。



【学習】1、2年生のときに受けた授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は77.5%で、全国より2.2ポイント少なく、昨年度より11.6ポイント増加した。

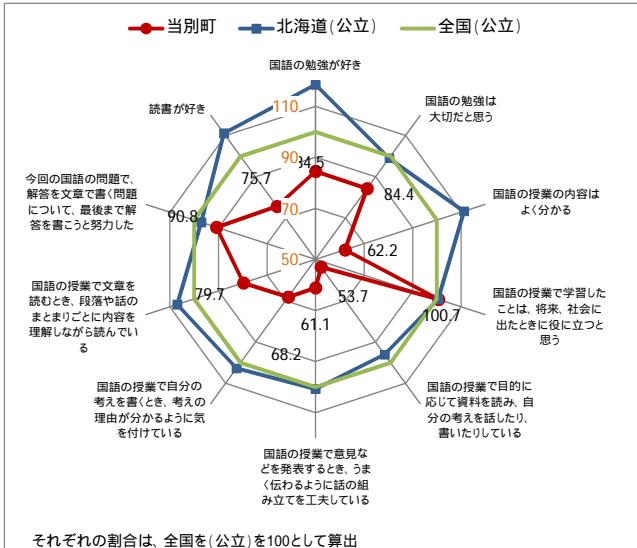


【学習】1、2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いてあったと思う「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は72.8%で、全国より0.9ポイント少ない。(H27新規)



【学習】授業の中で分からないことがあったとき、「友人に尋ねる」が最も多く(29.3%で、次に「その場で先生に尋ねる」で15.6%となった。「そのままにしておく」が全国平均より5.2ポイント多い。

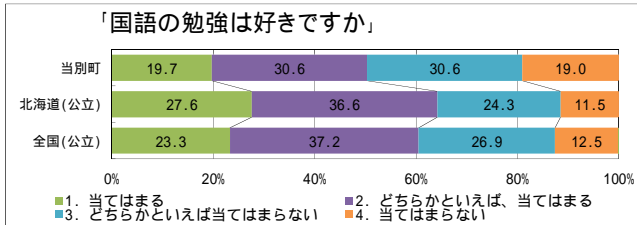
中学校:国語の学習



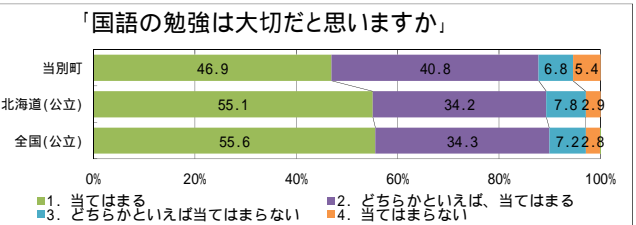
【国語の学習】
 「国語が好きだ」「国語は大切」「授業はよく分る」「学んだことは将来役に立つ」「読書は好き」と回答した生徒の割合が全国平均及び昨年度と比較して大きく下回る結果となりました。実態を精査し、具体的な改善策の策定が必要です。

「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合は、全国平均より少なく、昨年度からも減少しています。途中で諦めてしまう傾向があり、生徒の「粘り強さ」を引き出す指導の工夫が必要になっています。

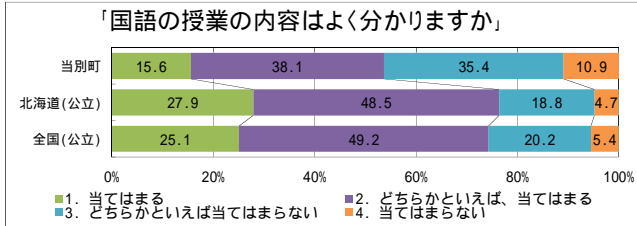
「読書が好き」と回答した割合が昨年度より減少しています。本年度から計画実施している「当別町子どもの読書活動推進計画」を推進し、巡回の図書館司書と学校が連携し、生徒の興味を引く図書の選書や図書環境の充実を進める必要があります。



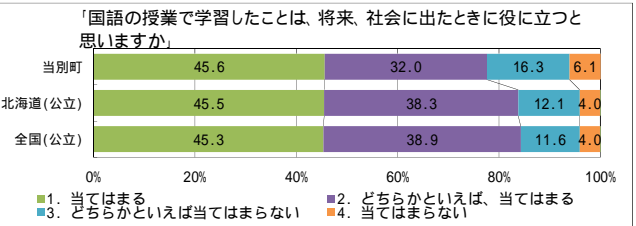
【国語】国語の勉強は「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた生徒の割合は50.3%で、全国より10.2ポイント少なく、昨年度より10.1ポイント減少した。



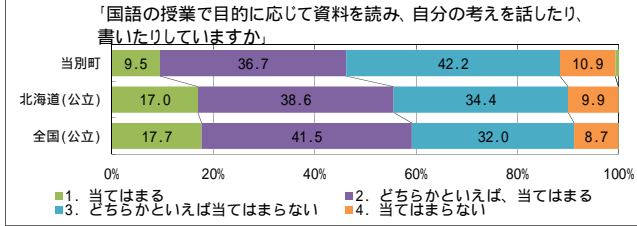
【国語】国語の勉強は大切だと思う「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は87.7%で、全国より2.2ポイント少なく、昨年度より0.7ポイント減少した。



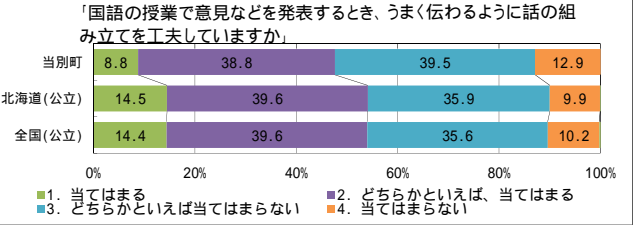
【国語】国語の授業の内容は「よくわかる」と答えた生徒の割合は15.6%で昨年より4.6ポイント増加したが、「どちらかといえば、わかる」を含めると53.7%で、全国より20.6ポイント少なく、昨年度より11.0ポイント減少した。



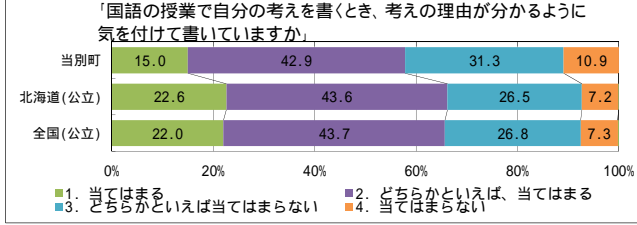
【国語】国語の学習は、将来、社会に出たときに役に立つ「思う」「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は77.6%で、全国より6.6ポイント少なく、昨年度より8.4ポイント減少した。



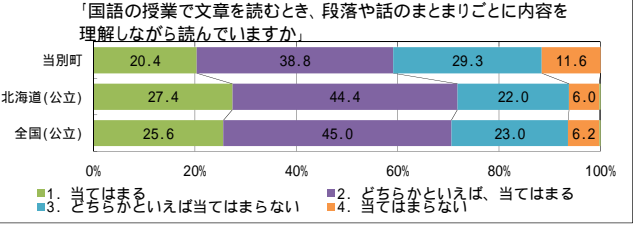
【国語】国語の授業で「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は46.2%で、全国より13.0ポイント少なく、昨年度より14.7ポイント減少した。



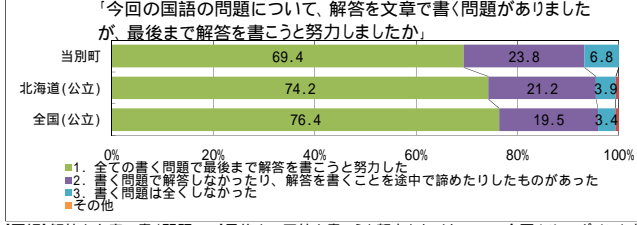
【国語】国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように「話の組み立てを工夫している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は47.6%で、全国より6.4ポイント少なく、昨年度より0.6ポイント減少した。



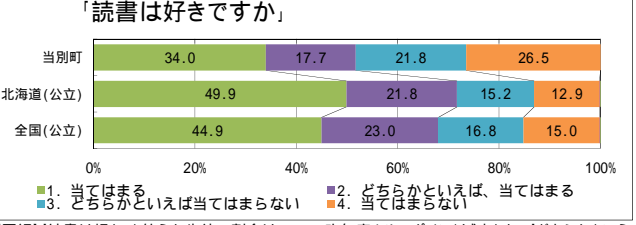
【国語】国語の授業で自分の考えを書くとき、「考えの理由が分かるように気を付けて書いている」「どちらかといえば、書いている」と答えた生徒の割合は57.9%で、全国より7.8ポイント少なく、昨年度より6.1ポイント減少した。



【国語】国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら「読んでいます」「どちらかといえば、読んでいます」と答えた生徒の割合は59.2%で、全国より11.4ポイント少なく、昨年度より10.9ポイント減少した。

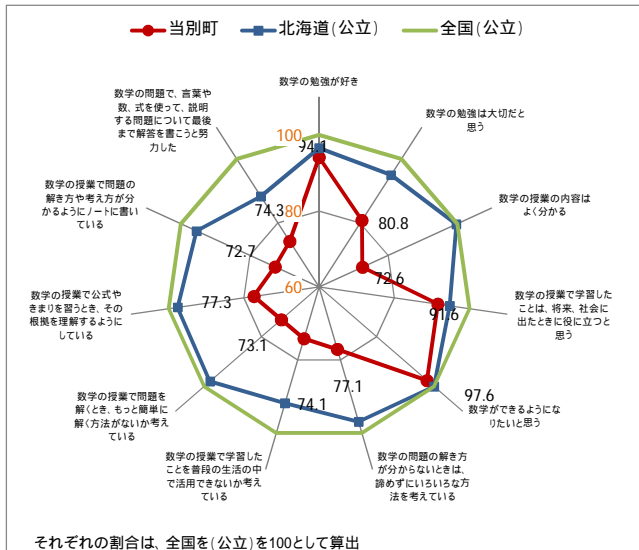


【国語】解答を文章で書く問題で、「最後まで解答を書くよう努力した」は69.4%で全国より7.0ポイント少なく、昨年度より1.9ポイント減少した。「書く問題は全くしなかった」が6.8%で昨年度より3.8ポイント増加した。



【国語】「読書は好き」と答えた生徒の割合は34.0%で昨年度より19ポイント減少した。「どちらかといえば、好き」を含めると51.7%で、全国より16.7ポイント少なく、昨年度より25.1ポイント減少。「当てはまらない」は、昨年度より16.1ポイント増加した。

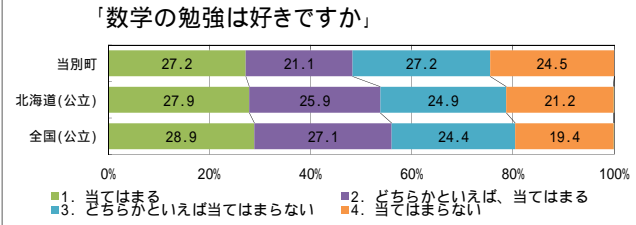
中学校: 数学の学習



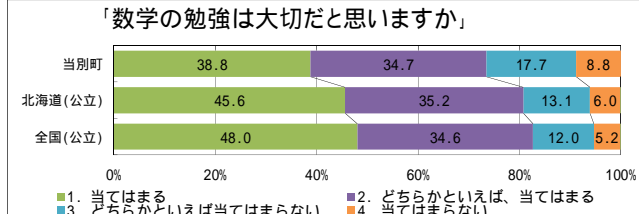
【数学の学習】
数学の全設問で全国平均及び昨年度より下回る結果になりました。この状況を厳しく受け止め、授業の工夫改善が必要となっています。

「数学の授業で学習したことは、将来役に立つ」と回答した生徒の割合が少ないことが懸念されます。本生徒が平成24年度の小学校6年生の時に実施した調査では、84.9%が「役に立つと思う」と答えています。3年を経過して大きく減少していることが、懸念されます。

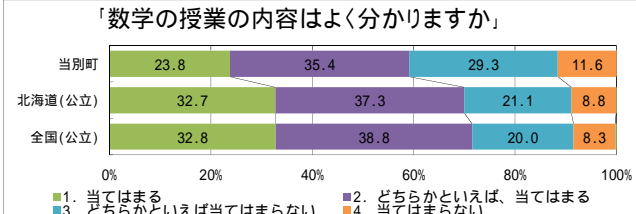
「今回の問題を最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合は、全国平均を下回り、前年度からも減少しています。国語と同様に「粘り強さ」が気薄になっていることが懸念されます。



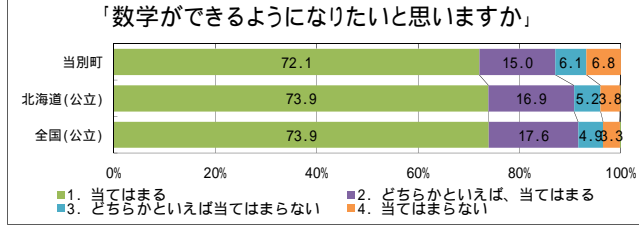
【数学】「数学の勉強は好き」と答えた生徒の割合は27.2%で、昨年度より0.4ポイント増加した。「どちらかといえば、好き」を含めると48.3%で、全国より7.7ポイント少なく、昨年度より5.3ポイント減少した。



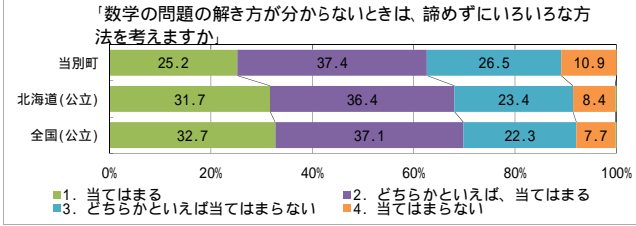
【数学】「数学の勉強は大切だと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は73.5%で、全国より9.1ポイント少なく、昨年度より5.8ポイント減少した。



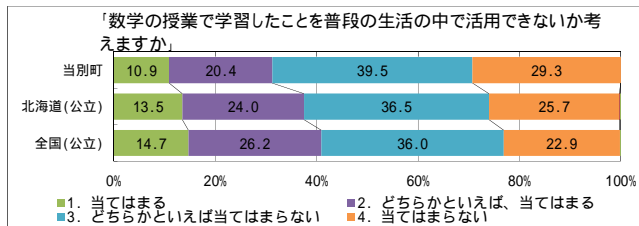
【数学】「数学の授業の内容はよくわかる」と答えた生徒の割合は23.8%で昨年より1.8ポイント増加した。「どちらかといえば、わかる」を含めると59.2%で、全国より12.4ポイント少なく、昨年度より0.6ポイント減少した。



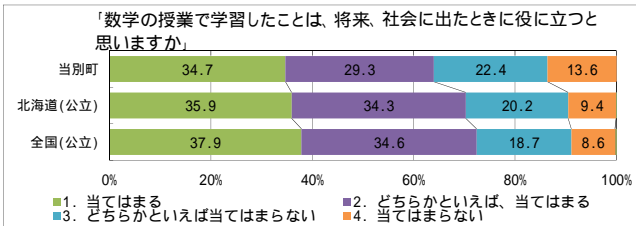
【数学】「数学ができるようになりたい」「どちらかといえば、なりた」と答えた生徒の割合は87.1%で、全国より4.4ポイント少なく、昨年度より4.4ポイント減少した。



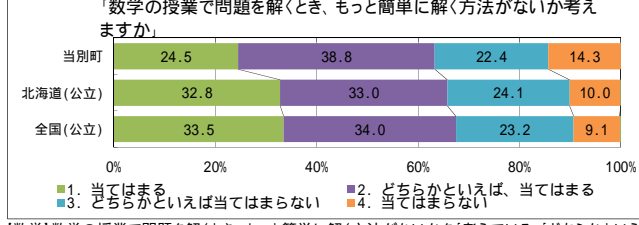
【数学】「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずに色々な方法を考える」「どちらかといえば、考える」と答えた生徒の割合は62.6%で、全国より7.2ポイント少なく、昨年度より5ポイント減少した。



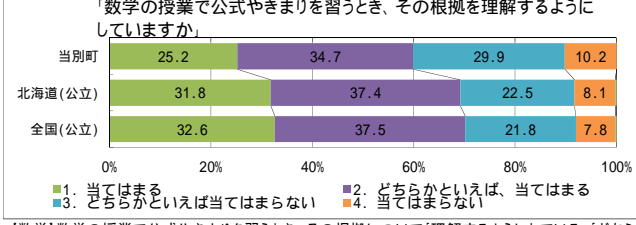
【数学】「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか」考えている。「どちらかといえば、考えている」と答えた生徒の割合は31.3%で、全国より9.6ポイント少なく、昨年度より7.1ポイント減少した。



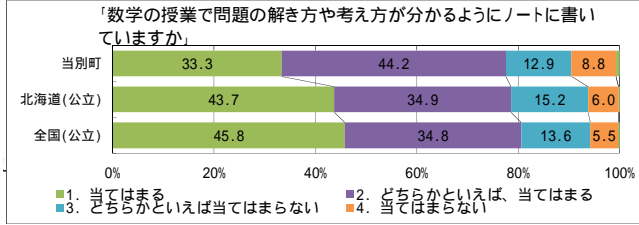
【数学】「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と答えた生徒の割合は64.0%で、全国より8.5ポイント少なく、昨年度より4.3ポイント減少した。



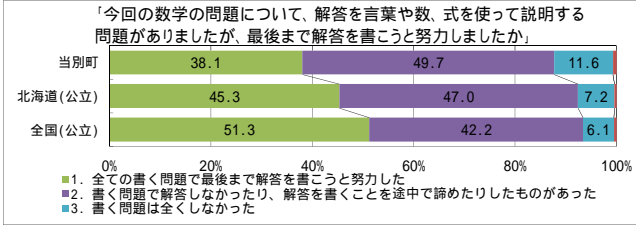
【数学】「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか」考えている。「どちらかといえば、考えている」と答えた生徒の割合は63.3%で、全国より4.2ポイント少なく、昨年度より2.5ポイント減少した。



【数学】「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠について「理解するようにしている」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は59.9%で、全国より10.2ポイント少なく、昨年度より12.1ポイント減少した。

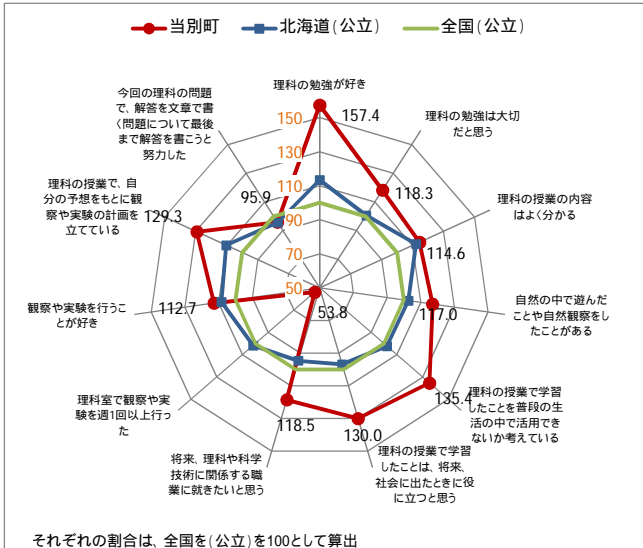


【数学】「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるように」ノートに書いています。「どちらかといえば、書いています」と答えた生徒の割合は77.5%で、全国より3.1ポイント少なく、昨年度より1.2ポイント減少した。

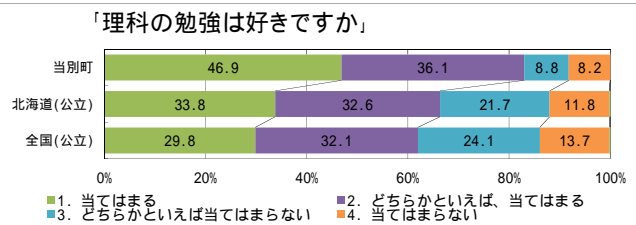


【数学】「解答を言葉や数、式を使って説明する問題を、最後まで解答を書こうと努力した」は38.1%で、全国より13.2ポイント少なく、昨年度より21.7ポイント減少した。「書く問題は全くしなかった」が11.6%で、昨年度より8.6ポイント増加した。

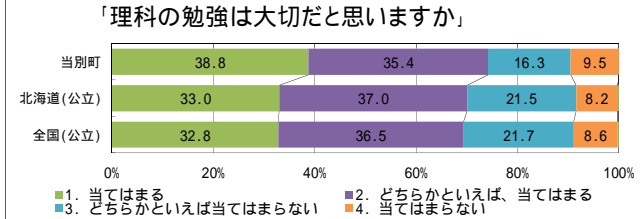
中学校:理科の学習



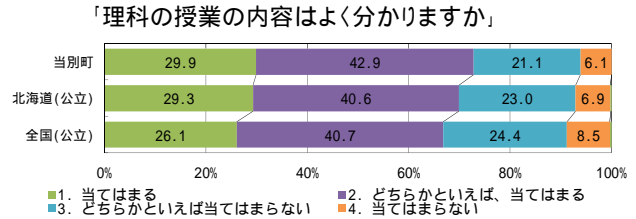
【理科の学習】
 「理科の勉強は大切」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回り、平成24年度より大幅に向上しています。このことが、学力数値の結果に表れたと考えられます。
 「観察や実験は好き」と回答した生徒の割合は、全国平均より上回りました。実験を通して学習することが学力の成果に繋がっていると推察されます。



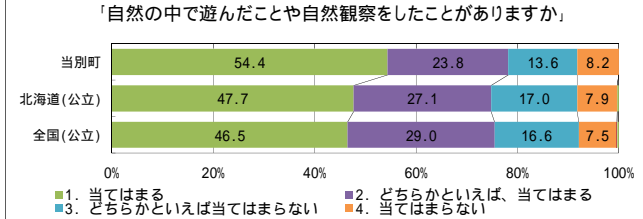
【理科】「理科の勉強は好き」と答えた生徒の割合は46.9%で、平成24年度より21.4ポイント増加した。「どちらかといえば、好き」を含めると83%で、全国より21.1ポイント多く、平成24年度より20.5ポイント増加した。



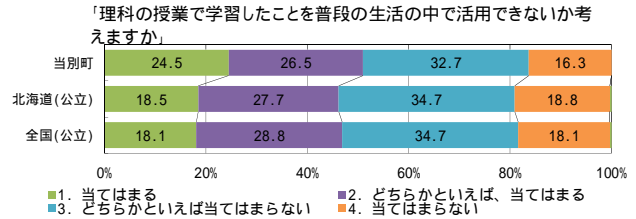
【理科】「理科の勉強は大切だと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は74.2%で、全国より4.9ポイント多く、平成24年度より12.2ポイント増加した。



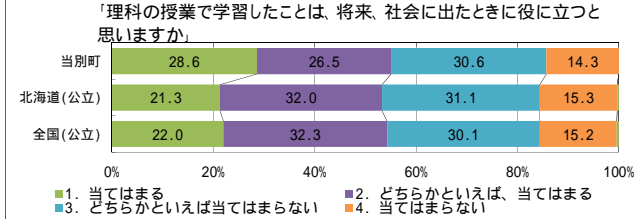
【理科】「理科の授業の内容はよくわかる」と答えた生徒の割合は29.9%で平成24年度より10.9ポイント増加した。「どちらかといえば、よくわかる」を含めると72.8%で、全国より6ポイント多く、平成24年度より14.8ポイント増加した。



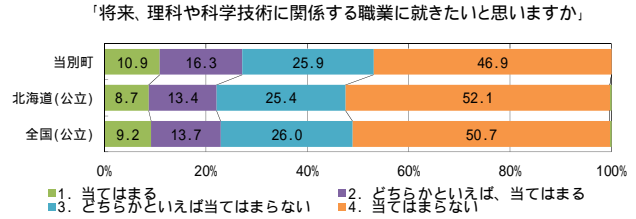
【理科】「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」「どちらかといえば、ある」と答えた生徒の割合は78.2%で、全国より3.4ポイント多く、平成24年度より2.7ポイント増加した。



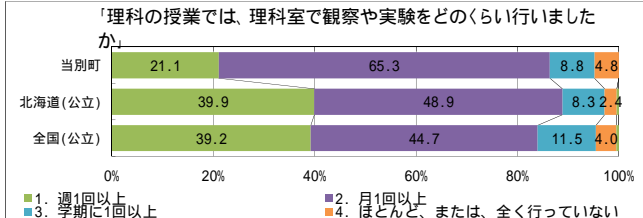
【理科】理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを「考えている」「どちらかといえば、考えている」と答えた生徒の割合は51.0%で、全国より4.1ポイント多く、平成24年度より20.5ポイント増加した。



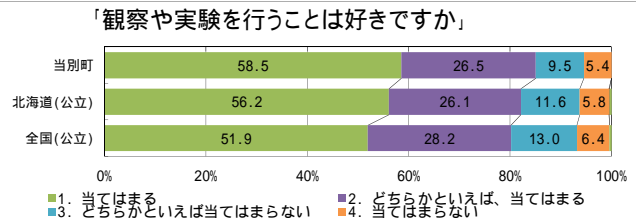
【理科】理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに「役に立つと思う」「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は55.1%で、全国より0.8ポイント多く、平成24年度より8.6ポイント増加した。



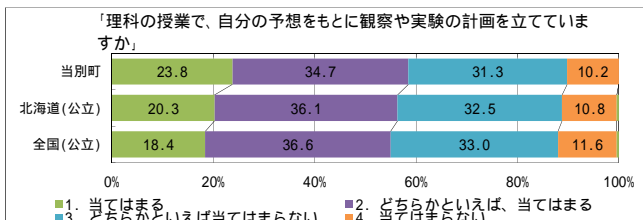
【理科】将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思う「どちらかといえば、思う」と答えた生徒の割合は27.2%で、全国より4.3ポイント多く、平成24年度より6.2ポイント増加した。



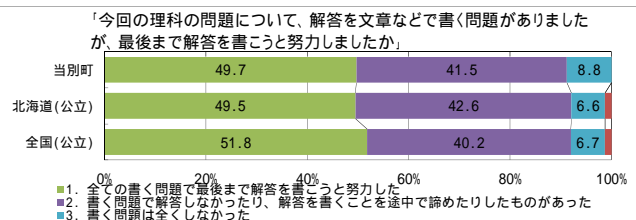
【理科】理科室での観察や実験の回数について、「週1回以上」と答えた生徒の割合は21.1%で全国より18.1ポイント少なく、「月1回以上」と含めると86.4%で、全国より2.5ポイント多い。(H27新規)



【理科】「観察や実験を行うことは好き」「どちらかといえば、好き」と答えた生徒の割合は85.0%で、全国より4.9ポイント多く、平成24年度より3ポイント増加した。

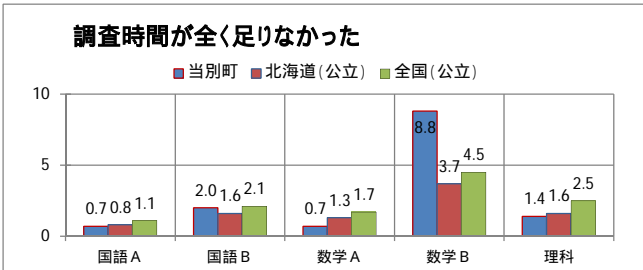
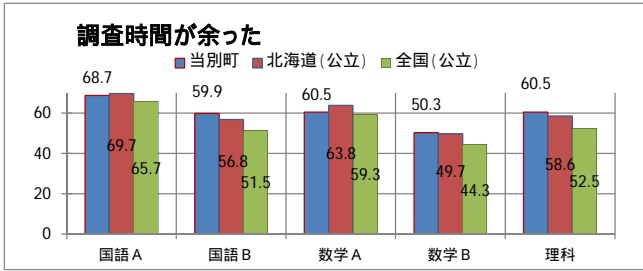


【理科】理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てて「勉強している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は58.5%で、全国より3.5ポイント多く、平成24年度より11.5ポイント増加した。



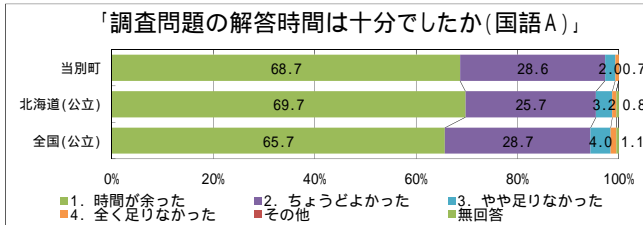
【理科】解答を文章などで書く問題で「最後まで解答を書こうと努力した」が49.7%で、全国より2.1ポイント少なく、平成24年度より3.2ポイント増加した。「書く問題は全くなかった」は8.8%で平成24年度より0.3ポイント増加した。

中学校：調査時間

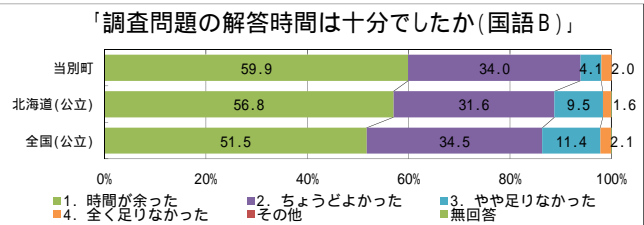


【調査時間】
 国語A・B、数学A、理科で、90%以上の生徒が「時間が余った」「ちょうどよかった」と答えています。

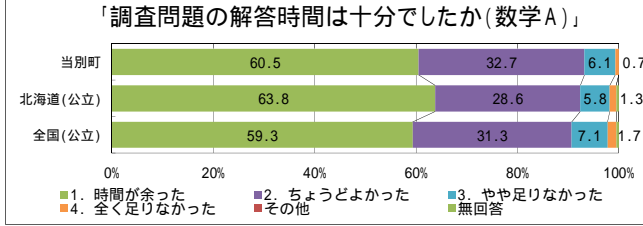
国語、数学ともに「学力調査」の結果と生徒質問調査の「最後まで答えを書くことに努力した」と回答した生徒の割合が全国平均より低い結果を比べ「時間が余った」と答えた生徒の割合が高く、答えを書くことをあきらめている生徒がいることがわかります。余った時間を利用して回答を見直すなどの指導が必要です。



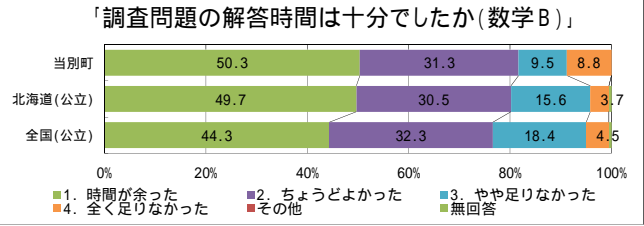
【調査時間】(国語A)の調査時間で、「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた生徒の割合は97.3%で全国より2.9ポイント多く、昨年度より0.3ポイント減少した。「全く足りなかった」は0.7%で昨年度は0%だった。



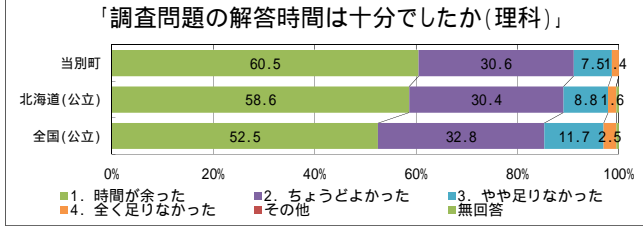
【調査時間】(国語B)の調査時間は、「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた生徒の割合は93.9%で全国より7.9ポイント多く、昨年度より6.7ポイント増加した。「全く足りなかった」は2.0%で昨年度は0%だった。



【調査時間】(数学A)の調査時間は、「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた生徒の割合は93.2%で全国より2.6ポイント多く、昨年度より1.3ポイント減少した。「全く足りなかった」は0.7%で昨年度は0.6%だった。



【調査時間】(数学B)の調査時間は、「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた生徒の割合は81.6%で、全国より5.0ポイント多く、昨年度より3.1ポイント減少した。「全く足りなかった」は8.8%で昨年度は1.8%だった。



【調査時間】(理科)の調査時間は、「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた生徒の割合は91.1%で、全国より5.8ポイント多く、平成24年度より13.6ポイント増加した。「全く足りなかった」は1.4%で平成24年度は3.0%だった。

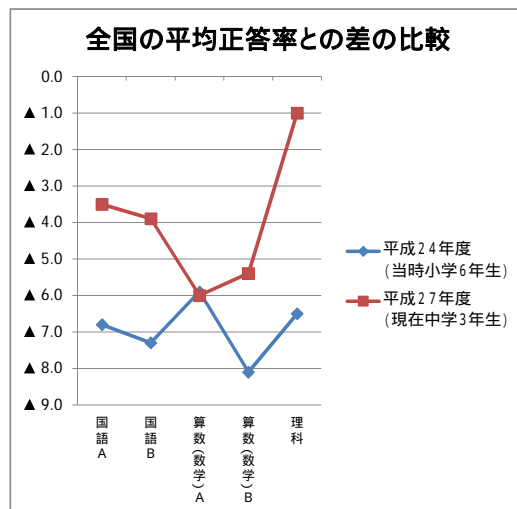
小学生から中学校への経年変化

平成24年度調査時に小学6年生の児童が、今年度中学3年生で同調査を実施しています。学力の成長や生活習慣、学習環境等の経年変化を比較しています。

1) 学力の経年変化

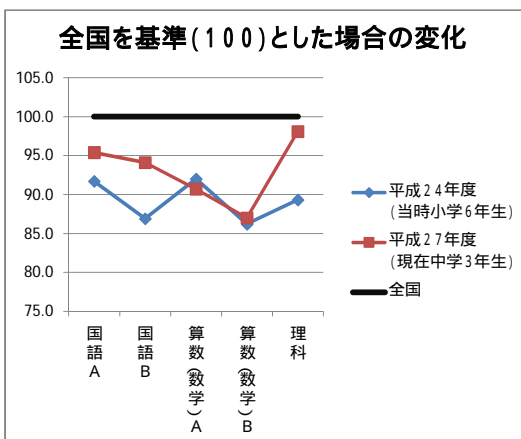
全国の平均正答率との差の比較

		国語A	国語B	算数 (数学)	算数 (数学)	理科
平成24年度 (当時小学6年生)	当別町	74.8	48.3	67.4	50.8	54.4
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9
	全国との差	6.8	7.3	5.9	8.1	6.5
平成27年度 (現在中学3年生)	当別町	72.3	61.9	58.4	36.2	52.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
	全国との差	3.5	3.9	6.0	5.4	1.0



全国を基準(100)とした場合の変化

		国語A	国語B	算数 (数学) A	算数 (数学) B	理科
平成24年度 (当時小学6年生)		91.7	86.9	92.0	86.2	89.3
平成27年度 (現在中学3年生)		95.4	94.1	90.7	87.0	98.1
全国		100	100	100	100	100



平均正答率では、問題数の違いやその年の難易度があるので、全国の平均正答率を100とした基準点を設定し、正当比を比較しています。

国語Aでは+3.7ポイント向上し、国語Bでは+7.2ポイント向上しています。

算数・数学Aでは-1.3ポイントの減少。算数・数学Bでは+0.8ポイント向上しました。

理科では+8.8ポイント向上しています。

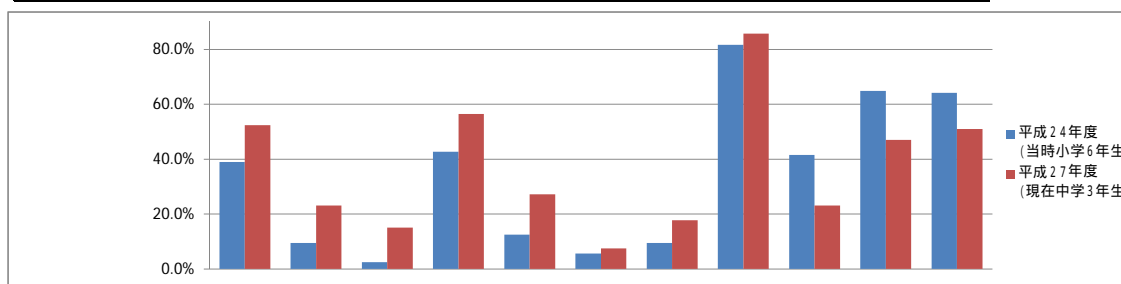
全体として、中学校教育での頑張りが窺えます。

算数・数学Aの基礎基本の領域で伸びなかった要因として、小学校時代にわからないことをわからないままにして、上級学年に進んでいると推測します。

小学校・中学校で連携し、細かくステップを再点検し、つまづきを発見して回復・修正を図っていく必要があります。

2) 生活習慣・学習環境等の経年変化

	平日1時間以上勉強する	平日2時間以上勉強する	平日勉強は全くない	休日1時間以上勉強する	休日2時間以上勉強する	休日3時間以上勉強する	休日勉強は全くない	家で宿題をしている・どちらかといえばしている	家で予習をしている・どちらかといえばしている	家で復習をしている・どちらかといえばしている	学習塾に通っていない
平成24年度 (当時小学6年生)	39.0%	9.4%	2.5%	42.7%	12.5%	5.6%	9.4%	81.7%	41.5%	64.8%	64.2%
平成27年度 (現在中学3年生)	52.4%	23.1%	15.0%	56.5%	27.2%	7.5%	17.7%	85.7%	23.1%	47.0%	51.0%
増減	+13.4%	+13.7%	+12.5%	+13.8%	+14.7%	+1.9%	+8.3%	+4.0%	18.4%	17.8%	13.2%

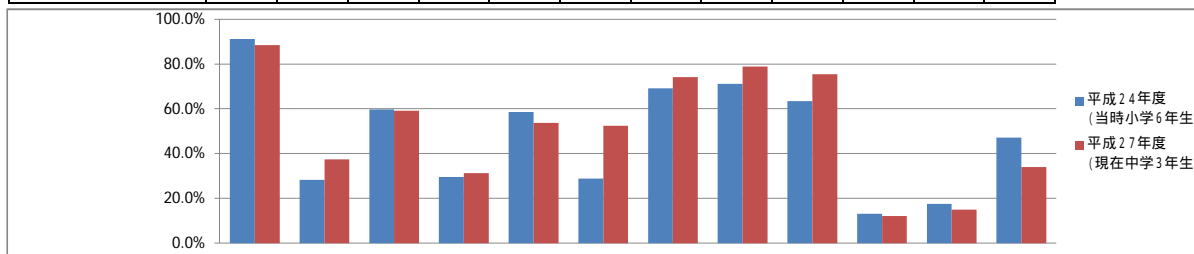


平日の家庭学習の時間は、教育委員会で配布している「家庭教育の手引き」や、学校で配布している「家庭学習の手引き」等もあり、飛躍的に増加しています。

家庭学習の主な内容として、宿題をしている割合は増えています。小学校時代は予習・復習をしている児童が多い傾向でしたが、中学生になると宿題が一定程度、定期的に出されるので宿題をこなすことで満足してしまう様子が窺えます。

家庭学習をする生徒と家庭学習を全くしない生徒、共に小学生時代から増加しています。「する子」と「しない子」の2極化が進んでいる様子が窺えます。また平日1日当たり家庭学習時間が30分未満の生徒割合は約33%（生徒質問紙調査から）で、全国平均より2倍以上となっています。下位層の割合と近似していることから、家庭学習に目を向けさせる取組を家庭と連携して取り組んでいく必要があります。

	朝食を毎日食べている	毎日同じくらいに寝る	毎日同じくらいに起きる	自分には、よいところがある	将来の夢や目標を持っている	学校の規則を守っている	いじめは、いけないことだと思っている	人の気持ちが分かる人間になりたい	人の役に立つ人間になりたい	週に1回以上、学校図書館や地域の図書館に行く	平日1時間以上読書をする	読書は好き
平成24年度 (当時小学6年生)	91.2%	28.3%	59.7%	29.6%	58.5%	28.9%	69.2%	71.1%	63.5%	13.2%	17.6%	47.2%
平成27年度 (現在中学3年生)	88.4%	37.4%	59.2%	31.3%	53.7%	52.4%	74.1%	78.9%	75.5%	12.2%	15.0%	34.0%
増減	2.8%	+9.1%	0.5%	+1.7%	4.8%	+23.5%	+4.9%	+7.8%	+12.0%	1.0%	2.6%	13.2%



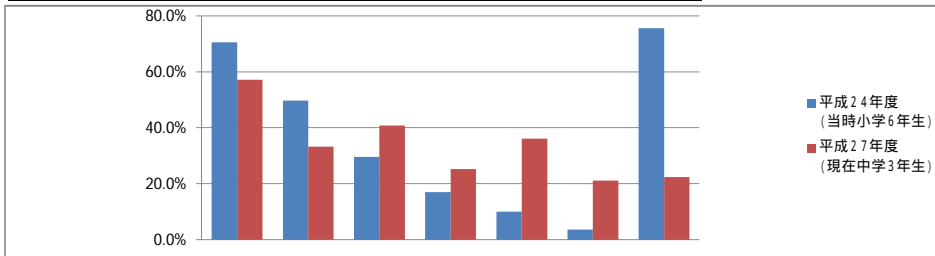
就寝・起床時刻、朝食摂取などから安定した生活習慣が身に付いていることが窺えます。朝食摂取が微減している状況注意が必要です。

成長とともに自己理解が進み、「自尊感情」が醸成されています。反面、自分の将来についての夢や目標が持てない生徒が増えている状況を踏まえると、キャリア教育の充実が必要と推察します。

「規則遵守」「いじめは何かがあってもよくない考える」などの設問から成長とともに「規範意識」の醸成が見受けられます。また「人の気持ちがわかる人間になりたい」「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒が増加しており、「思いやりの心」や「自己有用感」を求めている生徒が見受けられます。

「読書」関係に対する設問が全体的に減少傾向を示しています。小学校では巡回図書館の取り組みや読み聞かせ、朝読書の取り組みなど、児童レベルに合った図書整備が進んでいると推察します。中学校ではアンケート調査を実施しながら、生徒のニーズを捉え、生徒に合った図書の選書、図書環境の整備が必要です。

	平日2時間以上テレビ・DVDを見る	平日3時間以上テレビ・DVDを見る	平日2時間以上ゲームをする。	平日3時間以上ゲームをする。	平日2時間以上インターネットをする。	平日3時間以上インターネットをする。	携帯電話スマートフォンを持っていない
平成24年度 (当時小学6年生)	70.5%	49.7%	29.6%	17.0%	10.0%	3.7%	75.5%
平成27年度 (現在中学3年生)	57.1%	33.3%	40.8%	25.2%	36.1%	21.1%	22.4%
増減	13.4%	16.4%	+11.2%	+8.2%	+26.1%	+17.4%	53.1%

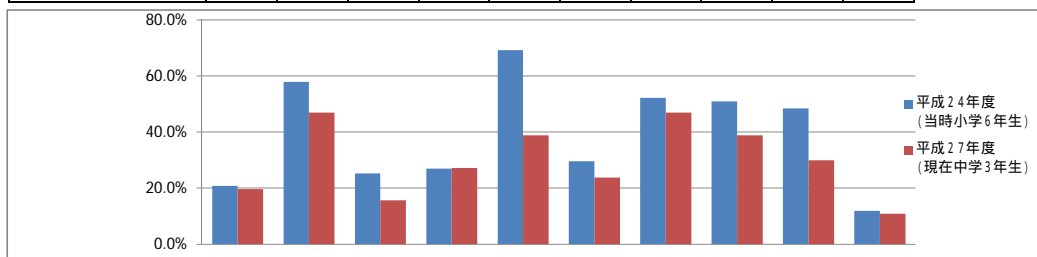


TV・DVDなどの視聴時間は減少しましたが、ゲームやインターネットを行う時間が増加し、視聴時間の減少率より多くなっています。

携帯電話やスマートフォンの所持率が78%になり、携帯電話やスマートフォンでインターネットやゲーム等を行っている生徒が増えていると推察されます。

TVの視聴時間や読書時間の減少分が、ゲームやインターネットの時間に使われ、家庭学習を全くしていない生徒が増えているものと推察されます。学校と家庭が連携し、家庭学習の定着を図る取り組みを継続して推進していく必要があります。

	国語は好き	国語は大切だ	国語の授業はよく分かる	算数(数学)は好き	算数(数学)は大切だ	算数(数学)の授業はよく分かる	理科は好き	理科は大切だ	理科の授業はよく分かる	理科や科学技術に関する職業に就きたい
平成24年度 (当時小学6年生)	20.8%	57.9%	25.2%	27.0%	69.2%	29.6%	52.2%	50.9%	48.4%	11.9%
平成27年度 (現在中学3年生)	19.7%	46.9%	15.6%	27.2%	38.8%	23.8%	46.9%	38.8%	29.9%	10.9%
増減	1.1%	11.0%	9.6%	+0.2%	30.4%	5.8%	5.3%	12.1%	18.5%	1.0%



各教科ともに「好き」「大切」「授業が内容はよくわかる」と答えていた割合が、小学生から中学生になると減少傾向を示しています。

学力調査の経年変化では総体的に学力は向上していると判断できますが、中学校の授業のスピードや難易度が上がり、わからないまま授業が進んでいる傾向が窺えます。より一層の授業の工夫改善が必要と思われます。

今後の教育委員会の改善方策

1 下位層の引き上げ

全国の下位から約25%と同じ正答数の範囲に含まれる当別町の児童生徒の割合は、全体の約3割から5割の児童生徒が含まれ、依然として多い状況です。下位層の引き上げに向けた施策の実施が必要です。引き続き土曜学習や放課後学習を実施するとともに、学校で実施している少人数指導や習熟度別指導、放課後の補習授業などの支援について検討していきます。また児童生徒にとって、よりわかりやすい授業を行うため、授業の改善工夫などの教職員の研修の充実を進めます。

2 ICT機器を活用した授業の拡大

授業の工夫改善としてICT機器の活用があります。効果的な場面でICTを活用し児童生徒の集中力を高め、時間の効率化を図り、学習効果を高める取り組みが必要です。教育委員会では平成27年度に電子黒板機能付きプロジェクター、書画カメラなどのICT機器を各学校に整備しました。

各学校は、ICT機器の有効な活用を研修するとともに、児童生徒のコミュニケーション能力を身につけるために、授業中での発表力やグループで話し合う能力を向上させるよう、学校での指導方法の工夫改善が求められています。

これらICT機器を有効活用に伴い、板書計画などの見直しなど、個々の教諭の指導力の向上が求められることから、教育委員会では、ICT機器活用の研修や助言をしていきます。

また活用状況調査を行うなど、一層のICT環境の充実について実施していきます。

3 一貫教育の推進

「学習がすき」「学習が楽しい」という気持ちを、成長過程に応じた学習指導を通じて、基礎学力の定着や学力向上を図るため、引き続き、小・中学校が連携し、教育課程に基づいた小中の一貫教育を推し進め、保護者や地域、関係機関と一体となって一貫教育を推進します。

また、一貫教育推進教諭を小学校に派遣するなど、教科担任制の検討を推進します。

4 家庭教育の啓発

教育委員会で発行している「当別町家庭教育の手引き」と町内各学校が発行している「家庭学習の手引き」により、引き続き家庭教育の啓発を進めます。

5 朝読書の継続

朝読書は、静かな雰囲気の中で、一日のスタートを切ることや、読書の習慣づけなど、さまざまな効果が期待できます。読書は、言葉への関心を高めるとともに、言葉によって考える人間の特性を生かし、感性を磨き、適切な言葉の表現、語彙を増やすことにつながれます。各学校では始業前の時間に小学校低学年では「読み聞かせ」や小学校中学年からは「個別読書」の時間を確保するなど、朝読書に取り組んでいます。引き続き推奨するとともに、各学校への指導助言を実施していきます。

学力・生活習慣の向上に向けた取組

この調査結果を基に、各学校では児童生徒がつまづき易い内容や、指導方法の工夫改善が必要な領域・分野について明確化し、今後、学校改善プランを作成し実行することになります。また、当別町教育委員会においても、各学校の指導方策を確実なものにするために、今後さまざまな支援を実施していきます。

【教育委員会による学校への主な支援】

(教員研修)

授業の工夫改善を推進するため、ICT環境の充実や、教員の活用研修を実施。
授業の工夫改善の研究など「当教研」の研究指定や各種事業に対する支援及び助言。
長期休業中に実施する教職員研修や、比較的教職経験の少ない初任者や期限付教員等の授業指導・課題研修の推進。

(指導方法工夫改善)

全国学力・学習状況調査の分析結果及び改善方策の提示。
TT(ティーム・ティーチング)や少人数・習熟度別指導など、個に応じた指導の工夫改善のため、教員の加配事業やSATなどの人的支援。
国際理解教育や英語教育を推進するため、継続的なALTの配置。
地域人材を活用した学校地域支援本部による学校活動への支援。
授業や学校経営など、学校教育指導員による指導及び助言。

(児童生徒への支援)

基礎学力定着に向けた、放課後学習及び土曜学習の実施。
普通教室に在籍する特別な支援が必要な児童生徒に対する、特別教育支援員の配置
図書館司書の配置。
スクールカウンセラーの派遣。

【学校の取組】

自校の教育課題解決のための教育課程の編成・実施・評価・改善の取組の推進。
本調査結果に基づく「学校改善プラン」の策定・実行・改善。
授業力向上を目指した「校内研修(学習規律やノート指導等)」や「OJT(職場内指導)」の充実。
学力向上のための9年間を見通した小・中学校の連携の推進。
潤いのある学習環境づくりのための、統一感ある掲示や教材教具の整備点検。
朝読書や朝学習等、授業以外の時間を活用した取組の充実。
「家庭学習の手引き」の活用による、宿題・課題など家庭学習の推進。
学校からの情報発信による、保護者や地域との協働、連携。
豊かな心を育むため、私たちの道徳を活用するなど、道徳教育の推進。
いじめを絶対に許さない規範意識や情報モラル指導等の今日的課題に対応した指導。
個性を伸ばし社会性を身につけるため、ボランティア活動や児童・生徒会活動の推進。
図書館司書を活用した学校図書館等、読書環境の充実。
スクールカウンセラーを活用した相談活動、相談体制の充実。

